はじめに

「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール（古文常識・作品常識含む）」**です。
この講座は、その一つである「文法」をきちんと学び終えた人が対象の講座です。
「文法」をまだ学習していない人は、先に『文法編』の講座を学習しましょう。

第一講は「入門編」として、**「重要単語」**、短文の**「品詞分解」**を扱います。
第二講～第十講は、学校でも扱うような有名な文章を用いて、
主語把握方法・会話文中の主語判断法などの**「読み方」**を学習しながら、**「読解練習」**をします。
「読解練習」をしながら、恋愛・出家・時刻などの**「古文常識」**、
古文を読むうえで知っておくべき藤原家の関係や、清少納言・紫式部について、さらに**「作品常識」**も学習します。
第十一講～第二十講は、いよいよ実際の入試問題を使用した**「実践演習」**です。
よって、本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけ学習する」という意味ではありません。
基本から説明をして、実際の大学入試問題（標準レベル）も解ける力がつくように構成してあります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

他レベルの読解編の講座との大きな違いは、

●各チャプター時間が短時間　〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように。〕

●入門編として「単語」にも焦点をあてて解説　〔どんな単語が大事なのか、また、覚えるコツなど。〕

●実践演習の前に、「読み方」を重視した「読解練習」を実施し、段階的に力を付ける構成

〔題材は、学校の授業でも扱うような有名な文章から取り上げました。学校の予復習にも最適。〕

●それらを踏まえた上で、実践演習にチャレンジ！

よって、最終的に身に着く力は、『高１・高２　古文〈読解編〉』と違いはありません。扱っている題材自体は違いますので、本講座が終わり、さらに演習問題を実施したい場合は、そちらの講座に取り組んでいただいてもかまいません（その場合、最初の方の講は簡単に感じると思いますので、解いた上で、先にテキスト解答を見て、全問正解であれば動画は飛ばすなど、臨機応変に取り組んでください）。

それでは、初見の文章を自力で読むことができるように、一緒に頑張りましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

第一講〜第十講までは**予習不要**です。

第十一講の**チャプター１**は**予習不要**ですが、**残りのチャプター**は、「予習する・しない」は好きな方を選択してください。

第十二講以降は、前回までに学習したことを踏まえて、**予習をしてください**。

ノートに本文を写すとか、そういう作業は一切不要です。

予習はテキストに直接書き込んでかまいませんので、辞書などは使わずに自力で解きましょう。

回数を重ねる度に、どんどん自力で自信をもって解けるようになっていくはずです！

第十二講以降に関しては、予習が終われば、なるべく時間をあけずに該当講座の動画を見て下さい。

時間が経ってしまうと、せっかく予習をしたのに、どんな話だったか、どうしてその解答を選んだのか忘れてしまうので、覚えている間に見ることが重要です。

あらかじめ板書している本文に、書き込みをしながら授業を進めていきます。

私が黒板に書くことを、テキストの本文に同じように（色は一色でも何色でも可）どんどん書き込んでください。

こちらも回数を重ねると、第十二講以降は、予習の段階で、自分で先に本文中に必要な印や記号がどんどん付けられるようになるはずです。そうなれば、自分が予習の段階で書いたものと、私が書いているものが同じかどうかという目線で動画を見るようにしてください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

講義を見終えたら、復習を必ずしましょう。「復習＝問題を解きなおす」のではなく、

①　講義の中でお伝えした**「読解ルール」**（**「古文常識」「作品常識」**を含む）を覚えこむ

②　本文に付けた**印や記号が、どういう根拠でつけたものな**のか、また**「主語」をどのように確定したのか**を再確認する

③　各講で触れた**「単語」**を覚える

この３点を重点的にしてください。

実践演習で間違えた問題があった場合は、「なぜ」間違えたのか、その原因になるところをきちんと潰していきましょう。

復習が終われば後ろにある「復習問題」も解きましょう。

ただし、『読解編』の講座ですので、単発問題の形式ですと、必然的に単語や文学史などの問題しか出題ができませんので、あくまでもそれらの確認にしかなりません。

「読解」が自力でできるようになるためには、さきほどの３点の復習に重点を置いてください。

そして「単語」の勉強もお忘れなく。

単語帳（学校指定のものでも、自分の好きな市販のものでもなんでもかまいません）を一冊しっかりと仕上げましょう！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　重要単語／品詞分解……p.6
第二講　主語把握方法⑴／指示語（『伊勢物語』すけるもの思ひ）……p.20
第三講　主語把握方法⑵（『古今著聞集』能は歌詠み）……p.30
第四講　挿入句（『平家物語』能登殿の最期）……p.37
第五講　古文常識「正装」／「恋愛」（『伊勢物語』初冠）……p.47
第六講　古文常識「出家」（『大鏡』花山院の出家）……p.60
第七講　「藤原家」（『大鏡』競べ弓／面を踏む）……p.71
第八講　「清少納言」と「紫式部」（『枕草子』中納言参り給ひて／『紫式部日記』清少納言）……p.79
第九講　古文常識「病気」／「死」（『源氏物語』葵）……p.88
第十講　古文常識「月の異名」「時刻」「方角」「建物」など（『方丈記』安元の大火）……p.100
第十一講　入試問題を解く手順／実践演習⑴『新花摘』……p.112
第十二講　実践演習⑵『栄花物語』……p.121
第十三講　実践演習⑶『源氏物語』……p.130
第十四講　実践演習⑷『発心集』……p.138
第十五講　実践演習⑸『古本説話集』……p.145
第十六講　実践演習⑹『堤中納言物語』……p.153
第十七講　実践演習⑺『白露』……p.161
第十八講　実践演習⑻『夜の鶴』……p.170
第十九講　実践演習⑼『讃岐典侍日記』……p.175
第二十講　実践演習⑽『平家物語』……p.181

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　重要単語／品詞分解

★「重要単語」をおさえる

●「古文特有語」＝現代語にはなく、古文で使われる単語。

（例）

かしづく【傅く】 動
❶大切に育てる
❷大切に世話をする

「かしづく」は「かしら（頭）を地につける（＝かしらづく）」からできた言葉だと考えられている。
それくらい相手に対して敬意をはらったということから**「大切に育てる」**、**「大切に世話をする」**という意味になる。
子供に対して使っているならば❶、大人に対して使っているならば❷。

うたてし 形
❶嘆かわしい
❷情けない

副詞「うたて」から派生してできた言葉。「うたて」の成り立ちは、「うたうた」➡「うたた【転】」➡「うたて」。
「うたた」の原義は**「物事が進行し続けて程度がはなはだしくなる」**。
副詞「うたて」は、**「自分の考えとは逆にどんどん異常に進みすぎる際の不快感」**の意味で使うようになる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ここから派生してできた形容詞が「うたてし」。そんな不快な状態が❶**「嘆かわしい」**し❷**「情けない」**のです。

関連
うたて　副…❶ますます　❷異様に　❸不快に・情けなく
うたてあり　連語…❶いやだ・嘆かわしい
うたてげなり　形動…❶異様な感じだ　❷いやな感じだ

くちをし【口惜し】　形

❶**残念だ**
❷**つまらない**
❸**卑しい**

「くちをし」は**「期待外れだったときの落胆・不満な様子」**が原義。「くちをし」の「をし」は「惜しい」。そういう落胆した気持ちが「くちをし」。期待したのにダメだったら、❶**「残念」**だし❷**「つまらない」**ですよね。あとは「残念な身分」＝「身分が低い」⬇❸**「卑しい」**という意味もある。

やむごとなし【止む事無し】　形

❶**捨ててはおけない**
❷**格別だ・並々ではない**
❸**高貴だ**

「止む事無し」＝**「やめることができない」**のです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

世話をしたり、面倒見たり、それをやめることができない⬇「ほうっておけない」ということ。
それが❶**「捨ててはおけない」**。**放置しておけない**ということ。
そして、それくらい大切なもの⬇❷**「格別だ」**や❸**「高貴だ」**の意味が生じた。

ゆかし【床し】 形
❶見たい・聞きたい・知りたい
❷心がひかれる・なんとなく慕わしい

動詞「行く（ゆ）」に対応する形容詞。**「心が進んで行く思い・心がひきつけられる」**が原義。
その惹かれる対象によって**「見たい」**、**「聞きたい」**、**「知りたい」**などに訳し分けているだけ。

● **「古今異義語」**＝現代語にも同じ単語はあるが、古文では意味がまったく違う単語。

（例）

あく【飽く】 動
❶満足する
❷あきあきする

現代語の「飽きる」は❷。
古文の「飽く」は、飽きてしまう前の「満足している状態」の⊕の意味でよく用います。
「満足する」状態が古語の「飽く」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

おどろく【驚く】 動
❶はっと気づく
❷目がさめる
❸びっくりする

「おどろく」は**「意外なことに出会い、心の平静を失う」**が原義。
「はっ」と気づいたとき＝心の目が「パッ」と大きくなるイメージ。
目が一番「パッ」って大きくなるのは「閉じた状態から開いた状態」➡**「目が覚め」**たとき。

にほふ【匂ふ】 動
❶美しく染まる
❷つややかに美しい
❸栄える
❹香る

漢字で「匂ふ」ですが、もともとは**「丹秀ふ」**でした。
「丹」＝赤い色、「秀」＝特に目立つところ。つまり**「丹秀ふ」**は**「赤色が目立つ」**の意味。
よって、私たちは「匂う」＝「嗅覚」で捉えますが、古文の時代では「匂ふ」＝まず**「視覚」**だと考えましょう。
美しく照り輝くようなのが「にほふ」です。

関連　にほひ**【匂ひ】**名…❶色が美しく映えること
❷かおり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いとほし **形**
❶かわいそう・気の毒だ
❷いやだ
❸いとしい・かわいい

「いとほし」は、動詞「いとふ**【厭ふ】**」（＝いやだと思う）や、形容詞「いたはし**【労し】**」（＝気の毒だ）から派生した言葉と言われている。**「かわいそうで見ているのがいやだ」**という気持ちが原義。

かげ【影】 **名**
❶光
❷姿・形

「かげ」の原義は**「光輝くもの」**。「月影」は「月の**光**」、「日影」は「太陽の**光**」。**❶「光」**があるから、ものの**❷「姿・形」**がわかる。「人影」は「人の**姿**」です。

やがて **副**
❶そのまま
❷すぐに

「やがて」の原義は**「状態・時間に隔たりがなく、引き続く様子」**。状態が**❶「そのまま」**、時間が**❷「すぐに」**です。
現代語と同じ「そのうち」という意味もあるが、重要なのは「現代語とは真逆」の意味！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●「漢字」で覚えておくと便利な単語

（例）

さはる【障る】 動

❶さしつかえる・さまたげられる

「**差し障り**（さしつかえ）」の「**障る**」。「障害物（コースに**さまたげ**がある）競争」などの「**障**」でもあります。

関連　さはり【障り】名…❶さしつかえ・さまたげ

うし【憂し】 形

❶つらい
❷いやだ

「**憂し**」は「**憂鬱**」の「**憂**」。憂鬱だと❶「**つらい**」し、❷「**いや**」ですね。

関連　こころうし【心憂し】形…❶つらい　❷いやだ

あてなり【貴なり】 形動

❶高貴だ
❷上品だ・優雅だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

関連
あてはかなり【貴はかなり】形動…❶高貴な様子、優美な様子
あてやかなり【貴やかなり】形動…❶高貴な様子、優美な様子
あてびと【貴人】名…❶高貴な人・上品な人

かたはらいたし【傍ら痛し】 形
❶みっともない
❷気の毒だ
❸恥ずかしい

「傍で見ていて痛い」＝❶**「みっともない」**が原義。
たとえば、横断歩道でおもいっきりコケた人を見たら❷**「気の毒」**ですね。それが、「自分」だったら❸**「恥ずかしい」**！

ところせし【所狭し】 形
❶場所が狭い
❷窮屈だ・気づまりだ
❸堂々としている
❹大げさだ・仰々しい

漢字で**「所狭し」**。❶**「場所が狭い」**が原義。心理的に「狭い」と感じる⬇❷**「窮屈だ・気づまりだ」**。
こちらが気詰まりに思ってしまうほど、相手が❸**「堂々としてい」**たり、❹**「大げさだ」**ったり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あきらむ【明らむ】 動
❶明らかにする・物事をよく見る・見極める

いらふ【答ふ・応ふ】 動
❶答える・返答する

関連　いらへ【答へ・応へ】名…❶返事・返答

ことわり【理】 名
❶道理
❷理由

❶「**道理**」と❷「**理由**」の「**理**」。「道理」とは「ものごとの正しい筋道」のこと。

関連　ことわりなり【理なり】形動…❶道理だ・もっともだ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★正しく品詞分解できることが重要（文法の復習）

（例）　言はではえこそあらぬものなれ。

問一　「留守ゆゑ、大納言殿を待ちもせられぬところへ…」の傍線部の品詞分解として正しいものを、次の中から選べ。

ア　待ち／も／せられ／ぬ
イ　待ち／も／せ／ら／れ／ぬ
ウ　待ちも／せら／れ／ぬ
エ　待ち／も／せ／られ／ぬ
オ　待ちもせ／られ／ぬ

問二　「そなたはこれを落とし給はぬか。」の傍線部の品詞分解として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞＋補助動詞＋助動詞＋助詞
イ　動詞＋補助動詞＋助動詞＋助動詞
ウ　動詞＋助動詞＋助動詞＋助詞
エ　動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
オ　動詞＋助詞＋助動詞＋助詞
カ　動詞＋助詞＋助動詞＋助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　「あゆみいでさせ給へば、ふとゐさせ給へりしこそ、…」の傍線部の品詞分解として正しいものを、次の中から選べ。

ア　副詞・動詞・助動詞・助動詞・補助動詞・助詞・助詞
イ　副詞・動詞・助動詞・補助動詞・助動詞・助動詞・助詞
ウ　動詞・助動詞・補助動詞・助動詞・助動詞・助詞
エ　形容詞・助動詞・補助動詞・助動詞・助詞・助詞

問四　「二人してになふてこそよかんめれ」の傍線部の品詞分解として正しいものを、次の中から選べ。

ア　形容詞語幹＋助動詞＋助動詞
イ　形容詞連体形＋助動詞
ウ　形容詞連体形＋助動詞＋助動詞
エ　形容詞語幹＋助動詞＋助詞
オ　形容詞連用形＋助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★現代語訳・解釈＝（傍線部の）「重要単語」・「文法」に注目する

〔例題〕「さらば、なにかは下らせたまふ」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　君がそのように思い悩んでいらっしゃるなら、どうして京をお離れになることがありましょうか。
イ　君はそのように思い悩んでいらっしゃるのに、どうして私だけ行かせようとなさるのでしょうか。
ウ　私はそのように思い悩んでおりますけれど、どうして君を京にお残しすることができましょうか。
エ　私がそのように思い悩むことがあったとしても、どうして君をお連れすることがありましょうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五「うちおどろきたれば、うたてくて寝たりつる人一人もなし」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　火事だとびっくりして、明らかに寝ていた人は一人もいない
イ　火の粉が飛んでいることにきづくと、予想外に寝ていた人は一人もいない
ウ　ふと目を覚ましたところ、情けなく寝ていた人は一人もいない
エ　そばの人を起こそうとすると、ぐっすり寝ていた人は一人もいない

問六「なかなか黄泉路のさはりともなりぬべし」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　けっして極楽往生の妨げとなってはならない。
イ　めったに現世への未練が強くなることはあるまい。
ウ　むしろ自分の運命を強く自覚させてしまうはずだ。
エ　死ぬ覚悟の中途半端さがより一層際立ってしまうだろう。
オ　かえって死出の旅に赴く妨げとなってしまうに違いない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①「いとほしければ」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　愛すべき言い方だったので　　イ　厚かましかったので
ウ　気の毒だったので　　エ　感心したので

②「所せくこそ」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　仰々しくて　　イ　安っぽくて
ウ　不釣り合いで　　エ　珍しくて

③「あてになつかしう」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どこか懐かしく　　イ　じつにあどけなく
ウ　予想外に親しみやすく　　エ　高貴で近寄りがたく
オ　上品で心ひかれ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「待ちうけ給ふこともあるまじければ、さやうに…」の傍線部の品詞分解として正しいものを、次の中から選べ。

ア　あるまじ／けれ／ば　　イ　ある／まじ／けれ／ば

ウ　あるま／じ／けれ／ば　　エ　ある／まじけれ／ば

オ　ある／まじけ／れ／ば

⑤「こちはえまゐるまじ。」の傍線部の品詞分解として正しいものを、次の中から選べ。

ア　え／まゐる／まじ　　イ　えまゐる／まじ

ウ　え／まゐるまじ　　エ　え／まゐるま／じ

オ　えまゐるま／じ

⑥「心やすき事もなかんめるを、尼になりて…」の傍線部の品詞分解として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞＋形容詞＋助動詞＋助動詞＋接続助詞

イ　係助詞＋形容詞＋助動詞＋接続助詞

ウ　間投助詞＋形容詞＋助動詞＋助動詞＋間投助詞

エ　間投助詞＋形容詞＋助動詞＋助動詞＋接続助詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　主語把握方法(1)／指示語(『伊勢物語』　すけるもの思ひ)

〈主語把握方法〉

① 人物、

＊あくまで「が」になることが「多い」。「や」や「を」になる時もある。

② **接続助詞**のルール

〜「　　」「　　」「　　」、〜 ⬇ 主語は「　　」ままが多い。

〜「　　」「　　」「　　」、〜 ⬇ 主語は「　　」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※「を」「に」「ば」で、前後の主語が同じ場合が多いとき

「　　　　」＋を／に／ば、～

「　　　　」＋を／に、～

③ **同一表現**

同じような表現の主語は一致する場合が多い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉

昔、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、思ひもぞつくとて、この女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、まだ追ひやらず。

●けしうはあらず【怪しうはあらず・異しうはあらず】

❶（身分・容姿・才能・性質などが）

❷不自然ではない

●さかし【　　】

❶賢い

❷すぐれている

❸しっかりしている

❹

●さかしら【賢しら】

❶りこうぶること

❷

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★指示語

「　　」＝こう・このように

「　　」｝＝そう・そのように
「　　」

※指示内容＝「　　　」を指すことが多い。
（後ろに和歌がある場合は、後ろの和歌を指すことが多い。）

かか＋｛ら／り／る／れ｝＝「　　」＋あり

さ＋｛ら／り／る／れ｝＝「**さ**」＋あり

しか＋｛ら／り／る／れ｝＝「**しか**」＋あり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

人の子なれば、まだ心いきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。女もいやしければ、すまふ力なし。さる間に、思ひはいやまさりにまさる。にはかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、と
どむるよしなし。

●いやし【卑し・賤し】

❶
❷みすぼらしい
❸下品だ

●すまふ

❶【　　　　】
❷【　　　　】辞退する・ことわる

●にはかなり【俄なり】

❶

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●よし【　】
❶由緒・由来　❷　❸理由
❹風流　❺〜とのこと　❻縁・ゆかり
❼そぶり

★「逆接」を利用する

男、血の涙を流せども、…

率て出でて往ぬ。男、泣く泣く詠める、

出でていなばたれか別れの難(かた)からむありしにまさる今日は悲しも

と詠みて、絶え入りにけり。

●かたし【　】
❶難しい　❷めったにない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

親あわてにけり。なほ思ひてこそいひしか、いとかくしもあらじと思ふに、真実に絶え入りにければ、惑ひて願立てけり。今日の入相ばかりに絶え入りて、またの日の戌の時ばかりになむ、からうじて生き出でたりける。

昔の若人は、さるすける物思ひをなむしける。今の翁、まさにしなむや。

（『伊勢物語』）

●**すく【好く】**
❶好色である
❷風流である

関連　すき【好き】❶色好み　❷風流の道に心を寄せること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★『**伊勢物語**』

ジャンル…**歌物語**

成立…十世紀中頃

●各章段の冒頭は**「昔、男ありけり」**（あるいは、「昔、男」）で始まる。

●「男」＝「　　　　　　　」（**在五中将**（ざいごちゅうじょう））とされている。

●「初冠（ういこうぶり）」から「辞世の歌」までの全一二五段から成る、男（業平）の一代記。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

①　「隣<u>さかしら</u>するまでふすべかはして」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　気配りをする
イ　上手な歌を作る
ウ　恐れ多い真似をする
エ　でしゃばったことをする

②　「思ひもぞつくとて」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　女は一途な思いなど実はないのだろうと
イ　親の思いも無視するだろうと
ウ　若い男の思いもその時かぎりだろうと
エ　きっと女の策略だと思って
オ　女に対する思いが強くなると困ると思って

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「いでていなば」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私が連れて出て行くので
イ　もし自分から女が出て行くのならば
ウ　女が出て行ってしまうので
エ　もし女が出て行かないのならば

④「まさり[a]にまさる」と「絶え入り[b]にけり」の傍線部ａ・ｂ「に」の文法的説明の組合せとして正しいものはどれか。次の中から選べ。

ア　（ａ）格助詞　（ｂ）完了の助動詞「ぬ」の連用形
イ　（ａ）完了の助動詞「ぬ」の連用形　（ｂ）格助詞
ウ　（ａ）接続助詞　（ｂ）完了の助動詞「ぬ」の連用形
エ　（ａ）完了の助動詞「ぬ」の連用形　（ｂ）接続助詞
オ　（ａ）接続助詞　（ｂ）断定の助動詞「なり」の連用形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　主語把握方法⑵（『古今著聞集』　能は歌詠み）

〈主語把握方法〉

④　敬語を使う（地の文でのルール）

●**尊敬語**を使用しているとき
　主語は（作者にとって）「　　　　　　　」

●**最高敬語**を使用しているとき
　主語は「　　　　　　　」
　（天皇・中宮（ちゅうぐう）・東宮（とうぐう）などの**皇族**や、左大臣などの**権力者**）

※一度敬意を払った人物には、（基本的には）敬意を払い続ける。
まれに使用したり使用しなかったりする場合〔＝敬語の不一致〕もあるので注意。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉

花園の左大臣の家に、初めて参りたりける侍の、(注)名簿のはしがきに、「能は歌詠み」と書きたりけり。大臣、秋の初めに南殿に出でて、(注)はたおりの鳴くを愛しておはしましけるに、暮れければ、「下格子に人参れ。」と仰せられけるに、「(注)蔵人の五位たがひて、人も候はぬ。」と申して、この侍参りたるに、「ただ、さらば、汝下ろせ。」と仰せられければ、(注)参りたるに、…

（注）名簿…官位、姓名、月日などを記入した名札。弟子や家人として入門したり、出仕したりする時、提出する。
はたおり…秋に鳴く虫。今のキリギリスかという。
蔵人の五位…六位の蔵人が五位に昇ったが、五位の蔵人に欠員がないため、昇殿を許されない人。ここでは、「大臣の側近としてそういう者が仕えていた」ということと考えられる。
参りたるに…ここでは「御格子参りたるに」の意味。「御格子参る」は、貴人の部屋の格子を上げること、もしくは、下げること。ここでは「下ろす」。

★ **「会話文」の主語**（＝会話主）
⬇ **」の直後の「　　　　」**の有無を確認する。ある場合は、種類を確認すること。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★　Aが「　　」｛を／～に／ば｝、～

「汝は歌詠みな。」とありければ、かしこまりて御格子下ろしさして候ふに、「このはたおりをば聞くや。一首つかうまつれ。」と仰せられければ、「青柳の」と、初めの句を申し出だしたるを、候ひける女房たち、折に合はずと思ひたりげにて、笑ひ出だしたりければ、「ものを聞き果てずして笑ふやうやある。」と仰せられて、「とくつかうまつれ。」とありければ、

　青柳のみどりの糸をくりおきて夏へて秋ははたおりぞ鳴く

と詠みたりければ、大臣、感じ給ひて、萩織りたる御直垂を、押し出だして賜はせけり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「会話文」の中の主語

●**尊敬語**を使用⬇「　　　　」

●**命令形**を使用⬇「　　　　」

●それ以外⬇「　　　」

＊「言わなくてもわかる第三者」の場合もあるので注意！

★「青柳のみどりの糸をくりおきて夏へて秋ははたおりぞ鳴く」

●「　　　」＝通常「　　　」音で特定の語を導く。訳さない。

●「　　　」＝一つの語（音）に二つ以上の意味が含まれている技法。

●「　　　」＝歌の中の中心的な名詞に関連の深い語を詠み込む技法。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(注)寛平の歌合に、「初(はつ)(注)雁(かり)」を、(注)友則、

春霞かすみていにしかりがねは今ぞ鳴くなる秋霧の上に

と詠める、左方にてありけるに、五文字を詠みたりける時、右方の人、声々に笑ひけり。さて次の句に、「かすみていにし」と言ひけるにこそ音もせずなりにけれ。同じことにや。

（『古今著聞集』）

（注）寛平の歌合…宇多天皇在位中の寛平年間（八八九～八九八）に開催された歌合。
雁…鳥「ガン」の異称。ガンは渡り鳥で、秋に日本に飛来し越冬する。春に北方に帰る鳥。
友則…紀友則。『古今和歌集』の撰者の一人。生没年未詳。

●「歌合」とは？

左右二つの組に分けて、決められた題を詠んだ歌を一首ずつ出して優劣を競う遊び。
判者(はんじゃ)〔＝審判〕が「勝・負・持〔＝引き分け〕」を判定して勝負を競う。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　復習問題

① 次の中から、発話者が「天皇」であると考えられるものを一つ選べ。

ア 「〜」と言ふ。
イ 「〜」と申す。
ウ 「〜」と仰す。
エ 「〜」と奏す。

② 「いとかくつれづれにながめたまふらむを」は、宮が女に対して発した言葉であるが、この言葉の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア このように二人で連れ立っていろいろなところを見て回りたいものですねえ。
イ このように二人寄り添いながらこれからのんびりと過ごしていきたいものですねえ。
ウ このようにひどく所在なくもの思いをしてお暮らしになっているのでしょうねえ。
エ このように特にすることがない時には、あなたをぼんやり見ていたいものですねえ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「うしみつ」は「丑三つ」と「憂し見つ」の、「ね」は「子」と「寝」の両方の意味を表している。このような和歌の技巧を何というか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　縁語　　イ　掛詞　　ウ　序詞　　エ　対句　　オ　枕詞

④「忘れてもまた手にとらじあづさ弓もとの家路をひき離れては」の歌の表現について述べた次の文の□に入る語を後の中から選べ。

「あづさ弓」は、万葉集の時代に流行した□と呼ばれるもので、後の「もと」「ひき（引き）」を導く働きをしている。

ア　歌枕　　イ　序詞　　ウ　本歌取り
エ　枕詞　　オ　比喩

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　挿入句（『平家物語』　能登殿の最期）

★挿入句＝作者の意見・考えや疑問

〜、…疑問語…推量（連体形）、〜

〜、…にや、〜

〜、…にか、〜

（例）世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くはみな虚言(そらごと)なり。

※文の出だしが挿入句になっている場合もある。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉

およそ（注）能登守教経（のとのかみのりつね）の矢先にまはる者こそなかりけれ。（注）矢だねのあるほど射尽くして、今日を最後とや思はれけん、赤地の錦（にしき）の直垂（ひたたれ）に、唐綾（からあや）（注）縅（をどし）の鎧着て、（注）いかものづくりの大太刀抜き、白柄（しらえ）の大長刀（なぎなた）の鞘をはづし、左右（さう）に持つてなぎ回り給ふに、面（おもて）を合はする者ぞなき。多くの者ども討たれにけり。

（注）新中納言、使者を立てて、「能登殿、いたう罪な作り給ひそ。さりとて、よき敵か。」とのたまひければ、「さては、（注）大将軍に組め（注）ごさんなれ。」と心得て、（注）打物（注）茎短（くきみじか）に取つて、源氏の舟に乗り移り乗り移り、をめき叫んで攻め戦ふ。

（注）能登守教経…平教経。平家一門の武将。平清盛の弟教盛の次男。
矢だね…「矢種」。手もとにある矢。
縅…鎧の鉄（または皮）で作った小さい板を糸などでつづったもの。
いかものづくり…太刀のこしらえが、いかめしく作ってあること。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

新中納言…平知盛。平家一門の武将。平清盛の四男。
大将軍…ここでは敵（源氏）の大将である「源義経〔＝判官〕」のこと。
ごさんなれ…「にこそあるなれ」の転。
打物…鉄を打って鍛えた武器。刀・長刀など。
茎短に…刀などの柄を、刀に近い方で握ること。敵に接近して確実に切り倒すための持ち方。

判官（はうぐわん）を見知り給はねば、物の具のよき武者をば判官かと目をかけて、馳せ回る。判官も先に心得て、おもてに立つやうにはしけれども、とかく違ひて能登殿には組まれず。されども、いかがしたりけん、判官の舟に乗り当たつて、あはやと目をかけて飛んでかかるに、判官かなはじとや思はれけん、長刀脇にかい挟み、味方の舟の二（注）丈ばかり退（の）いたりけるに、ゆらりと飛び乗り給ひぬ。能登殿は、早業や劣られたりけん、やがて続いても飛び給はず。今はかうと思はれければ、太刀、長刀海へ投げ入れ、甲（かぶと）も脱いで捨てられけり。

（注）丈…単位。一丈＝約三メートル。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

鎧の（注）草摺（くさずり）かなぐり捨て、胴ばかり着て（注）大童（おほわらは）になり、大手を広げて立たれたり。およそ（注）あたりをはらつてぞ見えたりける。恐ろしなんどもおろかなり。能登殿大音声（だいおんじやう）を上げて、「我と思はん者どもは、寄つて教経に組んで生け捕りにせよ。鎌倉へ下つて、頼朝に会うて、ものひとこと言はんと思ふぞ。寄れや寄れ。」とのたまへども、寄る者一人（いちにん）もなかりけり。

（注）草摺…鎧の胴のすそに垂らして、腰から下をおおう部分。
大童…髪を束ねずばらばらのまま垂らしたざんばら髪。乱れ髪で奮戦するさまにいうことが多い。
あたりをはらつて…周囲を圧倒して。

●おろかなり【疎かなり・愚かなり】

❶・いいかげんだ

❷未熟だ・劣る

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●**いふもおろかなり【言ふもおろかなり】**

❶言っても言い尽くせない・言うまでもない

同

〜もおろかなり

いへばおろかなり【言へばおろかなり】

いふべきかたなし【言ふべき方無し】

＊かた＝方法

いふべきにもあらず【言ふべきにも有らず】

いふべくもあらず【言ふべくも有らず】

いふばかりなし【言ふばかり無し】

●**いへばさらなり【言へば更なり】**

❶今さら言うまでもない・もちろんのことだ

同

いふもさらなり【言ふも更なり】

さらなり【更なり】

さらにもいはず【更にも言はず】

さらにもあらず【更にもあらず】

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ここに、土佐の国の住人、（注）安芸郷（あきがう）を知行しける安芸（注）大領（だいりやう）実康（さねやす）が子に、安芸太郎実光（さねみつ）とて、三十人が力持つたる大力（だいぢから）の剛（かう）の者あり。我にちつとも劣らぬ郎等（らうどう）一人、弟（おとと）の次郎も普通には優れたるしたたか者なり。安芸太郎、能登殿を見（注）たてまつて申しけるは、「いかに猛（たけ）うましますとも、我ら三人取りついたらんに、たとひ丈（たけ）十丈の鬼なりとも、などか従へざるべき。」とて、主従三人小舟に乗つて、能登殿の舟に押し並べ、「えい。」と言ひて乗り移り、甲の（注）錣（しころ）をかたぶけ、太刀を抜いて、一面に討つてかかる。

（注）安芸郷…土佐の国の郷の名前。現在の高知県安芸市のあたり。
大領…長官。
たてまつて…「たてまつりて」の促音便「たてまつつて」のつづまった形。
錣…兜の鉢の左右と後ろにたれて、首の部分を覆うもの。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

能登殿ちつとも騒ぎ給はず、真つ先に進んだる安芸太郎が郎等を、裾を合はせて、海へ（注）どうど蹴入れ給ふ。続いて寄る安芸太郎を、弓手（ゆんで）の脇に取つて挟み、弟の次郎をば馬手（めて）の脇にかい挟み、ひと絞め絞めて、「いざ（注）うれ、さらばおのれら死出の山の供せよ。」とて、生年（しやうねん）二十六にて海へ（注）つつとぞ入り給ふ。

（『平家物語』）

（注）どうど…どっと。どすんと。
うれ…身分の低い者を呼ぶときに使う。きさま。おまえら。
つつと…すっと。

●弓手＝弓を持つほうの手⬇「　　　」

●馬手＝馬の手綱（たづな）を持つほうの手⬇「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**『平家物語』**

ジャンル…**軍記物語**

成立…**鎌倉前期**成立。

●**平家一門の繁栄と滅亡**を描いたもの。**仏教的無常観**。

●〈冒頭文〉

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者も遂には滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。」

祇園精舎の鐘の音は、すべてのものは流転して永遠などありえないという響きがある。娑羅双樹の花の色は、盛んなものは必ず衰えるという道理を表している。奢りたかぶっている人も長くは続かない、まるでまさに（短い）春の夜の夢のようである。勢いの盛んな者も結局は滅びてしまう、まったく（すぐに吹き飛ばされてしまう）風の前の塵と同じようなものである。

※祇園…インドにある僧院。
　精舎…僧の宿舎。
　娑羅…樹木の名前。

●「**平曲**」＝**盲目の琵琶法師**が琵琶に合わせて『平家物語』を語った音曲。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

①　「泣きかなしむといへばおろかなりや」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　泣き悲しむといってもそれはあまりにも大げさだ。
イ　ことばでは言いようもないほどに泣き悲しむのであった。
ウ　今になって泣き悲しんでもそれは無駄なことであった。
エ　仏教の立場からすれば人の死を悲しむのは愚かなことだった。
オ　女房が身分の高い女御の死を悼むのは慎むべきことであった。

②　「こともおろかなり」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　言うまでもないことだ
イ　事前の準備が不十分なことだ
ウ　この上なく無知なことだ
エ　どうにも不都合なことだ
オ　特に思慮が足りないことだ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「いへばさらなり」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　もとより言うまでもない
イ　取るに足らないことだ
ウ　言葉にすれば嘘になる
エ　どうにでもなることだ

④『平家物語』のジャンルは何か。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　歌物語
イ　伝奇物語
ウ　説話
エ　軍記物語
オ　歴史物語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

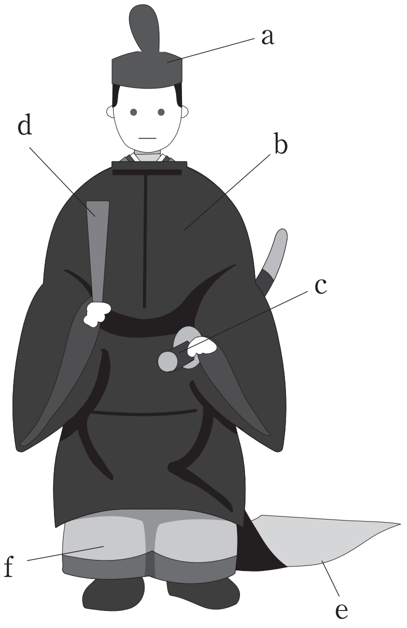
第五講　古文常識「正装」／「恋愛」（『伊勢物語』　初冠）

〈読解練習〉

昔、男、初冠（うひかうぶり）して、平城（なら）の京、春日の里に、しるよしして、狩りに往にけり。

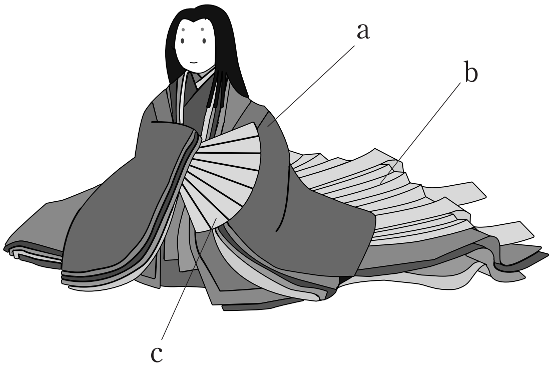
★初冠＝**男子**が成人して、初めて冠をつける儀式（いわゆる「　　　　」）。「　　　　」「冠」とも。
十二歳〜十六歳くらいに行った。

★裳着（もぎ）＝**女子**が成人して、初めて裳を着る儀式。十二歳〜十四歳くらいに行った。
「髪上げの儀式（髪を後ろで束ねてたらす髪型にする儀式）」も同時に行う。



a　冠
b　袍
c　太刀
d　笏（しゃく）
e　裾（きょ）
f　袴

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。



a 唐衣（からぎぬ）
b 裳（も）
c 扇

●しる

❶【　　・　　】治める・領有する

❷【知る】理解する

❸【知る】世話をする

❹【知る】交際する

●よし【　　】

❶由緒・由来　❷手段・方法　❸理由

❹風流　❺～とのこと　❻

❼そぶり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その里に、いとなまめいたる女はらから住みけり。この男、かいま見てけり。

●なまめく【艶く】

❶若々しく美しい
❷優美だ・上品だ
❸物静かで落ち着いている
❹色っぽくふるまう

関連　なまめかし【艶かし】❶若々しい　❷優美だ　❸色っぽい

●はらから【同胞】

❶母親が同じ**兄弟姉妹**。転じて、一般に兄弟姉妹。

★かいまみ【垣間見】＝物のすき間からこっそり**のぞき見ること**。

関連　かいまみる【垣間見る】❶物のすき間からこっそりとのぞき見る

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈恋愛作法〉①

出会い　**「垣間見」**

貴族の女性は、基本的に部屋の中で過ごす。
男性に姿を見られないように、**御簾**（みす）（すだれ）や**几帳**（きちゃう）（つい立て）の奥にいる。

⬇

アプローチ　**「懸想文」**（けさうぶみ）＝「　　　」

手紙の中に「和歌」必須。基本的には使者に持って行かせる。
直接女性には渡さず、女性にお仕えしている女房に渡してもらうようにお願いする。

⬇

女性もＯＫの場合⇓**「返歌」**がある

お断りの返歌をする女性もいるが、無視されるよりはマシ。

女性が断固拒否の場合⇓「無視」

見向きもせずに、受け取ることすら拒否する場合も。

⬇

交際開始　**「文のやりとり」**

男性が、女性からの返歌に感動して、文のやりとりが開始されたら交際スタートと考えてよい。

★貴族女性の必須教養＝「　　　」「　　　」「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

思ほえず、ふる里に、いとはしたなくてありければ、心地惑ひにけり。男の、着たりける狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。その男、（注）しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

春日野の若紫のすりごろもしのぶの乱れ限り知られず

となむ（注）追ひつきて言ひやりける。ついでおもしろきことともや思ひけむ。

（注）しのぶずり…摺り衣（すりごろも）〔山藍や露草などの汁を染料として模様をすり出した衣服〕の一種。今の福島県信夫（しのぶ）郡から産出される忍草の茎や葉で、乱れた模様を布に摺りつけたもの。
追ひつきて…すぐさま。

●ふるさと【古里・故郷】
❶旧都
❷生まれ故郷
❸以前に住んでいた土地・古いなじみの地

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●はしたなし【端なし】
❶中途半端だ・不釣り合いだ
❷体裁が悪い・みっともない
❸そっけない
❹（雨などが）はげしい

●ついで【序】
❶物事の順序・次第
❷機会

★「やる」↕「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

陸奥の（注）しのぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに

といふ歌の（注）心ばへなり。昔人は、かく（注）いちはやきみやびをなむしける。

（『伊勢物語』）

（注）しのぶもぢずり…「しのぶずり」に同じ。
心ばへなり…ここでは「心持ち・趣意を取り入れたものである」の意味。
いちはやき…情熱的な。

●V＋そむ【　　　】＝～しはじめる。

★**「六歌仙」**＝平安時代初期の歌の名人六人の称。

大伴黒主（おおとものくろぬし）・在原業平・文屋康秀（ふんやのやすひで）・僧正遍昭（そうじょうへんじょう）・小野小町・喜撰法師（きせんほうし）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈恋愛作法〉②

あふ【会ふ・逢ふ・合ふ】「深い関係になる」

男性が夜に女性の部屋に逢いに行く。

朝、明るくなりきる前〔鳥の鳴き声が合図〕に帰るのがマナー。

↓

逢った後、手紙必須　**「後朝の文」**（　　　　のふみ）

帰り道か帰宅後（早ければ早いほど愛情と誠実さの証）、手紙を女性に送るのがマナー。

↓

「結婚」の手続き　男性が女性の部屋に**三日連続で通えば結婚成立**

女性にとって、三日目に男性が来るか来ないかは超重要事項！

↓

親への紹介　**「所顕し（ところあらはし）」**

三日目の朝は帰らずに、そのまま女性の親に対面して挨拶。結婚したことを披露する。

↓

結婚形態　**「通ひ婚」**が多い

男性が女性の家に通う結婚形態（「　　　　」のため）が多い。

ただし、現代と同じように一番特別な女性とは同居している場合もある。

※三年連続で通ってこなければ「離婚成立」と見なされた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「恋愛」系の単語

＊多義語の場合も、ここでは「恋愛」系の意味のみ掲載しているので要注意！

●よばふ【呼ばふ】
求婚する

●あふ【会ふ・逢ふ・合ふ】
男女が深い関係になる
結婚する

●あはす【合はす】
夫婦にする・結婚させる

●みる【見る】
男女が深い関係になる
夫婦となる・妻とする

●みゆ【見ゆ】
（女性が）結婚する・妻となる

●みす【見す】
とつがせる・結婚させる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●かたらふ【語らふ】
男女が言い交わす

●かよふ【通ふ】
男性が女性のもとへ行く

●すむ【住む】
夫として女性のもとに通う

●ちぎる【契る】
夫婦の関係を結ぶ

●ちぎり【契り】
因縁
男女・夫婦の縁

●ちぎりをむすぶ【契りを結ぶ】
男女が深い関係になる

●そでをむすぶ【袖を結ぶ】
男女が深い関係になる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●さるべきにや（ありけむ）
そうなるはずの宿縁だったのであろうか

●よのなか【世の中】
男女の仲・夫婦仲

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　復習問題

①「京に具覚房とてなまめきたる遁世（とんせい）の僧…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　よく知られた
イ　上品な
ウ　悩ましい
エ　力のある
オ　分別のある

②「昼ははしたなき心地して、暮れてそのぼる。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　腹立たしい気持ち
イ　不思議な気持ち
ウ　愉快な気持ち
エ　みっともない気持ち
オ　待ち遠しい気持ち

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

（注）継母なりし人は、宮仕へせしが下りしなれば、思ひしにあらぬことどもなどありて、世の中うらめしげにて、ほかにわたるとて～（以下省略）

注　継母…作者の父孝標の妻として共に東国に下ったが、帰京後、離別した。

ア　夫婦仲　　イ　世間　　ウ　現世
エ　時代　　オ　人間関係

④　「小野小町」は『古今和歌集』序で言及されている六歌仙のひとりとされているが、この六歌仙には他に誰がいるか。該当する人物をひとり、次の中から選べ。

ア　紀貫之　　イ　在原業平　　ウ　清少納言
エ　藤原定家　　オ　大伴家持

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　古文常識「出家」(『大鏡』　花山院の出家)

〈読解練習〉

(花山天皇は) 永観二年八月二十八日、位につかせ給ふ。御年十七。寛和(かんな)二年丙戌(ひのえいぬ)六月二十二日の夜、あさましく候ひしことは、人にも知らせさせ給はで、みそかに花山寺(くわさんじ)におはしまして、御出家(ごすけ)入道せさせ給へりしこそ。御年十九。世を保たせ給ふこと二年。その後二十二年おはしましき。

●あさまし

❶驚きあきれる
❷嘆かわしい・情けない
❸ひどい

●みそかなり【密かなり】

❶こっそり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「出家」＝世俗の生活を捨てて、仏門に入る（お坊さんになる、尼さんになる）こと。

●「出家する」の意味を表す語1～3

1…「世」（＝今、生活している「俗世間」）が嫌で、そこから逃げ出したいために「出家する」というところから、世を㊀＝「出家する」の意味になる語。

世(よ)を
- いづ【出づ】
- いとふ【厭ふ】
- かる【離る】（「はなる」とも）
- すつ【捨つ】
- そむく【背く】
- のがる【遁る】

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2…出家をすると、服装や髪形などの見た目が変わる。**「見た目が変わる」**＝**「出家する」**の意味になる語。

さまをかふ【様を変ふ】
かたちをかふ【形を変ふ】
かしらおろす【頭下ろす】…「頭髪をそる＝剃髪する」という意味➡**「出家する」**
みぐしおろす【御髪下ろす】…「みぐし」は「髪の敬称」。同じく「剃髪する」➡**「出家する」**
やつす【窶す】…「みすぼらしく姿を変える」➡**「出家する」**という意味。ただし、そのまま**「みすぼらしく、目立たないように姿を変える」**という意味で使用する場合もあるので注意。

3…**「真の道＝仏道」**、**「発心＝仏教心を起こす」**を用いた語。

まことのみちにいる【真の道に入る】
ほっしんす【発心す】

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あはれなることは、おりおはしましける夜は、（注）藤壺の上の御局の小戸（こど）より出でさせ給ひけるに、（注）有明の月のいみじく明かかりければ、「（注）顕証（けんしょう）にこそありけれ。いかがすべからむ。」と仰せられけるを、「さりとて、とまらせ給ふべきやう侍らず。（注）神璽（しんし）・宝剣（ほうけん）渡り給ひぬるには。」と、（注）粟田殿（あはたどの）の騒がし申し給ひけるは、まだ帝出でさせおはしまさざりけるさきに、手づから取りて、（注）春宮の御方に渡し奉り給ひてければ、帰り入らせ給はむことはあるまじく思して、しか申させ給ひけるとぞ。

（注）　藤壺の上の御局…清涼殿〔＝天皇が昼間いる部屋〕の北側にある部屋。
有明の月…夜が明けようとする頃に、月がまだ空に残っている状態。また、その月。
顕証なり…はっきりしていること。あらわであること。
神璽・宝剣…皇位継承の印の「三種の神器」のうちの二つ。
粟田殿…藤原道兼。蔵人として、花山天皇に仕えていた。藤原兼家の三男。
春宮…ここでは円融天皇の第一皇子の懐仁（やすひと）親王のこと。藤原兼家の孫にあたる（母親が兼家の娘）。

★**「春宮」**（＝「　　　　　」）＝「　　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さやけき影を、まばゆく思し召しつるほどに、月の顔にむら雲のかかりて、少し暗がりゆきければ、「わが出家は成就するなりけり。」と仰せられて、歩み出でさせ給ふほどに、（注）弘徽殿（こきでん）の女御の御文の、日ごろ破（や）り残して御身も放たず御覧じけるを思し召し出でて、「しばし。」とて、取りに入りおはしましけるほどぞかし、粟田殿の、「いかにかくは思し召しならせおはしましぬるぞ。ただ今過ぎば、おのづから障りも出でまうで来（き）なむ」と、（注）そら泣きし給ひけるは。

（注）弘徽殿の女御…ここでは花山天皇が寵愛された藤原忯子（しし）のこと。この前年に懐妊中に亡くなった。
そら泣き…うそ泣き。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●かげ【影・景】
❶
❷

●まばゆし【眩し・目映ゆし】
❶まぶしい
❷光り輝くほど美しい
❸恥ずかしい
❹目をそむけたいほど程度がひどい

ひごろ【日頃】
●つぎごろ【月頃】
としごろ【年頃】
＝
日
ヶ月
年

●おのづから【自ら】
❶自然と
❷たまたま・偶然
❸ひょっとして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さて、(注)土御門（つちみかど）より東（ひむがし）ざまに率て出だし参らせ給ふに、(注)晴明（せいめい）が家の前を渡らせ給へば、自（みづか）らの声にて、手をおびたたしく(注)はたはたと打ちて、「帝おりさせ給ふと見ゆる天変ありつるが、すでになりにけりと見ゆるかな。参りて奏せむ。車に(注)装束（さうぞく）疾（と）うせよ。」と言ふ声聞かせ給ひけむ、さりともあはれには思し召しけむかし。「(注)かつがつ、(注)式神（しきがみ）一人内裏に参れ。」と申しければ、目には見えぬものの、戸を押し開けて、(注)御後ろをや見参らせけむ、「ただ今、これより過ぎさせおはしますめり。」といらへけりとかや。その家、(注)土御門町口（まちぐち）なれば、御道なりけり。

(注)　土御門より東ざまに…土御門大路を通って東の方向へ。
晴明…安倍晴明。陰陽師。天文博士。
はたはたと…ぱちぱちと。
装束…ここでは「支度・準備」の意味。
かつがつ…とりあえず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

式神…陰陽師が使う心霊。普通の人には見えないものとされている。
御後ろ…（花山天皇の）後ろ姿。
土御門町口…土御門通りと町口通りの交わる所。

●とし【疾し】
❶はやい
※「とく」（＝とう）の形でよく出てくる。

花山寺（くわさんじ）におはしまし着きて、御髪おろさせ給ひて後にぞ、粟田殿は、「まかり出でて、（注）大臣（おとど）にも、変はらぬ姿、いま一度見え、かくと案内（あない）申して、必ず参り侍らむ。」と申し給ひければ、「朕（われ）をば謀（はか）るなりけり。」とてこそ泣かせ給ひけれ。あはれに悲しきことなりな。日ごろ、「よく御弟子にて候はむ。」と契りて、すかし申し給ひけむがおそろしさよ。

（注）大臣…（粟田殿の）父である兼家を指す。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●あない【案内】

❶案の内容
❷物事の事情
❸取次ぎを頼むこと
❹事情を明らかにすること

（注）東三条殿（とうさんでうどの）は、「もしさることやし給ふ。」とあやふさに、（注）さるべくおとなしき人々、（注）なにがしかがしといふいみじき源氏の武者（むさ）たちをこそ、御送り（おんおく）りに添へられたりけれ。京のほどは隠れて、（注）堤（つつみ）のわたりよりぞうち出で参りける。寺などにては、「もし、（注）おして人などやなし奉る。」とて、一尺（ひとさく）ばかりの刀どもを抜きかけてぞ守り申しける。

（『大鏡』）

（注）東三条殿…兼家のこと。
さるべく…このような場合にふさわしい。
なにがしかがし…誰それ。
堤のわたり…鴨川の堤のあたり。
おして人などやなし奉る…無理に誰かが道兼を出家させ申し上げるのではないか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●おとなし【　　　】

❶大人びている
❷思慮分別がある

★「出家」系の単語

●おこなふ【行ふ】

❶仏道修行をする・勤行する

＊ちなみに、出家してするのが「修行」。出家まではせず、普段、お経を読んだりするのが「勤行」。

関連　**おこなひ【行ひ】**　❶仏道修行

●ほだし【絆】

❶自由を束縛するもの

★「仏道の妨げとなるもの」＝親・妻子・恋人など

「ほだし」＝「絆」は「きずな」。今の生活や人間関係を捨てて「出家」をする時、「親・妻子・恋人などの人間関係の絆」が強ければ強いほど出家しにくいもの。「ほだし」は、そういう「仏道の妨げ」となるものを指すことが多い。「ほだし」とは、もともと「馬の足にからませて馬の自由を奪う綱」のこと。そこから「自由を束縛するもの」の意味となり、特に「出家をする自由を奪うもの」＝**「親・妻子・恋人」**の意味でよく用いるようになる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　復習問題

①「障り」の読みとして最も適当なものを、次の中から選べ（表記は歴史的仮名遣い）。

ア　さかり　イ　さはり　ウ　つかはり　エ　ふさがり　オ　ふたがり

②「案内(あない)申して、必ず参り侍らむ」の傍線部の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　縁故を探して　イ　事情を報告して
ウ　知り合いを連れて　エ　道案内して

③「やがてさまかへ、小野といふ山里に籠りゐて、地蔵菩薩を本尊として、明け暮れ行ひ給へり。」の傍線部の内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　離縁すること　イ　出家すること　ウ　零落すること
エ　身を隠すこと　オ　髪上げをすること

④「返りごとは、かしこなるおとなしき人して書かせてあり。」の傍線部とはどんな人か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　年配の女房　イ　無口な女房
ウ　穏やかな性格の女房　エ　新入りの女房

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　「藤原家」(『大鏡』　競べ弓／面を踏む)

〈読解練習〉①

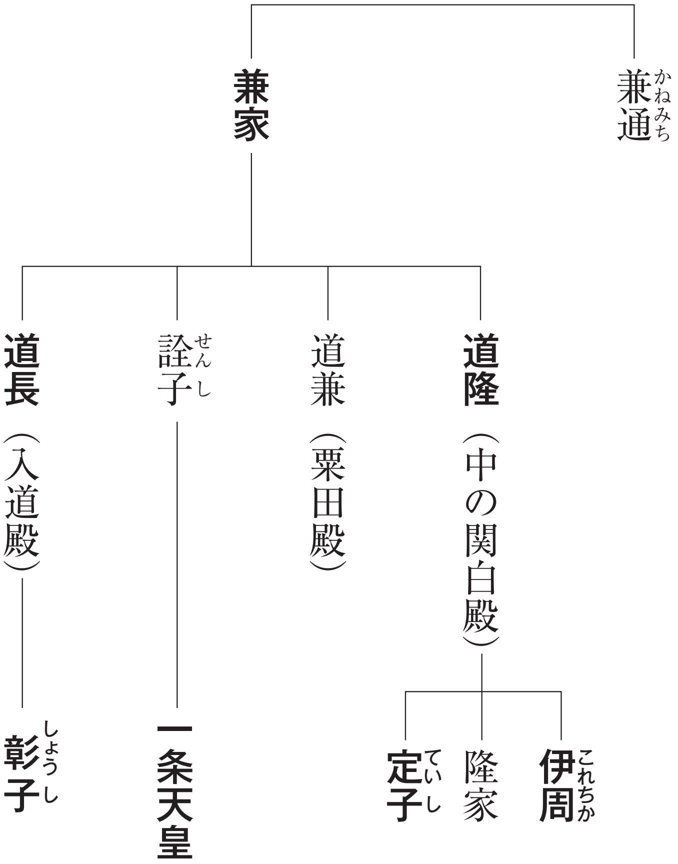
(注)帥殿(そちどの)の、(注)南院にて人々集めて弓あそばししに、(注)この殿渡らせ給へれば、「思ひかけずあやし。」と、(注)中の関白殿思し驚きて、いみじう饗応(きやうよう)し申させ給うて、(注)下臈(げらふ)におはしませど、前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、帥殿の矢数いま二つ劣り給ひぬ。

(注)
帥殿…藤原伊周(これちか)。藤原道隆の子。道長の甥。
南院…藤原道隆の二条邸内の南にある建物。
この殿…藤原道長。藤原兼家の第五子。五十四歳で出家し、以後「入道殿」と呼ばれる。
中の関白殿…藤原道隆。藤原兼家の長男。
下臈…ここでは、「官位の低い者」という意味。当時は、道長が伊周よりも官位が低かった。

●あやし【怪し・奇し・異し】
❶不思議だ
❷身分が低い
❸粗末だ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★藤原家



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

中の関白殿、また御前に候ふ人々も、「いま二度延べさせ給へ。」と申して、延べさせ給ひけるを、やすからず思しなりて、「さらば、延べさせ給へ。」と仰せられて、また射させ給ふとて、仰せらるるやう、「道長が家より帝、后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、（注）同じものを中心（なから）には当たる（注）ものかは。次に、帥殿射給ふに、いみじう臆（おく）し給ひて、御手もわななく（注）故（け）にや、的のあたりにだに近く寄らず、（注）無辺（むへん）世界を射給へるに、関白殿、色青くなりぬ。

（注）同じものを…同じ当たるにしても。
ものかは…強い感動を表す。～ことよ。～ではないか。
故…ため。せい。
無辺世界…見当違いの方向。

●やすし
❶【　　】簡単だ
❷【　　】①安らかだ・心が穏やかだ　②安っぽい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

また、入道殿射給ふとて、「摂政、関白すべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、初めの同じやうに、的の破（やぶ）るばかり、同じ所に射させ給ひつ。饗応し、もてはやし聞こえさせ給ひつる興もさめて、こと苦（にが）うなりぬ。父大臣、帥殿に、「何か射る。な射そ、な射そ。」と制し給ひて、ことさめにけり。

（『大鏡』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉②

（注）四条の大納言のかく何事も優れ、めでたくおはしますを、（注）大入道殿、「いかでか、かからむ。うらやましくもあるかな。わが子どもの、影だに踏むべくもあらぬこそ、口惜しけれ。」と申させたまひければ、（注）中の関白殿・（注）粟田殿などは、げにさもとや思すらむと、恥づかしげなる御気色（みけしき）にて、ものものたまはぬに、この（注）入道殿は、いと若くおはします御身にて、「影をば踏まで、面（つら）をや踏まぬ。」とこそ仰せられけれ。まことにこそさおはしますめれ。（注）内大臣殿（ないだいじんどの）をだに、近くてえ見たてまつりたまはぬよ。

（『大鏡』）

（注）四条の大納言…藤原公任（きんとう）。「三船の才」（漢詩・和歌・音楽の才能）の持ち主。
大入道殿…藤原兼家。
中の関白殿…藤原道隆。兼家の長男。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

粟田殿…藤原道兼。兼家の第三子。
入道殿…藤原道長。兼家の第五子。
内大臣殿…藤原教通（のりみち）。道長の子。公任の娘の婿。

●めでたし
❶すばらしい
❷心ひかれる

●くちをし【口惜し】
❶
❷つまらない
❸卑しい

●げに【　　】
❶実際に・なるほど
❷ほんとうに・いかにも

●けしき【気色】
❶様子
❷意向
❸機嫌

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**『大鏡』**
ジャンル…歴史物語
成立…平安時代後期

●**紀伝体**。
●**藤原道長**の栄華中心（批判精神もあり）。
●**大宅世継**（おおやけのよつぎ）（一九〇歳）と**夏山繁樹**（なつやまのしげき）（一八〇歳）と**若侍**の三人で会話をして話を進めていく**会話形式**。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　復習問題

①　「あやしの民の竈（かまど）まで…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　危険な　　イ　挙動が不審な　　ウ　身分が低い
エ　ひねくれた　　オ　考えが卑しい

②　「げにうれしきこと、げにかなしきことならでは…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　少し　　イ　本当に
ウ　限りなく　　エ　まあまあ

③　「月な見たまひ［A］」の空欄Aには、禁止の意味を表す終助詞が入る。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　ばや　　イ　そ　　ウ　なむ
エ　かし　　オ　ぞ

④　歴史物語『大鏡』と最も関係の深い人物を、次の中から選べ。

ア　稗田阿礼　　イ　清少納言　　ウ　藤原道長
エ　鴨長明　　オ　藤原定家

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　「清少納言」と「紫式部」（『枕草子』中納言参り給ひて／『紫式部日記』清少納言）

★清少納言

・「中宮　　　　」にお仕えする。
・父親は「梨壺の五人」のうちの一人である清原元輔（きよはらのもとすけ）。
　曾祖父は清原深養父（ふかやぶ）。すぐれた歌人の家系に生まれる。
・『　　　　』の作者。

★『枕草子』

ジャンル…**随筆**
成立…**平安時代中期**

●**「をかしの文学」**
●類聚（るいじゅう）段（ものづくし）・日記段（宮廷生活の回想）・随想段（自然・人事）の三分類。

> ※「宮廷生活」の部分の**主語把握＝敬語**に注目！
> 二重尊敬⬇「　　　　」か「　　　　」が多い
> 尊敬語一つ⬇その他のエライ人
> 尊敬語なし⬇「　　　　」か「同僚の女房」が多い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉①

(注)中納言参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、「隆家こそいみじき骨は得て侍れ。それを、張らせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求め侍るなり。」と申し給ふ。「いかやうにかある。」と問ひ聞こえさせ給へば、「すべていみじう侍り。『さらにまだ見ぬ骨のさまなり。』となむ人々申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と、言高くのたまへば、「さては、扇のにはあらで、くらげのななり。」と聞こゆれば、「これは隆家が言にしてむ。」とて、笑ひ給ふ。

かやうのことこそは、かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「一つな落としそ。」と言へば、いかがはせむ。

（『枕草子』）

（注）中納言…藤原隆家。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●おぼろけなり

❶ふつう・並ひと通り

❷格別だ（「おぼろけならず」の形で用いていたものが、「おぼろけなり」だけで同じ意味となったもの）

●かたはらいたし【傍ら痛し】

❶

❷

❸

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★紫式部

・「中宮　　　」にお仕えする。

・『　　　　』『紫式部日記』の作者。

★『紫式部日記』

成立…平安時代中期

●「前半」＝**彰子の出産や行事など宮廷生活**の詳細な記録。

●「後半」＝**同僚の女房や清少納言の人物批評**（悪口など）。**憂愁に満ちた自己の内面**を吐露。

★『源氏物語』

成立…平安時代中期（一〇〇〇年頃と覚えておく）

●全五四帖。最後の十帖＝『**宇治十帖**』。

●「三部」＝第一部　光源氏の誕生〜青年期
　　　　　第二部　光源氏の晩年
　　　　　第三部　**宇治**で**薫大将**と**匂宮**が**浮舟**という女性を奪い合う（**宇治十帖**）

※**本居宣長**（もとおりのりなが）が『**源氏物語玉の小櫛**（おぐし）』で、『源氏物語』を「**もののあはれ**」と説く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉②

清少納言こそ、（注）したり顔にいみじうはべりける人。さばかりさかしだち、真名書きちらしてはべるほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり。かく、人に異ならむと（注）思ひこのめる人は、かならず見劣りし、行く末うたてのみはべれば、（注）艶（えん）になりぬる人は、いとすごうすずろなるをりも、もののあはれにすすみ、をかしきことも見すぐさぬほどに、おのづからさるまじくあだなるさまにもなるにはべるべし。そのあだになりぬる人の果て、いかでかはよくはべらむ。

（『紫式部日記』）

（注）したり顔…得意顔。
思ひこのめる人…意識する人。
艶になりぬる人…風流ぶることが身についてしまった人。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●**まな**【**真名**】
❶

●**えんなり**【**艶なり**】
❶優美なさま
❷色っぽいさま
❸思わせぶりなさま

●**すごし**【**凄し**】
❶ぞっとする・もの寂しい
❷恐ろしいくらいすばらしい

●**すずろなり**【**漫ろなり**】
❶あてもないさま
❷思いがけないさま
❸何の関係もないさま
❹むやみやたらである　（＊「すずろに」の形で用いることが多い）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●あだなり【徒なり】
❶浮気だ
❷はかないさま
❸無駄なさま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講　復習問題

①「大方おぼろけの軍に動ずべうもなくなりゆくを、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　奇襲の　　イ　幻覚の　　ウ　並々の
エ　陸上の　　オ　臨時の

②「かたはらいたく、あさましくおぼすほどに御夢さめぬ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　体調が悪く　　イ　気恥ずかしく　　ウ　腹立たしく
エ　正気をなくし　　オ　お詫びをして

③「まことに心すごし。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　絶景である　　イ　壮大である　　ウ　物寂しい
エ　荒々しい　　オ　趣深い

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「あだなる契りをかこち、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いじわるな　　イ　たおやかな　　ウ　かりそめの
エ　夢ごこちの　　オ　うらみがましい

⑤　中宮定子と最も関係が深いと思われる文学作品を、次の中から選べ。

ア　土佐日記　　イ　伊勢物語　　ウ　源氏物語
エ　枕草子　　オ　更級日記

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　古文常識「病気」／「死」（『源氏物語』　葵）

〈読解練習〉　※本文中略あり。

（注）大殿（おほとの）には、御物（もの）の怪（け）いたう起こりていみじうわづらひ給ふ。「（注）この御生霊（いきすだま）、（注）故父大臣（こちちおとど）の御霊（ごらう）など言ふものあり。」と（六条の御息所が）聞き給ふにつけて、思しつづくれば、「身一つの憂き嘆きよりほかに人を悪（あ）しかれなど思ふ心もなけれど、もの思ひにあくがるなる魂は、さもやあらむ。」と思し知らることもあり。

（注）大殿には…葵の上〔＝光源氏の正妻〕におかれては。
（＊大殿＝ここでは「左大臣邸」のことで、さらにそこに住む「葵の上」のことを指す。）
この御生霊…六条の御息所〔＝光源氏の愛人〕の生霊。
故父大臣の御霊…六条の御息所の亡き父大臣の死霊。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●わづらふ【煩ふ】
❶病気になる
❷苦しむ

●うし【憂し】
❶
❷

●あくがる【憧る】
❶うわの空になる
❷さまよい歩く・さまよう

★物の怪＝死霊・生霊。人にとりついて「　　　　　　」にしたり、死なせたりする。

★加持祈祷（かじきとう）＝病気や災難をはらうのに行われる。

★験者（げんざ）＝病気を治したり物の怪などを退散させたりするために祈祷をする人。修験者（しゅげんじゃ）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「病気」系の単語

●**なやむ【悩む】**
❶病気になる
❷困る

●**れいならず【例ならず】**
❶いつもと違っている
❷病気

●**いたつく【病く・労く】**
❶病気になる
❷骨を折る・尽力する

関連　**いたつき【病き・労き】**…❶病気　❷苦労

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●**ここち【心地】**
❶気持ち
❷考え
❸病気

●**ここちれいならず【心地例ならず】**
❶病気

●**あつし【篤し】**
❶病気が重い・病気がちである

●**おこたる【怠る】**
❶なまける
❷病気がよくなる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（六条の御息所が）少しうちまどろみ給ふ夢には、（注）かの姫君と思しき人のいと清らにてある所に行きて、とかく（注）引きまさぐり、うつつにも似ず、猛（たけ）く（注）厳（いか）きひたぶる心出で来て、（注）うちかなぐるなど見え給ふことたび重なりにけり。

（注）かの姫君…葵の上のこと。
引きまさぐり…引っぱっていじり。
厳き…気が強く荒々しく。
うちかなぐる…乱暴に揺さぶる。

●きよらなり【清らなり】
❶気品があって美しい様子

●うつつ【　】
❶現実
❷正気
❸生きている状態

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（葵の上の出産は）まださるべきほどにもあらずと、皆人もたゆみたまへるに、にはかに御けしきありて悩みたまへば、いとどしき御祈り数を尽くしてせさせたまへれど、例の執念(しふね)き御物の怪一つさらに動かず。やむごとなき験者(げんざ)ども、めづらかなりともて悩む。さすがにいみじう（注）調ぜられて、心苦しげに泣きわびて、「すこし（祈祷を）ゆるべたまへや。（注）大将(だいしやう)に聞こゆべきことあり。」とのたまふ。加持(かぢ)の僧ども、声しづめて法華経(ほけきやう)を誦(よ)みたる、いみじう尊し。

（注）調ぜられて…物の怪が調伏(ちょうぶく)されて。
大将…光源氏を指す。

（葵の上が）あまりいたう泣きたまへば、「何ごともいとかうな思し入れそ。さりともけしうはおはせじ。いかなりとも必ず逢ふ瀬あなれば、対面はありなむ。（注）大臣、宮なども、深き契りある仲は、めぐりて

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

も絶えざなれば、あひ見るほどありなむと思せ。」と慰めたまふに、「いで、あらずや。身の上のいと苦しきを、しばしやすめたまへと聞こえむとてなむ。かく参り来むともさらに思はぬを、もの思ふ人の魂はげにあくがるるものになむありける。」と、なつかしげに言ひて、…

（注）大臣、宮なども…（葵の上の）父親の左大臣も、母親の大宮なども。

「嘆きわび空に乱るるわが魂を結びとどめよ（注）下交（したが）ひのつま」

とのたまふ声、けはひ、（注）その人にもあらず変はりたまへり。「いとあやし。」と思しめぐらすに、ただ、かの御息所なりけり。

（注）下交ひのつま…下前（したまえ）〔＝着物の前を合せた内側の部分〕の先端。
＊この部分を結ぶと、魂をとどめておけるという俗信があった。

その人…葵の上。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（左大臣たちが仕事のため出仕し、）（注）殿の内、人少なにしめやかなるほどに、にはかに例の御胸を（注）せきあげて、いといたう惑ひたまふ。内裏に御消息聞こえたまふほどもなく、絶え入りたまひぬ。

（『源氏物語』）

（注）殿の内…左大臣邸。
せきあげて…むせかえって。

●せうそこ【　　　】

❶手紙・伝言
❷訪れること・案内を乞うこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「死」関連の単語

●うす【失す】
❶消え去る・いなくなる
❷死ぬ

●かくる【隠る】
❶隠れる
❷死ぬ

●みまかる【身罷る】
❶死ぬ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●その他の「死ぬ」の婉曲表現

はかなくなる【果敢無くなる】
むなしくなる【空しく成る】
いかにもなる【如何にも成る】
いたづらになる【徒らに成る】…ただ単に「むだになる・だめになる」の意味もある。
あさましくなる
ともかくもなる
いふかひなくなる【言ふ甲斐無く成る】

●かぎり【限り】
❶限度・限界　❷最大限　❸命の終わり・臨終
❹あいだ　❺全部　❻機会

関連　**かぎりあるみち【限りある道】**…❶死出の旅路

●いまは【今は】
❶臨終

関連　**いまはかぎり【今は限り】**…❶今となっては、もうこれでおわり　❷臨終

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　復習問題

①　「あつしく」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　情愛が深く　　イ　信仰心が強く　　ウ　気温が高く
エ　動揺が激しく　　オ　容態が重く

②　「おこたらむ折」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　暇になったころ　　イ　怒りが薄れたころ
ウ　病が回復したころ　　エ　しばらくたったころ

③　「うつつ」を表す漢字として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　明　　イ　現　　ウ　闇　　エ　空　　オ　虚

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　次の中から「死ぬ」という意味にならないものを一つ選べ。

ア　身まかる　　イ　はかなくなる　　ウ　かくる
エ　むなしくなる　　オ　はげしくなる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　古文常識「月の異名」「時刻」「方角」「建物」など（『方丈記』　安元の大火）

〈読解練習〉

予（われ）、ものの（注）心を知れりしより、四十（よそぢ）あまりの（注）春秋（しゅんじう）を送れるあひだに、世の不思議を見ること、ややたびたびになりぬ。

いにし（注）**安元（あんげん）三年**うづき二十八日かとよ。**風激しく吹きて、静かならざりし夜（よ）**、戌の時ばかり、都のたつみより**火出で来て**、いぬゐに至る。**果てには**（注）**朱雀門（すざくもん）**、（注）**大極殿（だいごくでん）**、（注）**大学寮（だいがくれう）**、（注）**民部省（みんぶしやう）など****まで移りて、一夜のうちに**（注）**塵灰（ちんくわい）となりにき。**

（注）心…ここでは「道理」のこと。　春秋…年月。
安元三年…一一七七年。　朱雀門…大内裏南面中央の正門。
大極殿…大内裏の正殿。　大学寮…最高の教育機関。
民部省…戸籍・徴税などをつかさどった役所。　塵灰…灰。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「月の異名」

睦月（　　　）
如月（　　　）
弥生（　　　）
「　　　」

卯月（　　　）
皐月（　　　）
水無月（　　　）
「　　　」

文月（　　　）
葉月（　　　）
長月（　　　）
「　　　」

神無月（　　　）
霜月（　　　）
師走（　　　）
「　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「時刻」

〈読み〉

子・丑・寅・卯・辰・巳

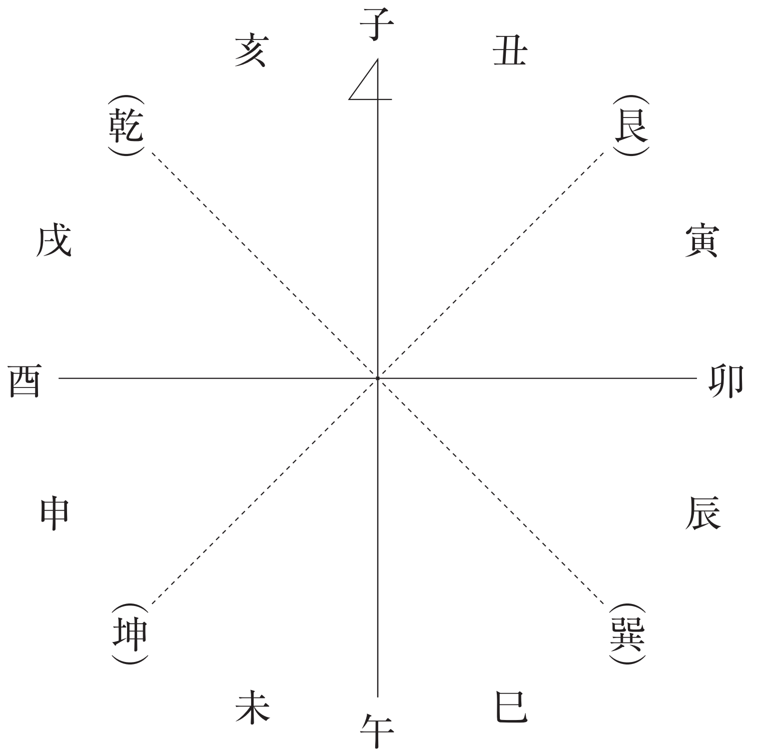
〈読み〉

午・未・申・酉・戌・亥

●数字が付いている場合⬇一つ〜四つ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「方角」



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★「宮中」を表す単語

内裏（うち）（「だいり」とも）・**内**・**雲の上**・**九重**（ここのえ）・**禁中**（きんちゅう）・**禁裏**（きんり）

★「宮中」の御殿

●**清涼殿**（せいりょうでん）…天皇の日常生活の御殿。

●**紫宸殿**（ししんでん）（別名「南殿」）…内裏の正殿。即位などの公式行事を行う。
正面階段下の左右に桜と橘の木が植えられてある。

●**後宮**…天皇が住む正殿よりも北側にある天皇の妻たちの住まい。七殿五舎の総称。

・**「弘徽殿」**（こきでん）
・「飛香舎」（別名**「藤壺」**）
…清涼殿の北側にあり、中宮や有力な女御の住まい。

※「〜舎」には、別名「〜壺」があり、そこに住んでいる女性は「〜壺」で文章中に出てくる。
「〜舎」の名前を覚える必要はないが、「**〜壺**（＝女性）」＝「**後宮に住んでいる天皇の妻**」とわかること。
（例「藤壺の女御」、「桐壺の更衣」）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★寝殿造り＝平安時代の貴族の邸宅の建築様式

●寝殿（別名**「南面（みなみおもて）」**・**「南殿（な（ん）でん）」**）…正殿。主人の居間や客間として使われた部屋。南向きに造られている。

●対の屋（たいのや）（略して「対」とも）…寝殿の北、東西にある建物。寝殿とは渡殿（次項参照）でつながっている。

・北の対…夫人（正妻）が住んだ。ここから、「夫人」のことを「北の方」という。

・東の対・西の対…子どもなどが住んだ。

●渡殿（わたどの）…建物と建物をつなぐ屋根のある板敷の廊下。渡り廊下。

●釣殿（つりどの）・泉殿（いづみどの）…東西の対の屋の廊の南端に、池にのぞんで建てられた建物。

●壺（つぼ）…中庭。

●中島（なかじま）…庭園の池の中に築いた島。橋が架けられている。

●遣水（やりみづ）…庭に水を導き入れてつくった細い流れ。

●築地（ついぢ）…土塀。邸の周囲をめぐらした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「師走」の古語の読みを、現代仮名遣いで書け。

問二　「卯月」とは何月のことか、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　三月　　イ　四月　　ウ　五月　　エ　六月
オ　七月　　カ　八月　　キ　九月

問三　「神無月」は、何月のことか。漢数字で記せ。

問四　ａ「みなづき」、ｂ「ながつき」という異名は何月のものであるか、漢数字で答えよ。

ａ＝　　　ｂ＝

問五　「神無月」よりも、一年のうちで後に来る月を次の中から一つ選べ。

ア　長月　　イ　睦月　　ウ　霜月　　エ　文月　　オ　水無月

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　「葉月」「霜月」がそれぞれ陰暦の何月を表すかを考え、両者の月数の合計を求め（例／五月＋七月＝計12）、その数値として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　計13　　イ　計15　　ウ　計17　　エ　計19

問七　次の傍線部（a）・（b）の各語句の読み（現代仮名遣い）の組み合わせとして最も適当なものを、後の中から選べ。

(a)戌の刻ばかりなり、この用は明日(b)巳の刻以前の事なり。

ア　（a）いぬ　　（b）う
イ　（a）さる　　（b）み
ウ　（a）い　　（b）み
エ　（a）さる　　（b）う
オ　（a）いぬ　　（b）み

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　「申の時」の、（１）「申」の読みをひらがなで記せ。また、（２）何時頃か。正しいものを、次の中から選べ。

（１）

（２）　ア　午前八時頃　　イ　午前十時頃　　ウ　正午頃
　　　エ　午後二時頃　　オ　午後四時頃

問九　「酉の刻」とはいつごろを指すのか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　午後二時ごろ　　イ　午後四時ごろ　　ウ　午後六時ごろ
エ　午後八時ごろ　　オ　午後十時ごろ

問十　「丑三つ」は、現在の何時ごろか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　午前零時　　イ　午前一時　　ウ　午前二時
エ　午前三時　　オ　午前四時

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　「いぬゐ」を漢字で書くと最も適切なものはどれか。次の中から選べ。

ア　丑寅　　イ　未申　　ウ　申子　　エ　戌亥　　オ　辰巳

問十二　「坤の方に侍るとぞ聞こゆる。」の傍線部の読みを答え、訳も答えよ。

問十三　「築地」の漢字の読みを平仮名で記せ。現代仮名遣いでもよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　復習問題

① 「卯月」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　一月　　イ　二月　　ウ　三月　　エ　四月　　オ　五月

② 次の傍線部（a）～（c）の読みの組み合わせとして、最も適当なものを後の中から選べ。

ⓐ六月になりぬ。
ⓑ七月になりぬ。
ⓒ九月ばかり…

ア　（a）みなづき　（b）ふみづき　（c）ながつき
イ　（a）うづき　（b）ふみづき　（c）ながつき
ウ　（a）みなづき　（b）ふみづき　（c）かみなづき
エ　（a）うづき　（b）はづき　（c）かみなづき
オ　（a）みなづき　（b）はづき　（c）かみなづき
カ　（a）うづき　（b）はづき　（c）ながつき

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「申の刻」は、現在のどの時刻に相当するか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　午前四時　　イ　午前六時　　ウ　午前二時
エ　午後四時　　オ　午後六時　　カ　午後二時

④「巳の時」の時刻は、現在の何時にあたるか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　午前七時ごろ　　イ　午前十時ごろ　　ウ　午後一時ごろ
エ　午後八時ごろ　　オ　午後十時ごろ

⑤「坤のかた」が表している方角を次の中から選べ。

ア　南西　　イ　南東　　ウ　西南西
エ　東南東　　オ　南南西　　カ　南南東

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　入試問題を解く手順／実践演習⑴『新花摘』

★手順

① **設問**確認→解ける問題（**文脈不要の単語・文法・知識問題**）は先に解く。
内容合致問題があれば、選択肢を先にざっと読んで大まかな内容を予測する。
（詳細は今後の講義中で解説）

② **注釈**確認→注釈があれば、本文中に**注マーク**がついているかどうかを確認。

③ **リード文**（前書き）確認→きちんと情報をつかんでおく。

④ **出典**（作品名）確認→特に**「日記・随筆」**のジャンルの場合に気をつける！
＝
「　　　」が登場人物の一人である！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

むかし丹後宮津(みやづ)の見性寺(けんしゃうじ)といへるに、三年(みとせ)あまり宿りゐにけり。秋のはじめより、(注1)あつぶるひのために苦しむこと五十日ばかり、奥の一間(ひとま)はいといと広き座敷にて、つねに障子(さうじ) Ⅰ 戸ざして、風の通ふ[x]ひまだにあらず。その次の一間に病床をかまへ、隔てのふすまをたてきりてありけり。ある夜(注2)四更(しかう)ばかりなるに、病(やまひ)やや[y]ひまあり[a]ければ、(注3)厠(かはや)にゆかんと思ひてふらめき起きたり。厠は奥の間の榑縁(くれえん)をめぐりて、⑴いぬゐの隅にあり。ともしびも消えていたう暗きに、隔てのふすま押し開けて、まづ右(みぎ)りの足を一歩さし入れ[b]ければ、Ⅱ むくむくと毛のおひたるものを踏み当てたり。おどろおどろし[c]ければ、やがて足をひきそばめてうかがひゐたりけるに、ものの音もせず。あやしくおどろしけれど、胸打ち心定めて、此(こ)たびは左(ひだ)りの足をもて、ここなんと思ひてはたと蹴たり。されど露さはるものなし。Ⅲ 心得ず、身のけだち[d]ければ、わななくわななく(注4)庫裡(くり)なるかたへ立ちこえ、法師・しもべなどの⑵いたく寝ごちたるをうちおどろかして、かくかくと語れば、みな起き出づ。ともしびあまた照らして奥の間にゆきて見るに、ふすま障子は常のごとく戸ざしありて、のがるべき[z]ひまなく、⑶もとよりあやしきものの影だに見えず。みな云ふ、「わどの、病におかされて、⑷まさなくそぞろ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ごといふなめり」と、怒り腹立ちつつ、みな臥したり。

中々にあらぬことといひ出でけるよと、(5)おもなくて我も臥戸(ふしど)に入りぬ。やがて眠らんとする頃、胸の上盤石(ばんじやく)を乗せたらんやうにおぼえて、ただうめきにうめきける。その声のもれ聞えけるにや、住侶竹渓師(じゆうりよちくけいし)入りおはして、「(6)あなあさまし、こは何ぞ」と助け起こしたり。やや人心地つきて、かくと語り(e)ければ、「さることこそあなれ。かの狸沙弥(たぬきしやみ)が所為(しよゐ)なり」とて、妻戸おしひらき見るに、夜しらじらと明けて、あからさまに見認(みとめ)けるに、縁より簀の子(すのこ)の下に続きて、(7)梅の花のうち散りたるやうに跡付きたり。さてぞ先にそぞろごと云ひたりとて、ののしりたるものども、「さなん有りける」とてあさみあへり。

（『新花摘』による）

（注１）あつぶるひ…熱震い。一定時間に寒気がして、発熱する病気。
（注２）四更…午前二時頃。
（注３）厠…便所。
（注４）庫裡…住職などの居間。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　二重傍線部ａ～ｅの「けれ」の中で、文法的説明の異なるものをア～オから一つ選べ。

ア　ａ　ややひまありければ　　イ　ｂ　一歩さし入れければ
ウ　ｃ　おどろおどろしければ　　エ　ｄ　身のけだちければ
オ　ｅ　かくと語りければ

問二　文中の空白部［Ⅰ］・［Ⅱ］・［Ⅲ］に入るものとして最も適切なものをア～オから一つずつ選べ。

ア　いよよ　　イ　なほざりに　　ウ　何やらん
エ　からうじて　　オ　ひしと

Ⅰ＝　　Ⅱ＝　　Ⅲ＝

問三　波線部ｘ・ｙ・ｚの「ひま」の意味について説明したものとして最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　ｘ・ｙ・ｚそれぞれ意味が異なっている。
イ　ｘとｙの意味は同じだが、ｚの意味だけ異なっている。
ウ　ｘとｚの意味は同じだが、ｙの意味だけ異なっている。
エ　ｙとｚの意味は同じだが、ｘの意味だけ異なっている。
オ　ｘ・ｙ・ｚともに同じ意味である。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部（１）「いぬゐ」は方角を表す言葉であるが、次のＡ・Ｂについて答えよ。

Ａ　「いぬゐ」を漢字で書くと最も適切なものはどれか。ア～オから一つ選べ。

ア　丑寅　　イ　未申　　ウ　甲子　　エ　戌亥　　オ　辰巳

Ｂ　「いぬゐ」が表す方角はどれか、ア～オから一つ選べ。

ア　北　　イ　北西　　ウ　南東　　エ　南西　　オ　南

問五　傍線部（２）「いたく寝ごちたるをうちおどろかして」の意味として最も適切なものをア～オから一つ選べ。

ア　すこやかに寝ているのをびっくりさせて
イ　すっかり眠ってしまっているのを起こして
ウ　ひそかに寝言を言っているのを目覚めさせて
エ　ひどく寝過ごしているのを注意して
オ　ぐっすり寝ているのでそのままにして

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部（3）「もとよりあやしきものの影だに見えず」の意味として最も適切なものをア〜オから一つ選べ。

ア　以前から不思議な者の姿だけは見えない
イ　始めから粗末な物の形すら見えない
ウ　もちろん不審な者の姿さえ見えない
エ　最初からおかしなことに何も見えない
オ　もともと灯火のぼんやりした明かりしか見えない

問七　傍線部（4）「まさなくそぞろごといふなめり」の意味として最も適切なものをア〜オから一つ選べ。

ア　他愛もない嘘をついているに違いない
イ　わけのわからない理屈をこねているのだろう
ウ　悪気はないのに知らずに嘘をつくらしい
エ　正気でもないでたらめを言っているようだ
オ　思いがけずつまらないことを言うはずだ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部（５）「おもなくて我も臥戸に入りぬ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか。その説明として最も適切なものをア〜オから一つ選べ。

ア「なまじ言わなくてもよいことを言ってしまった」という、筆者の面目なく思う気持ち。
イ「かえってとんでもないことを言ってしまった」という、筆者の申し訳なく思う気持ち。
ウ「やっぱりもっと別のことを言えばよかった」という、筆者のうしろめたく思う気持ち。
エ「中途半端に妙なことを言い出したものだ」という、家人たちが筆者を非難する気持ち。
オ「初めての経験だからしかたのないことだ」という、家人たちが筆者を弁護する気持ち。

問九　傍線部（６）「あなあさまし」の意味として最も適切なものをア〜オから一つ選べ。

ア　ああ、恐ろしい　　イ　おやまあ、気の毒な
ウ　おのれ、だまされないぞ　　エ　おい、大丈夫か
オ　なんと、あきれた

問十　傍線部（７）「梅の花のうち散りたるやう」で何を表現しているのか。その説明として最も適切なものをア〜オから一つ選べ。

ア　晩秋の趣　　イ　筆者の優雅さ
ウ　狸の足跡　　エ　家人たちの無風流さ
オ　住職の博学さ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十一　『新花摘』は与謝蕪村の作品であるが、蕪村の俳句をア〜オから一つ選べ。

ア　朝顔につるべとられてもらひ水
イ　柿食へば鐘がなるなり法隆寺
ウ　五月雨を集めてはやし最上川
エ　名月をとつてくれろと泣く子かな
オ　春の海ひねもすのたりのたりかな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　復習問題

① 「いとたふとく、あさましきこととも聞き侍りし。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　みっともないこと　　イ　心のいやしいこと
ウ　嘆かわしいこと　　エ　びっくりすること

② 「戊亥」が表す方角として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　北東　　イ　南東　　ウ　北西　　エ　南西

③ 次の傍線部の中から、文法的説明の異なるものを一つ選べ。

ア　日悪しければ、船出ださず。
イ　「盗人入りぬ」と人告げければ、…
ウ　果てにければ、返りぬ。
エ　その時にこそ思ひ知りはべりけれ。

④ 「仏、あはれと思し召したりけるなめり」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　完了　　イ　強意　　ウ　禁止　　エ　断定

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　実践演習⑵『栄花物語』

次の文章は、『栄花(えいが)物語』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

この頃聞けば、[注1]逢坂(あふさか)のあなたに、関寺といふ所に、[注2]牛仏現れ給ひて、よろづの人参りて見奉る。年ごろこの寺に、大きなる御堂(みだう)を建てて、弥勒(みろく)を造り据ゑ奉りける。[注3]榑(くれ)、えもいはぬ大木どもを、ただこの牛一つして運びあぐる事をしけり。[ア]あはれなる牛とのみ、御寺の聖(ひじり)思ひわたりける程に、寺のあたりに住む人借りて、明日使はんとて置きたりける夜の夢に、「[イ]我は[注4]迦葉(かせふ)仏なり。この寺の仏を造り、堂を建てさせんとて、年ごろするにこそあれ。[ウ]ただ人はいかでか使ふべき」と見たりければ、起きて、「かうかう夢を見つる」といひて、拝みさわくなりけり。牛もさやかにて黒くて、ささやかに[エ]をかしげにぞありける。[オ]繋(つな)がねど行き去る事もなく、例の牛の心ざまにも似ざりけり。[注5]入道殿をはじめ奉りて、[カ]世の中におはしける人、参らぬなく参りこみ、よろづの物をぞ奉りける。ただ帝・東宮・宮宮ぞえおはしまさざりける。この牛仏、何となく心地悩ましげにおはしければ、[キ]疾くうせ給ふべきとて、かく人参りこみて、この聖は御[注6]影像(えいざう)をかかむと急ぎけり。かかる程に、[注7]西の京にいと尊く行ふ聖の夢に見えけり。「[注8]迦葉仏当入涅槃(たうにふねはん)のだむなり。[注9]智者当得結縁(ちさたうとくけちえん)せよ」とぞ見えたりけれ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ば、いとど人人参りこむ程に、歌よむ人もあり。[ク]和泉、

　聞きしより牛に心をかけながらまだこそ越えね逢坂の関

人人あまた聞ゆれど、同じ事なれば書かず。日ごろ、この御かたかかせて、六月二日ぞ御眼(まなこ)入れんとしける程に、その日になりて、この御堂をこの牛見巡りありきて、もとの所に帰り来てやがて死にけり。これあはれにめでたき事なりかし。御かたに眼入れける折ぞ果て給ひにける。[ケ]聖いみじく泣きて、やがてそこに埋(うづ)みて、念仏して、七日七日に経・仏供養しけり。後にこのかきし御かたを、[注10]内にも宮にも拝ませ給ひける。かかる事こそありけれ。まことの迦葉仏[コ]この同じ日ぞかくれ給ひける。今はこの寺の弥勒供養せられ給ふ。この聖もいそぎけり。草を誰(たれ)も誰もとりて参りける中に、参らぬ人などぞありければ、それは「罪なきにや」などぞ定めける。

注１　逢坂…京都と大津の中間にある逢坂山。
注２　牛仏…人々を救うために、牛に姿を変えてこの世に現れた仏。
注３　榑…丸太のこと。
注４　迦葉仏…釈迦以前に順を追って世に出現した七仏の中の第六番目の仏。
注５　入道殿…当時の権力者である藤原道長のこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

注6　影像…絵に表した仏の姿。後述の「御かた」も同じ。
注7　西の京…京都の右京。
注8　迦葉仏当入涅槃のだむ…迦葉仏が今やまさに仏の世界に入ろうとしているとき。「だむ」は「段」。
注9　智者当得結縁せよ…智者たる者は、まさに結縁を得んと心がけよ。「智者」は、ここでは仏教を信じる心のある者の意。「結縁」は、仏に縁を結ぶこと。
注10　内にも宮にも…「内」は天皇のことで、本文にある「帝」と同じ。「宮」は中宮のこと。

問一　傍線部ア「あはれなる牛」とあるが、この「牛」はどのようなことをしたのか。最も適切なものを、次の中から選べ。

A　丸太や大木などを運び上げて、寺の御堂を建てるために働いた。
B　人々の信仰を集めるために、弥勒菩薩像を都から運んできた。
C　西の京の聖の夢に現れて、自分こそが寺の本尊だと名乗った。
D　弥勒菩薩像の周りを清掃するための道具を、逢坂から運んだ。
E　寺の近くに住む人に使われて、山の大木を関寺の御堂に運んだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部イ「我」、傍線部ウ「ただ人」は、何を指しているか。その組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

Ａ　イ　牛　ウ　御寺の聖
Ｂ　イ　牛　ウ　寺のあたりに住む人
Ｃ　イ　御寺の聖　ウ　寺のあたりに住む人
Ｄ　イ　御寺の聖　ウ　牛
Ｅ　イ　寺のあたりに住む人　ウ　入道殿

問三　傍線部エ「をかしげに」の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

Ａ　名詞「をかしげ」に、断定の助動詞「なり」の連用形が付いたもの
Ｂ　形容詞「をかし」の終止形に、接尾語「げ」と接続助詞「に」が付いたもの
Ｃ　形容詞「をかし」の終止形に、接尾語「げ」と格助詞「に」が付いたもの
Ｄ　形容動詞「をかしげなり」の語幹に、伝聞の助動詞「なり」の終止形が付いたもの
Ｅ　形容動詞「をかしげなり」の連用形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部オ「繫がねど行き去る事もなく、例の牛の心ざまにも似ざりけり」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

Ａ　この牛は、つながれていなくてもどこかに行ってしまうこともなく、普通の牛の性質のようでもなかった。
Ｂ　この牛は、つながれていないけれど人が連れ去ることもなく、例の有名な牛にも似ていなかった。
Ｃ　この牛は、つながれていたのでどこへも行くことはできず、普通の牛と同じくいつも小屋の中でじっとしていた。
Ｄ　この牛は、つながれていたのでどこへも行くことができず、普通の牛と違ってよくあばれていた。
Ｅ　この牛は、つながれていなかったのでよくどこかに行ってしまったが、いつもいつの間にか帰ってきていた。

問五　傍線部カ「世の中におはしける人、参らぬなく参りこみ」とはどういうことか。最も適切なものを、次の中から選べ。

Ａ　世の中の人は皆、参るのは一回かぎりと思って参ったということ
Ｂ　世の中の人は入道殿の手前、義理でしかたなく参っていたということ
Ｃ　世の中の人は牛仏に参るつもりはなく、単に寺参りでやってきたということ
Ｄ　世の中の人が、牛仏の評判を聞いてもなかなか参ろうとしなかったということ
Ｅ　世の中の人で参らない人はなく、だれもかれもが皆参ったということ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部キ「疾くうせ給ふべき」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

A　早くお亡くなりになるつもりだ
B　早くお亡くなりになるべきだ
C　早くお亡くなりになってほしい
D　早くお亡くなりになるだろう
E　早くもお亡くなりになったのか

問七　傍線部ク「和泉」とは、歌人「和泉式部」のことであるが、彼女と同時期に活躍した人物の作品を、次の中から選べ。

A　伊勢物語　　B　源氏物語　　C　山家集
D　土佐日記　　E　梁塵秘抄

問八　傍線部ケ「聖いみじく泣きて」とあるが、聖はなぜ泣いたのか。その理由として最も適切なものを、次の中から選べ。

A　影像に眼を入れる前に牛が亡くなったので、せめて影像が完成するまで生きられなかったのかと悲しくなったから
B　影像に眼を入れた後に牛が亡くなったので、影像に眼を入れたために亡くなったのかと後悔したから
C　影像に眼を入れて絵が完成すると同時に牛が亡くなったので、なんともありがたいことだと感動したから
D　影像に今から眼を入れようとしたときに牛が亡くなったので、それが本当に辛くて耐えられなかったから
E　影像に眼を入れることを知らないで牛が亡くなったので、とてもかわいそうなことだと思ったから

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部コ「この同じ日」とは何と同じ日なのか。次の中から選べ。

A　牛が亡くなった日
B　和泉式部が和歌を詠んだ日
C　天皇や中宮が影像を拝まれた日
D　弥勒を供養した日
E　牛が聖の夢に現れた日

問十　この文章の内容に合致するものを、次の中から選べ。

A　関寺の御堂建立のために働いた牛は、黒くて大柄な牛であった。
B　帝・東宮・宮宮は、牛の評判を聞いて関寺にお参りになった。
C　和泉式部は、御堂を建立するお金を集めるために歌を詠んだ。
D　関寺の御堂は非常に趣深いので、世の人々はあらそって参った。
E　仏が牛に姿を変えて、関寺の御堂の建立のために力を尽くした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　復習問題

①「古き日記などはおぼつかなからねど、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　打消推量　　イ　完了　　ウ　打消
エ　存続　　オ　強意

②「心とく詠める」の具体的内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　素早く発想して詠むこと
イ　周囲の誰もが納得するように詠むこと
ウ　自身の心を重視して詠むこと
エ　自身の心がなごむように詠むこと
オ　わかりやすい素材で印象深く詠むこと

③「口にまかせて言ひ散らすは、やがて浮きたることと聞ゆ。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつかは　　イ　すぐに
ウ　しばらくして　　エ　将来的に

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「この牛、悩ましげにおはしければ、失せ給ひぬべきかとて、いよいよ参りこむ」の傍線部の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　この牛が苦しげでいらっしゃったので、亡くなるであろうかと思って

イ　この牛が悩んでいらっしゃったので、姿を消してしまわれるだろうかと思って

ウ　この牛が苦しげでいらっしゃったならば、亡くなるであろうかと思って

エ　この牛が悩んでいらっしゃったならば、亡くなるであろうかと思って

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　実践演習⑶　『源氏物語』

次の文章は、父・八の宮を亡くした姫宮（大君）と中の宮（中の君）が、宇治の地で女房（弁の尼）たちとわびしく過ごすところに、薫が慰問する場面である。これを読んで、後の設問に答えよ。

（注1）御服（ぶく）などはてて、脱（ぬ）ぎ棄（す）てたまへるにつけても、（1）片時（かたとき）もおくれたてまつらむものと思はざりしを、はかなく過ぎにける月日のほどを思すに、いみじく思ひの外（ほか）なる身のうさと、泣き沈みたまへる御さまども、いと心苦しげなり。月ごろ黒くならはしたまへる御姿、（注2）薄鈍（うすにび）にて、いと（2）なまめかしくて、中の宮はげにいと盛（さか）りにて、（3）うつくしげなるにほひまさりたまへり。御髪（みぐし）などすましつくろはせて見たてまつり（a）たまふに、世のもの思ひ忘るる心地して、めでたければ、人知れず、（注3）近劣（ちかおと）りしては思はずやあらむと頼もしくうれしくて、今はまた（注4）見譲（ゆず）る人もなくて、親心にかしづきたてて見（b）きこえたまふ。

（注5）かの人は、（注6）つつみきこえたまひし藤の衣（ころも）もあらためたまへらむ（4）九月も（5）静心（しづこころ）なくて、またおはしたり。「例のやうにきこえむ」と、また御消息（せうそこ）あるに、（注7）心あやまりして、わづらはしくおぼゆれば、とかく（6）きこえすまひて対面したまはず。「思ひのほかに心憂（う）き御心かな。人もいかに思ひはべらむ」と、御文（ふみ）にてきこえたまへり。「今はとて脱ぎ棄ては

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

べりしほどの心まどひに、⑺なかなか沈みはべりてなむ、⑻えきこえぬ」とあり。
恨(うら)みわびて、(注8)例の人召してよろづに(c)のたまふ。世に知らぬ心細さの慰めには、⑼この君をのみ頼みきこえたる人々なれば、思ひにかなひたまひて、世の常の住(す)み処(か)に移ろひなどしたまはむを、いとめでたかるべきことに言ひあはせて、「ただ⑽入れたてまつらむ」と、みな語らひあはせけり。

（『源氏物語』による）

（注）
1　御服…八の宮が亡くなった後、姫宮と中の宮が喪に服す期間のこと。
2　薄鈍にて…姫宮と中の宮の服装が、喪服から薄ねずみ色の衣装に変わった様子をいう。
3　近劣り…側で見て、期待はずれでがっかりすること。
4　見譲る人…中の宮のお世話を任せられる人のこと。
5　かの人…薫。
6　つつみきこえたまひし藤の衣…姫宮が藤の衣（喪服）を着用する喪服期間を口実に、薫との対面を遠慮してきたことを表す。
7　心あやまり…姫宮の気分がすぐれない様子をいう。
8　例の人…弁の尼。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一瞬でも八の宮亡き後まで生き残っていられるだろうとは思わなかったのに
イ　いつまでも八の宮のおそばにいられるだろうとは思わなかったのに
ウ　近いうちに八の宮と別れて結婚できるだろうとは思わなかったのに
エ　時がたてばすべてを忘れて生きていけるだろうとは思わなかったのに
オ　いつかは幸せな日を迎えることができるだろうとは思わなかったのに

問二　傍線部（2）の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

問三　傍線部（3）の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　かぐわしい香りにみちていらっしゃった
イ　心細そうな様子でひどく嘆いていらっしゃった
ウ　かわいらしい美しさは優れていらっしゃった
エ　はかなげな風情ですがっていらっしゃった
オ　幼い子供のように無邪気でいらっしゃった

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部（４）について。陰暦九月の異名を、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

問五　傍線部（５）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名残おしくて　イ　不満な気持ちで　ウ　嘆かわしくて
エ　腹立たしくて　オ　待ちかねて

問六　傍線部（６）の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　聞き耳をお立てになって
イ　お断り申しあげて
ウ　聞き捨てになって
エ　寝たふりをなさって
オ　様子をおうかがいになって

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　傍線部（7）の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ますます無口になりまして
イ　ますます遠慮されまして
ウ　かえって気持ちが落ち着きまして
エ　かえって白々しく思われまして
オ　かえって悲しみが深まりまして

問八　傍線部（8）の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名詞＋動詞の未然形＋完了の助動詞の終止形
イ　名詞＋動詞の連用形＋完了の助動詞の終止形
ウ　副詞＋動詞の連用形＋完了の助動詞の終止形
エ　副詞＋動詞の未然形＋打消の助動詞の連体形
オ　副詞＋動詞の連用形＋打消の助動詞の連体形

問九　傍線部（9）とは誰のことか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　八の宮　　イ　姫宮　　ウ　中の宮　　エ　薫　　オ　弁の尼

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　傍線部（10）は、誰を入れるというのか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　八の宮　　イ　姫宮　　ウ　中の宮　　エ　薫　　オ　弁の尼

問十一　波線部（a）～（c）は、それぞれ誰に対する敬意を表すか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　八の宮　　イ　姫宮　　ウ　中の宮　　エ　薫　　オ　弁の尼

（a）＝　　（b）＝　　（c）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　復習問題

① 「この人にさへおくれて」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　この人にまで裏切られて
イ　この人にまで先立たれて
ウ　この人にまで見限られて
エ　せめてこの人だけは裏切らずに
オ　せめてこの人の最期だけは見届けて

② 「ほそやかに、なまめかしうて、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　恥ずかしげに　　イ　優雅に
ウ　とりつくろって　　エ　よそよそしく

③ 「『いと耐へがたしや』とすまひ給ふ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　陳謝し　　イ　辞退し
ウ　同情し　　エ　苦笑し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「なかなか静心なく思さるれば、人目をもえはばかりあへ給はで渡り給ふ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　近くにいるのにかえって落ち着かなくお感じになり、他人の目を気にすることもおできになれないで訪問なさる。

イ　なかなか訪問できずにいたのがどうしても気がかりで、女君に遠慮なさりながら舟を出される。

ウ　いつでも会えるとなるとかえって安心なさってしまって、明石の君に気遣いなさらずに過ごしていらっしゃる。

エ　離れていると次第にそわそわしてしまうので、周囲の目を考え合わせながら慎み続けていらっしゃる。

オ　中途半端な距離なのでご不満に思われて、女君の気になさるのをおそれてもいられないでお出かけになる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　実践演習⑷『発心集』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

奈良に、松室（まつむろ）といふ所に僧ありけり。官（くわん）なんどはわざとならざりけれど、徳ありて用ゐられたる者イになんありける。そこに、幼き児（ちご）①の、ことにいとほしくするありけり。この児、朝夕、法華経を読み奉りければ、師これをうけず、「幼き時は（注1）学文（がくもん）をこそせめ。②いとげにげにしからず。」など諫められて、一度は随（したが）ふやうなれど、ややもすれば、忍び忍びになん、これを読む。いかにも志（こころざし）深き事と見て、後には、誰も制せずなり③にけり。

かかる程に、十四、五ばかりになりて、この児④いづちともなく失せぬ。師大きロに驚きて、いたらぬくまもなく尋ね求むれど、さらになし。「（注2）物の霊（りやう）なんどに取られたるなめり。」といひて、泣く泣く⑤後の事なんどとぶらひてやみにけり。

その後、月ごろ経て、この房にある法師の、薪採らんとて山深く入りたりけるに、木の上に経読む声a聞こゆ。あやしくてこれを見れば、失せハにし児なり。［X］覚えて、「いかにかくてはおはしますぞ。さしも嘆き給ふものを。」といへば、「その事なり。さやうの事もb聞こえんとて、逢ひ奉らんと思へど、便り悪しき事ニになりて、Aえなん近づき奉らず。うれしく見

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

え逢ひたり。(B)これへ、かまへておはしませと申せ。」といひければ、走り帰りて、この由を語る。

師驚きて、即ち来たる。児語りていはく、「我、(注3)読誦（どくじゅ）の仙人にまかりなつて侍るなり。日ごろも御恋しく思ひ奉りつれど、かやうにまかりなつて後は、聞くべき便りもなし。大方、人のあたりは穢（けが）らはしく、臭くて、堪ゆべくもあらねば、思ひながら、えなん詣でざりつる間、近うて見奉る事はえあるまじ。」といひて、ともに涙を落しつつ、やや久しく語らふ。

（『発心集』）

（注）１　学文…仏典の学習。
２　物の霊…たたりをなす霊魂。死霊、生き霊などの怨霊。
３　読誦…声を出して経文を読むこと。読経。

問一　傍線部①「の」の用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　主格　　ロ　連体格　　ハ　同格　　ニ　準体格

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部②「いとげにげにしからず。」が表す内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　さっさと逃げだしたほうがよい。
ロ　師の言うことを軽んじてはならない。
ハ　心の底から叱っているのではない。
ニ　あまりふさわしいこととはいえない。

問三　傍線部③「に」と文法的に同じ働きをするものを、問題文中の波線部イ〜ニから一つ選べ。

問四　傍線部④「いづちともなく失せぬ。」が表す内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　どんな病気になろうが死なない。
ロ　どういう理由かわからないまま死んでしまった。
ハ　どんなことがあってもいなくならない。
ニ　どこへともなくいなくなってしまった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部⑤「後の事なんどとぶらひてやみにけり。」が表す内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

イ　後継者のことが心配で病気になってしまった。
ロ　それから児の行方を何度も探してあきらめてしまった。
ハ　死者のための法事などを営んで終わってしまった。
ニ　児の将来などを案じて後悔するほかなかった。

問六　傍線部ａ・ｂの意味・用法と同じものとして最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

イ　竹の中より見つけ聞こえしかど…
ロ　帝のたまはすれど、女御は御いらへもえ聞こえ給はず。
ハ　むかし名だかく聞こえるところなり。
ニ　松風、いと耳近う心細く聞こえて…

ａ＝　　　ｂ＝

問七　空欄Ｘに入る最も適当な語を、次の中から選べ。

イ　すさまじく　　　ロ　はづかしく
ハ　おもしろく　　　ニ　あさましく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　傍線部Ａ「えなん近づき奉らず。」を現代語訳せよ。

問九　傍線部Ｂ「これへ、かまへておはしませと申せ。」を「申す」の主体と客体を補って現代語訳せよ。

問十　二重傍線部「奉る」は、誰から誰への敬意か答えよ。

問十一　次のイ～ハについて、物語の内容に合っていれば１、合っていなければ２と記せ。

イ　児は師に戒められても、こっそり法華経を読み続けた。
ロ　師の僧が薪を集めに山に入ったところ、失踪した児と思いがけず再会した。
ハ　仙人となった児は、山中に住む自分の臭いが人間には耐えられないと考えた。

イ＝　　　ロ＝　　　ハ＝

問十二　『発心集』の編者の名前を漢字（楷書）で書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　復習問題

①「筑紫の者の、友なる二人、高野に住みて、北、南に住処（すみか）を構へて侍りければ、時の人『南筑紫』『北筑紫』と言ひけるなるべし。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　主格　　イ　連体修飾格　　ウ　目的格　　エ　同格

②「いたくむげならぬ家」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　少しも悪くは見えない
イ　たいして貧相に見えない
ウ　全く傷んだところが見えない
エ　ひどく目立っているようには見えない

③「しのびて渡りて見れば、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　自由に　　イ　こっそりと
ウ　なつかしんで　　エ　のんびりと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「更にえかくし申すまじ」の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　つけ加えて隠し申し上げるべきではない
イ　まったくもって隠し申し上げるのがよいだろう
ウ　そのうえ隠し申し上げることができないようにしよう
エ　おそらく隠し申し上げることになるだろう
オ　決して隠し申し上げることはできないだろう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　実践演習⑸　『古本説話集』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

今は昔、*長能(ながたう)、*道済(みちなり)といふ歌詠みども、[1]いみじう挑み交はして詠みけり。長能は、蜻蛉の日記したる人の兄人(せうと)、伝はりたる歌詠み、道済、信明(さねあきら)といひし歌詠みの孫にて、いみじく挑み交はしたるに、*鷹狩の歌を二人詠みけるに、長能、

　あられ降る交野(かたの)の御野(みの)の狩衣(かりごろも)ぬれぬ宿かす人しなければ

道済、

　ぬれぬれもなほ狩りゆかむ*はしたかの上毛(うはげ)の雪をうち払ひつつ

と詠みて、おのおの「我がまさりたり」と論じつつ、*四条大納言の許(もと)へ二人参りて、判ぜ[A]させ奉るに、大納言のたまふ、「ともによきにとりて、[2]あられは、宿借るばかりは、いかで濡れむぞ。ここもとぞ劣りたる。歌柄はよし。道済がは、さ言はれたり。末の世にも集などにも入り[B]なむ。」とありければ、道済、舞ひ奏でて出でぬ。長能、物思ひ姿にて出でにけり。さきざき何事も、長能は上手(うはで)を打ちけるに、この度は本意(ほい)なかりけりとぞ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

春を惜しみて、*三月小なりけるに、長能、

心憂き年にもあるかな二十日あまり九日(ここぬか)といふに春の暮れぬる

と詠み上げけるを、例の大納言、「春は二十九日のみあるか」とのたまひけるを聞きて、[3]ゆゆしき過ちと思ひて、物も申さず、音もせで出でにけり。さて、そのころより、[X]例ならで重きよし聞き給ひて、大納言、とぶらひにつかはしたりける返り事に、「春は二十九日あるか」と候ひしを、[Y]あさましき僻事(ひがごと)をもして候ひけるかなと、心憂く歎かしく候ひしより、かかる病になりて候ふ也。」と申して、ほどなく失せにけり。

「[4]さばかり心に入りたりしことを、よしなく言ひて。」と、後まで大納言はいみじく歎き給ひけり。あはれに[Z]すきずきしかりけることどもかな。

（『古本説話集』より）

（＊注）長能…藤原長能。平安時代の歌人。
道済…源道済。平安時代の歌人。
鷹狩…鷹と犬を用いて、鳥を捕る狩。
はしたか…狩に使う鷹。
四条大納言…藤原公任。平安時代の歌人で、この時代を代表する学才の持ち主であった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三月小…陰暦で二十九日ある月を「小」、三十日ある月を「大」という。

問一　二重傍線部Ａ「させ」Ｂ「なむ」について、文法的説明が同じものを、次の中からそれぞれ選べ。

Ａ「させ」

ア　かえり入らせ給はむ事はあるまじくおぼして、しか申させたまひけるとぞ。
イ　この帝、貞観九年丁亥五月五日、生まれさせたまふ。
ウ　この宮に御覧ぜさせむとて、『三宝絵』は作れるなり。
エ　「小さきはあへなむ」と、おほやけも許させたまひしぞかし。
オ　王威の限りなくおはしますによりて、理非を示させたまへるなり。

Ｂ「なむ」

ア　よそ人にてまじらひたまはむ、見ぐるしかりなむ。
イ　その薬食ひたる人は、かく目をなむ病む。
ウ　よひよひごとに、うちも寝ななむ。
エ　さあらむ所に、一人往なむや。
オ　「こと出で来なむず、いみじきわざかな」とおぼしたり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部X「例ならで重きよし」、Y「あさましき僻事」、Z「すきずきしかりけること」の本文中における意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ選べ。

X「例ならで重きよし」

ア　今までにないほど落ち込んでいること
イ　以前の出来事以上に憤っていること
ウ　投獄され重罪に処せられること
エ　病気になり状態が非常に悪いこと
オ　前代未聞の失敗で気後れしていること

Y「あさましき僻事」

ア　あきれるほどの失態
イ　浅はかに見える仕返し
ウ　前後の見境のない愚行
エ　おごり高ぶった悪事
オ　昔を驚かせるいたずら

Z「すきずきしかりけること」

ア　過ちに対し意固地になりすぎたこと
イ　風流の道に熱心であったこと
ウ　皆が興ざめに感じてしまったこと
エ　和歌の道にはそぐわなかったこと
オ　過ちに対し清廉潔白であったこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部１「いみじう挑み交はして詠みけり」とあるが、長能と道済の関係の説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　鷹狩の歌の勝負には長能が勝ったが、以前の勝負では道済の方が優勢であった。
イ　鷹狩の歌の勝負には道済が勝ったが、以前の勝負では長能の方が優勢であった。
ウ　鷹狩の歌の勝負には長能が勝ったように、以前から長能の方が優勢であった。
エ　鷹狩の歌の勝負には道済が勝ったように、以前から道済の方が優勢であった。
オ　鷹狩の歌の勝負も互角であったように、普段から互角の勝負をくりひろげていた。
カ　鷹狩の歌の勝負では互角であったが、以前の勝負では道済の方が優勢であった。
キ　鷹狩の歌の勝負では互角であったが、以前の勝負では長能の方が優勢であった。

問四　傍線部２「あられは、宿借るばかりは、いかで濡れむぞ」を現代語訳せよ。

問五　傍線部３「ゆゆしき過ち」とはどのようなことか。最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　三月は小の月であるにもかかわらず、長能が三十日まである意の歌を詠んでしまったこと。
イ　四月から本格的に春になると思った大納言が、「春は二十九日に暮れるはずがない」と批判したこと。
ウ　まだ九日残っているにもかかわらず、長能が三月の終わりを惜しむ歌を詠んでしまったこと。
エ　歌の中で「二十九日」が強調されていたので、大納言が春は一日で終わると解釈してしまったこと。
オ　春は三ヶ月であるのに、長能が二十九日しかないように誤解される歌を詠んでしまったこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部４「さばかり心に入りたりしことを、よしなく言ひて」といった大納言の心情として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　長能の苦しみの原因がわからないため、自身の和歌の評価が適切だったか顧みている。
イ　長能がどれほど和歌に一途であったかを十分に理解していなかったと悔やんでいる。
ウ　長能が二度も和歌を酷評されたことを恨みに思っていたのだとわかり、反省している。
エ　長能の和歌の真意を手紙ではじめて知り、自分の評価が至らなかったと恥じている。
オ　長能は和歌の失敗が原因で死んだと知ったが、その苦しみが理解できないでいる。

問七　波線部「蜻蛉の日記したる人」とは誰のことか。次の中から選べ。

ア　阿仏尼　　イ　菅原孝標女　　ウ　和泉式部
エ　建礼門院右京大夫　　オ　藤原道綱母

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　復習問題

①「その頃より、例ならで重きよし聞き給ひて…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　体調がすぐれず　　イ　引きこもって
ウ　予想と違って　　エ　うち沈んで

②次の傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として最も適当なものを、後の中からそれぞれ選べ。

判ぜ[a]させたてまつるに…
出で[b]にけり。

ア　推量　　イ　使役　　ウ　断定　　エ　完了　　オ　尊敬

ａ＝　　　ｂ＝

③「集などにも入りなむ。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞
イ　終助詞
ウ　動詞の一部＋推量の助動詞
エ　強意の助動詞＋推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「我が僻事によりて恥がまし。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私の最低限の要求
イ　私がしでかした間違い
ウ　私の身に起こった不都合なこと
エ　我が家にとっての不運なできごと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　実践演習⑹　『堤中納言物語』

次の文章は、『堤中納言物語』「思はぬ方に泊りする少将」の一節で、大納言夫妻の死後、妹君とともに心細く暮らす姫君のもとに、主人公の少将が通ってくるようになったころのことを記している。これを読んで、後の問に答えよ。

大納言の姫君、二人ものし給ひし、まことに物語に書きつけたるありさまに劣るまじく、何事につけても生(お)ひ出で給ひしに、故大納言も母上も、うち続き隠れ給ひにしかば、いと心細き古里に、ながめ過ごし給ひしかど、(1)はかばかしく御乳母(めのと)だつ人もなし。ただ、常に候(さぶら)ふ(注1)侍従、弁などいふ若き人々のみ候へば、年にそへて人目まれになり行く古里に、いと心細くておはせしに、右大将の御子の少将、知るよしありて、いとせちに聞こえわたり給ひしかど、かやうの筋は、かけても思し寄らぬことにて、御返事(かへりごと)など思しかけざりしに、(注2)少納言の君とて、いといたう色めきたる若き人、何のたよりもなく、二ところ(2)御とのごもりたる所へ、導き聞こえてけり。

もとより御志ありけることにて、姫君をかき抱きて、御帳(みちやう)の内へ入り給ひにけり。思しあきれたるさま、例のことなれば書かず。推しはかり給ひにしも過ぎて、あはれに思さるれば、うち忍びつつ通ひ給ふを、(注3)父殿聞き給ひて、「(3)人のほど、(4)口惜しかるべきにはあらねど、何かは、いと心細き所に」など、許しなく(A)のたまへば、思ふほどにもおはせず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

君も、しばしこそ忍び過し給ひしか、さすがに、⑸さのみはいかがおはせむ。さるべきに思しなぐさめて、やうやううちなびき給へ(a)るさま、⑹いとどらうたく、あはれなり。昼など、おのづから寝過し給ふ折、見(B)奉り給ふに、いとあてに、らうたく、うち見るより心苦しきさまし給へり。

何事もいと心うく、⑺人目まれなる御すまひに、人の御心もいと頼みがたく、「いつまで」とのみながめ(b)られ給ふに、四、五日いぶせくて積りぬるを、「思ひしことかな」と心細きに、御袖ただならぬを、我ながら、「⑻いつならひけるぞ」と思ひ知られ給ふ。

人心あきのしるしの悲しきにかれゆくほどのけしきなりけり

（注）１　侍従、弁…姫君・妹君に仕える女房の名。
２　少納言の君…姫君・妹君に仕える女房の名。
３　父殿…少将の父、右大将。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　思いやりがある　イ　血縁がある　ウ　しっかりしている
エ　年長である　オ　経験が豊かである

問二　傍線部（2）の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　生活している部屋　イ　鎖されている部屋　ウ　就寝している部屋
エ　空いている部屋　オ　隠れている部屋

問三　傍線部（3）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　情愛　イ　容姿　ウ　身分
エ　財産　オ　人望

問四　傍線部（4）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　物足りない　イ　不愉快だ　ウ　後悔される
エ　気の毒だ　オ　親しめない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部（A）・（B）それぞれ誰の誰に対する敬意を表すか。最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

ア　語り手の姫君に対する敬意
イ　語り手の少将に対する敬意
ウ　少将の姫君に対する敬意
エ　姫君の少将に対する敬意
オ　語り手の父殿に対する敬意
カ　少将の父殿に対する敬意

（A）＝　　　（B）＝

問六　傍線部（5）の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　少将との関係をつらく思ってばかりはいられない
イ　少将にひかれたことを悔やんでばかりはいられない
ウ　少将との関係を世間に隠してばかりはいられない
エ　父殿の意向を気にして自重してばかりはいられない
オ　父殿が反対するのに逆らってばかりはいられない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　二重傍線部（a）・（b）の文法上の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。ただし、同じ記号を二度用いてもよい。

ア　受身　　イ　自発　　ウ　尊敬　　エ　可能　　オ　存続

（a）＝　　（b）＝

問八　傍線部（6）の現代語訳を十字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

問九　傍線部（7）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人から避けられている
イ　人の目に触れない
ウ　人に知られていない
エ　人の訪れがない
オ　人が住んでいない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　傍線部（8）について。どういうことを「なら」ったというのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　恋がうまくゆかないことゆえの物思いのつらさ
イ　人の愛情をうかつに信じてしまったわが身の愚かさ
ウ　いつまで生きられるかわからない命のはかなさ
エ　自分の思うように生きられない運命のつたなさ
オ　生前の父母からそそがれた愛情のありがたさ

問十一　波線部の和歌の「あき」には「秋」と「飽き」、「かれ」には「枯れ」と「離れ」の意味が含まれている。このような修辞技法を何というか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　枕詞　　イ　掛詞　　ウ　序詞　　エ　縁語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　復習問題

①「ながめがちならんもいとほしくて」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつも留守がちであるのも
イ　もの思いに沈みがちであるのも
ウ　落ちぶれて貧しくなりそうなのも
エ　何事にも意欲をもてなさそうなのも

②「はかばかしき御後ろ見なければ…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　計算高い
イ　ちょっとした
ウ　親しみやすい
エ　たしなみがある
オ　しっかりとした

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「御殿籠り」の語について、正しい説明を次の中から選べ。

ア「共寝をする」の意味の動詞
イ「寝る」という動詞の尊敬語
ウ「寝る」という動詞の丁寧語
エ「じっとしている」という動詞の尊敬語
オ「じっとしている」という動詞の謙譲語

④「とく詠めるにかしこき事なし。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞の活用語尾の一部
イ　受身の助動詞
ウ　自発の助動詞
エ　可能の助動詞
オ　完了の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　実践演習(7)『白露』

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

夜もやうやう明け方近くなれば、「①明け離れなば、便なからん。暗き程に」と思ほし急ぐも、そぞろに心あわたたしう、この頃はさもうち解けても[a]参り給はで、いとめづらかなるさまの御対面に名残留まる心地し給ひて、とかくうち嘆きつつやすらひ給ふ。女も、なのめならずもの苦しきやうにし給ふを、いとふりがたく心苦しくて、またしばし語らひ給へるに、鳥もしばしばうちしきり、物の隈（くま）々など、いろ白く隙（ひま）見ゆれば、杉子など起き出でつつ、「あな［ X ］。出でさせ給へ。②人もこそ見れ。はやはや」と諌（いさ）め聞こゆ。からうして御直衣など引きつくろひて、出で給ふを、女も見奉り送らんとてにや、［ Y ］の帷子（かたびら）少し押しやりて、とばかりゐざり出で給ふ。御寝くたれのはらはらと紛ふ筋なくこぼれかかれる［御宿直姿］のしどけなげなるに、菊襲のなえたるに、御裳ばかりさすがに引き掛け給へる御もてなし、ねびれたる御顔つきしも、まして匂ひやかにめでたきを、君も立ち止まりて、返り見給へる様の、尽きすべくもあらぬを、絵にも書き留め〈1　まほし〉。御指貫の裾、気色ばかり[b]取りて、霜深き庭の草葉を分け給ふ程、御袖もいたうしほたれまさる。妻戸の口少し開けて、杉子の君のぞきゐ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たれば、「起き別れ行くしののめの道は、かく露けしとも、まだ慣らはぬを」とて、

「いかさまの世々に結びし契りにてかかる浅茅(じ)の露を分く〈２　らん〉

悪ろかめれど、かく聞こえさせよ」と宣へば、やがて参りぬ。御轅(ながえ)さし寄せて、召さする程に、追ひて、

吹きまよふ風の心も白露は結びもあへず消えや果つべき

帰りおはします道の程にて、日もさし上がりぬ。かかるはしたなき御濡れは、朝霧にも紛るる方なかるべきが、いとすべなさに、御乳母(めのと)の少将と聞こゆる、この御通ひ路の中宿りければ、それがり忍びておはしつつ、御装束改め替へなどして、日暮れかかる程に殿におはしたり。左衛門佐、「御前に求めさせ侍りけるを、『太政大臣の御召しありて、渡らせおはしましし』と申し侍りつ」と聞こえたれば、A急ぎ参り給ふ。まづ、母君の御前に候ひつつ、よろづ御気色賜り給ふに、中納言も渡らせ給ひて、何くれと御物語聞こえ給ふ程に、夜も更けぬ。Bかくあながちにまつはさせ給ひて、一日見奉らせ給はぬをだに飽かずいみじきことに尋ね惑はせ給ふままに、おのづから心に任する歩きもかなはず。「③今日は御文をだに奉らで、いかにしてかは暮らさるらん」と、いとうしろめたう、目も合はず思ひ明かし給ふ。明くる日は、「いと疾(と)くまうでん」と、暮るるを待

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ちかねつつ ⓒながめゐ給ふに、六日の御物忌みとて、いたう慎ませ給へば、また言ふ甲斐なくいたづら臥しにて、籠りおはす。

（『白露』上）

（注）杉子…女君の亡き乳母の娘。女君の侍女。
　　左衛門佐…男主人公の後見。
　　中納言…男主人公の父。

問一　波線部①〜③の口語訳として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

①　明け離れなば、便なからん

ア　夜が明け二人が別れるとどうしようもなくなるだろう。
イ　夜が明けてしまうと帰る手段がないようだ。
ウ　朝になり別れると気持ちも離れるだろう。
エ　夜が明けてしまったなら不都合だろう。
オ　朝になってしまったなら手紙も送れないようだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② 人もこそ見れ
ア　お姿を人が見ると大変です。
イ　人の姿も見えるころになりました。
ウ　女君の姿を一日だけでも見てください。
エ　あろうことか、私の寝起きの姿を見るなんて。
オ　お姿を女房たちも見たいのです。

③ 今日は御文をだに奉らで、いかにしてかは暮らさるらん
ア　今日はお手紙さえくださらないで、わたしはどのようにして一日を暮らしたのだろうか。
イ　今日はお手紙だけ差し上げるもののお訪ねはせず、あの方がどのように一日を暮らしたのか定かではない。
ウ　今日はお手紙さえたまわらず、あの方はどのようにして暮らしておいでであろうか。
エ　今日はお手紙だけは差し上げたがお返事がなく、これから私はどのように暮らすことができようか。
オ　今日はお手紙さえ差し上げないでいたが、あの方はどのようにしてお暮らしだろうか。

問二　点線部ａ～ｃの行動の主体として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ（同じものを何回用いてもよい）。
ア　女君　　イ　男主人公　　ウ　杉子　　エ　少将
オ　左衛門佐　　カ　太政大臣　　キ　母君　　ク　中納言

a＝　　b＝　　c＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　空欄［Ｘ］に入れるのに最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　かま　　イ　わりな　　ウ　かしこ
エ　うしろめた　　オ　めでた

問四　空欄［Ｙ］に入れるのに最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　半蔀　　イ　格子　　ウ　几帳
エ　脇息　　オ　屏風

問五　［御宿直姿］とあるが、その描写として不適当なものを、次の中から選べ。

ア　柔らかくなった菊襲の装束を身につけている。
イ　裳は忘れずに着用している。
ウ　少し膝行して姿を見せて見送っている。
エ　幼さの残る美しい顔つきをしている。
オ　寝て乱れた髪がほつれなくかかっている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　助動詞１・２の本文中の文法的意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

ア　現在の婉曲　　イ　推定　　ウ　仮定
エ　希望　　オ　現在原因推量　　カ　適当

１＝　　２＝

問七　二重傍線部「轅」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人が運ぶ駕籠（かご）の一部。　　イ　馬の背に取り付ける鞍（くら）の一部。
ウ　牛車の前方に突き出ている長い棒の部分。　　エ　牛車の牛をはずした時、棒の部分を支える台。
オ　乗車中、人が足をかけておく馬具。

問八　傍線部の和歌の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　先の和歌に追加して、女君の心の奥を理解できない哀しみを詠み上げた男主人公の和歌。
イ　出立しようとする男主人公に対して詠んだ、我が身を風の心も知らず消えてしまう露になずらえた女君の和歌。
ウ　道中の草葉に置く露を詠みながら、実は男主人公の帰路を案ずる気持ちを詠んだ女君の和歌。
エ　女君から受け取った和歌に対する返歌という形で、隠しきれない恋心を打ち明けた男主人公の和歌。
オ　「浅茅の露」という歌語を承けて「白露」を持ち出し、女君の美しい姿を比喩によって表現した男主人公の和歌。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問九　傍線部Ａ「急ぎ参り給ふ」の理由として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　太政大臣がお呼びであることを、左衛門佐より伝え聞いたから。
イ　少将のところに立ち寄って着替えたことで、予定通りの行動がとれなくなっていたから。
ウ　左衛門佐と話し込んでいたため、母の急用に応じられなくなりそうであったから。
エ　日暮れまでに太政大臣の所に行かなくてはならなかったから。
オ　左衛門佐が、女君を訪問していたことを両親には誤魔化していてくれたから。

問十　傍線部Ｂ「かくあながちにまつはさせ給ひて」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　男主人公が、片時も女君への恋情を忘れないことを表現している。
イ　出家の妨げとなる人たちが、男主人公の周りには複数いることを示している。
ウ　両親が、あれこれと世話を焼き、男主人公の身辺から離れない様を表現している。
エ　お付きの者が、女君を訪問することを妨害するために、男主人公の身辺にいることを表現している。
オ　男主人公が、立身出世の志と女君への愛の板挟みになり、煩悶（もん）していることを示している。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　復習問題

①「生まれおちなばすてん」の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　生まれたら、すぐに捨ててしまおう
イ　生まれ落ちたので、捨ててしまおう
ウ　もう生まれてしまったので、捨てられない
エ　生まれてくるのであれば、捨てはしない

②「一日のやうにもこそあれ、かたはらいたし、と思ひつつ」の内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　先日のように、兼家が明け方に手紙を持ってきてくれたらうれしいし、周りの人にも誇らしいと思いながらも
イ　先日のように、兼家が家の前を素通りしていったのでは困るし、はたの目も気になると思いつつも
ウ　先日のように、兼家が縫い物を頼みに来たのでは気の毒で、横で見ていてみっともないと思いながらも
エ　先日のように、兼家とののしり合いになったらいやだし、腹痛がすると思いつつも

③「女、もの聞こえむにもほど遠くてびんなければ、扇をさしいでて…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうするか決めかねて
イ　具合が悪いので
ウ　手が届かないので
エ　他に人がいないので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「いづ方へか行きぬらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　指示代名詞＋格助詞＋疑問の係助詞＋動詞＋完了の助動詞＋現在推量の助動詞
イ　指示代名詞＋格助詞＋反語の係助詞＋動詞＋完了の助動詞＋伝聞の助動詞
ウ　指示代名詞＋格助詞＋疑問の係助詞＋動詞＋打消の助動詞＋婉曲の助動詞
エ　形式名詞＋格助詞＋反語の係助詞＋動詞＋完了の助動詞＋伝聞の助動詞
オ　形式名詞＋格助詞＋疑問の係助詞＋動詞＋打消の助動詞＋現在推量の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　実践演習⑻『夜の鶴』

次の文章は、鎌倉時代の女性歌人である阿仏尼が、夫の歌論を紹介するという形で著わした歌道書の一部である。これを読み、設問に答えよ。

まづ歌をよまむ人は、ことにふれて情を先として、もののあはれを知り、つねに心をすまして、花の散り、木の葉の落つるをも、露しぐれ、色かはる折ふしをも、目にも心にもとどめて、歌の風情を起(た)ち居につけて、心をかくべきにてぞ候ふらむ。

また、四季の歌には、そらごとしたるわろし(A)。ただ、ありのままのことを、やさしくとりなしてよむべし。恋の歌は、利口、そらごと多かれど、わざとも苦しからず。「枕の下に海はあれど」「胸は富士袖は清見が関」とも、ただ、思ひの切(せち)なる風情をいはむとて、いかほどもよそへいはむこと、四季の歌にことなるべし、と申され候ひき。

また、四季の歌のそらごとも、やうによるべし。遍昭(へんぜう)僧正の「玉にもぬける春の柳か」などよまれたるをはじめて、「有明の月と見るまでに吉野の里にふれる雪」、花を「雲に似たり」ともとりなすことどもは、いつはりながら、まことにさおぼゆることなれば、［X］。さらでは、なきことをよむべからずといふことも、よくよく心得分くべきにや。

また、「故郷」といふ題にて、「ふるさと」とばかりよむこと、つねのことなめれど、ただの歌にも、ふるさとなどよむこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

なれば、さして「故郷」といはむ題にては、「奈良の宮」とも、「難波（なには）の宮」とも、「志賀の宮」とも、名にBふりたるところをぞよみたきと候ひき。

「月前恋（つきのまへのこひ）」「寄月恋（つきによするこひ）」といふ題をも、人みな分かで、ただおなじさまによむこと、念なくや。月に寄するとて、ただ「月」といふ文字を借りつれば、寄せたるにてあるべし。「うはの空なるかたみにておもひもはては心かよはむ」などやうなるを、「寄せたる」と申すべきにや。「月の前」とは、さしむかひたるやうなるべきにや。

　恋しさはむなしき空にみちぬれば月も心のうちにこそCすめ

といふ歌も、俊成卿、「月前恋」といふ題にてよまれたるとやらん。

また、「うれしかりけり」「かなしかりけり」といふ文字を、未練の歌よみは、つねにこのみよむなり。Dげにうれしきこと、げにかなしきことならでは、つねによむまじきこととぞ申され候ひし。

（阿仏尼『夜の鶴』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部Aと同じ意味で使われている言葉を二つ、それぞれ四字で本文中から抜き出せ。ただし解答の順序は問わない。

問二　空欄［X］に入る最も適切な言葉を、本文中から五字で抜き出せ。

問三　傍線部Bを表す漢字として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

1　触　　2　振　　3　震　　4　旧

問四　傍線部C「すめ」は掛詞で、二つの意味がかけられている。それぞれの意味を、最も適切な漢字を用いて答えよ。ただし解答の順序は問わない。

「　　　」と「　　　」

問五　傍線部Dの意味として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

1　少し　　2　本当に　　3　限りなく　　4　まあまあ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　筆者の主張に合致するものを、次の選択肢の中から二つ選べ。

1　歌を詠もうとする人は、何よりもまず、先人たちの歌を学ばねばならない。
2　四季の歌で作りごとを詠むことは、いかなる場合も認められない。
3　「月に寄する恋」という題の歌では、必ずしも月に直接向き合った状態を詠む必要はない。
4　「故郷」という題の歌では、東国の地名を詠むことは避けるべきである。
5　真実の感情に基づかない表現を歌の中で多用することは避けるべきである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　復習問題

①「いとやさしくこそ聞こえはべりしか」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　非常に優美なことと
イ　たいへんおもしろく
ウ　とても簡単そうに
エ　本当に真心を込めて

②「げにげにしく」と類義の語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いみじき　　イ　そぞろに　　ウ　おそろしき
エ　をこがましく　　オ　まことしく

③「ありし世の恨みも消えて白雪のふりにし人ぞさらに恋しき」の傍線部は掛詞である。漢字二つの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から二つ選べ。

ア　降り　　イ　振り
ウ　震り　　エ　古り

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　実践演習⑼『讃岐典侍日記』

次の文章は、筆者が女官として長年にわたって近侍し、寵愛を受けた堀河帝が死去した翌年のことである。これを読んで、後の設問に答えよ。

三月になりぬれば[ア]例の月に参りたれば、堀河院の花いとおもしろし。兼方、後三条院におくれまゐらせて、

　いにしへに色もかはらず咲きにけり花こそものは思はざりけれ

とよみけむ、[イ]げにとおぼえて、花はまことに色もかはらぬけしきなり。

　昔の清涼殿をば御堂になさせたまひて、七月まではよひあかつきの例時絶えず、二十人の蔵人町・左近の陣など、僧坊になりたり。内裏にてありし所どもさびしげなる、見るにも、うせさせたまへりけむ院のうちの、[a]ひきかへかいすみさびしげなるをご覧じて、

　かげだにもとまらざりける雲のうへを玉のうてなとたれかいひけむ

とよませたまひけむ、げにとぞおぼゆる。

　宮の御かたに三十講を[b]おこなはせたまふとて、法華経を日に一品づつ講ぜさせたまふ。それ聞きに三位殿の参らせたまふ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に、具して参りて、講などはてて、御前近く三位殿をめせば、さぶらはる‖。宰相とてさぶらはるる人、「三位殿はいますこし近く参らせたまへ。典侍殿は、今ははづかし」といふを聞かせたまひて、「それしもこそ、こころざし見ゆれ、見だてなく思ひいでもなげに見ゆる所を、忘れず見ゆる」とおほせられもはてず、むせかへらせたまへる音の聞こゆるに、われもたへがたし。暮れぬれば、まかでぬ。

（藤原長子『讃岐典侍日記』）

注
堀河院…堀河帝在位中の仮御所。
後三条院…堀河帝より二代前の天皇。
七月…堀河帝の命日のある月。
例時…時を定めておこなう勤行。
院のうち…一条院の御所の中。一条院は、堀河帝から七代前の天皇。
かいすみ…ひっそりとして。
「かげだにも」の和歌…一条帝の中宮彰子の和歌。
宮…堀河帝の中宮篤子内親王。
三十講…滅罪のため法華経を講義する法会。
三位殿…藤原長子の姉、藤原兼子。亡き堀河帝の乳母であった。
宰相…古くから仕えている中宮篤子付きの女房。
典侍殿…筆者、藤原長子のこと。
今ははづかし…今日のところはご遠慮ください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部ａ・ｂの意味として適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

ａ　ひきかへ

１　入れかわり　　２　反対に　　３　うってかわり

４　くりかえし　　５　もとに戻り

ｂ　おこなはせたまふ

１　手伝われる　　２　いとなまれる　　３　しつらえられる

４　ご覧になる　　５　参加される

問二　傍線部ア「例の月に参りたれば、堀河院の花いとおもしろし」の解釈として適当なものを、次の中から選べ。

１　欠かさず、毎月行われる堀河帝追善の法要に参上すると、堀河院の桜はいつも花のさかりのころを思い出させるものだった。

２　もし今、毎月行われる堀河帝追善の法要に参上したとすれば、堀河院の桜の花はきっと美しいものだろう。

３　いつものように、毎月行われる堀河帝追善の法要に参上したならば、堀河院の桜の花が相変わらず美しいことが確かめられたのに。

４　いつものように、毎月行われる堀河帝追善の法要に参上すると、堀河院の桜の花は実に美しく咲いている。

５　いつものように、毎月行われる堀河帝追善の法要に参上したならば、堀河院の桜の花がもつ独特の印象は変わらないだろう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部イ「げにとおぼえて」について、筆者はなぜ「げに」と感じたのか。適当なものを、次の中から選べ。

1　筆者は、かつて兼方が後三条院の没後、「花は古来変わらずに何の物思いもなく咲いているが、私は帝を失った悲しみを忘れることができない」と詠んだことを想起し、あらためて兼方の心情に共感したから。
2　筆者は、かつて後三条院が先に逝去したとき、兼方に、「花は古来哀しみなど知らないといった風情で咲いているが、帝を失った悲しみは兼方と同じだ」と詠んだ歌を贈り、兼方と哀しみを共有したから。
3　筆者は、かつて兼方と後三条院とが相次いで逝去したとき、「花は昔と変わらず咲いているが、私は友人や帝を失った悲しみを忘れることができない」と詠んだことを想起し、悲しみをあらたにしたから。
4　筆者は、かつて兼方が後三条院の没後、「今年は花にも帝を失った悲しみの気持ちがにじんでいるようだ」と詠んだことを想起し、あらためて兼方の和歌に共感したから。
5　筆者は、兼方が後三条院の没後、「花が昔と変わらず咲いたのは、花は悲しみの気持ちを持たないからだ。しかし私たちだけは帝を失った悲しみが忘れられない」と詠んでよこしたことを想起し、あらためて兼方の友情に感謝したから。

問四　「かげだにも」の和歌の説明として不適当なものを、次の中から選べ。

1　亡くなった帝本人がいないばかりか、「かげ」すなわち面影も残っていないと、帝のいない哀しみを、「だに」を用いて強調している。
2　「雲のうへ」は内裏のことを喩えている。
3　いったい誰が「玉のうてな」と呼んだのかと問いかけ、帝のいない内裏はもはや「玉のうてな」とは呼べない、と哀しみの気持ちを強調している。
4　「かげ」「雲のうへ」「玉のうてな」など掛詞を多く用いている。
5　彰子の「かげだにも」の和歌を引き合いに出して、自分の悲しみを表している。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　二重傍線部「る」の文法的意味・用法が同じものを、次の中から選べ。

1　七月十五日の月にいでゐて、せちに物思へる気色なり。
2　堀河殿にて、舎人が寝たる足を狐に食はる。
3　さすがに住む人のあればなるべし。かくてもあられけるよ。
4　后御入内あるべき由、右大臣家に宣旨を下さる。
5　汝が持ちてはべるかぐや姫たてまつれ。

問六　本文の内容に合致するものを次の中から二つ選べ。

1　堀河院だけでなく中宮の御所でも、桜の花は満開であった。
2　かつての堀河帝の御所は、今はすっかり堂や僧坊に改築されてしまっていた。
3　堀河帝の逝去ののち、朝夕の供養が続けられていた。
4　筆者は、中宮の御所に出向くことには最初から気が進まなかったので、三位殿の呼び掛けにも一緒に出向くことはなかった。
5　宰相は、乳母である三位殿と筆者を御前に呼び寄せた。
6　悲しみゆえに筆者は、日暮れを待たずに退出した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　復習問題

①「例の、聞きもや合はせ給ふ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　例のごとく、早くも女君のお耳に入ったようだ
イ　ためしに、女君がお聞きになっているかどうか
ウ　いつものように、女君が他からお聞きになるだろうか
エ　ふだんから聞いていたことに女君がきっと思い当たられるだろう

②「いかがしたまひけむ」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　打消推量　　イ　伝聞推定　　ウ　現在推量
エ　過去推量　　オ　過去完了

③和歌の中の中心的な名詞に関連の深い語を詠み込む修辞技法を何というか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　掛詞　　イ　枕詞　　ウ　序詞
エ　縁語　　オ　折句

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　実践演習⑽『平家物語』

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

（落ちのびた屋島を出て、再び都に向かった三位中将維盛(これもり)は、その途中で高野山を訪れた。）

高野に年ごろ知り給へ①る聖(ひじり)あり。三条の斎藤左衛門大夫(たいふ)以頼(もちより)が子に、斎藤滝口時頼といひし者なり。もとは小松殿の侍なり。十三の年本所へ参りたりけるが、建礼門院の雑仕(ざふし)横笛といふ女あり。滝口これを最愛す。父是をつたへ聞いて、「世にあらん者のむこ子になして、出仕なんどをも心やすう（ア）せさせんとすれば、世になき者を思ひそめて」と、（イ）あながちにいさめければ、滝口申しけるは、「西王母(せいわうぼ)と聞こえし人、昔はありて今はなし。東方朔(とうばうさく)といひし者も、名をのみ聞きて目には見ず。老少不定(らうせうふぢやう)の世の中は、石火の光にことならず。たとひ人、長命といへども、七十八十をば過ぎず。そのうち身のさかんなる事は、わづかに二十余年なり。夢まぼろしの世の中に、みにくき者をかた時も見て何かせん。思はしき者を見んとすれば、父の命(めい)をそむくに似たり。是善知識なり。しかじ、うき世を厭(いと)ひ、まことの道に入りなん」とて、十九の年、もとどり切りて、嵯峨の往生院におこなひすましてぞ居たりける。

横笛これをつたへ聞いて、「（ウ）われをこそすてめ、様をさへかへけん事のうらめしさよ。たとひ世をばそむくとも、などか

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

かくと知らせざらん。人こそ心強くとも、たづねて恨みん」と思ひつつ、ある暮がたに都を出でて、嵯峨の方(かた)へぞあくがれゆく。ころはきさらぎ十日あまりの事なれば、梅津の里の春風に、よその匂ひもなつかしく、大井河の月影も霞(かすみ)にこめておぼろなり。一方(ひとかた)ならぬ哀れさも、誰ゆゑとこそ思ひ②けめ。往生院とは聞きたれども、さだかにいづれの坊とも知らざれば、ここにやすらひかしこにたたずみ、たづねかぬるぞむざんなる。住みあらしたる僧坊に、念誦(ねんじゆ)の声しけり。滝口入道が声と聞きなして、「わらはこそ是までたづね参りたれ。様のかはりておはすらんをも、今一度見奉らばや」と、具したりける女をもちてエいはせければ、滝口入道むねうちさわぎ、障子のひまよりのぞいて見れば、まことに尋ねかねたるけしきいたはしうおぼえて、いかなる道心者も心よわくなりぬべし。オやがて人を出だして、「まったく是にさる人なし。門たがへでぞあるらむ」とて、遂にあはでぞかへしける。横笛なさけなううらめしけれども、力なう涙をおさへて帰りけり。滝口入道、同宿の僧に会ひて申しけるは、「是もよにしづかにて念仏の障碍(しやうげ)は候はねども、カあかで別れし女に此の住ひをキ見えて候へば、たとひ一度は心強くとも、又もしたふ事あらば、心もはたらき候ひぬべし。いとま申して」とて、嵯峨をば出でて高野へのぼり、清浄心院(しやうじやうしんゐん)にぞ居たりける。横笛も様をかへたるよし聞こえ③しかば、滝口入道一首の歌を送りたり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

　そるまでは恨みしかどもあづさ弓まことの道にいるぞうれしき

横笛が返りことには、

　そるとてもなにか恨みんあづさ弓ひきとどむ④べき心ならねば

横笛はその思ひのつもりにや、奈良の法花寺（ほっけじ）にありけるが、いくほどもなくて、遂にはかなくなり⑤にけり。滝口入道、かやうの事を伝へ聞き、いよいよふかくおこなひすまして居たりければ、父も不孝をゆるしけり。したしき者共もみな用ひて、高野の聖とぞ申しける。

（『平家物語』より）

注　本所…武者所。
建礼門院…平清盛の娘、徳子。高倉天皇の中宮となった。
雑仕…雑役に従事した下女。
西王母…中国の伝説上の仙女。長寿を願う漢の武帝に桃を与えたという伝説がある。
東方朔…漢の時代の文人。西王母の桃を盗んで食べ、長寿を得たと伝えられる。
石火…石を打つときに出る火の光。短い時間のたとえ。
善知識…仏道に導く契機となるもの。
清浄心院…高野山の蓮花谷にある塔頭。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一 傍線部①の「る」、②の「けめ」、③の「しか」、④の「べき」、⑤の「に」の意味として、最も適当と思われるものを、次の中からそれぞれ選べ。

1 受身　2 婉曲　3 過去　4 可能　5 完了
6 強意　7 推量　8 存続　9 伝聞　10 過去推量

①＝　②＝　③＝　④＝　⑤＝

問二 傍線部アの「せさせ」、エの「いはせ」、キの「見え」の主体は誰か。次の中からそれぞれ選べ。

1 以頼　2 横笛　3 三位中将
4 滝口入道　5 同宿の僧　6 具したりける女

ア＝　エ＝　キ＝

問三 傍線部イの「あながちにいさめければ」、オの「やがて人を出だして」を、それぞれ現代語訳せよ。

イ＝

オ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部ウの「われをこそすてめ」の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1　私を見捨てるつもりだったのに
2　私を見捨てるのがいいと思って
3　私を見捨てるのはいいとしても
4　私を見捨てようとしたばかりに
5　私を見捨てるような人であれば

問五　傍線部カの「あかで別れし女」の意味として、最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

1　あきらめて別れた女
2　いつの間にか別れた女
3　思いを告げずに別れた女
4　思い悩んで別れた女
5　嫌いになって別れた女
6　未練があるのに別れた女

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　本文の内容に合うものを、次の中から選べ。

1　滝口入道は、横笛と結婚することもかなわない浮き世のしがらみに絶望してしまい、出家の決意を固めた。
2　滝口入道は、再び横笛が尋ねてきたら、仏の道を志す気持ちがゆらぐと思い、誰にも言わず嵯峨を去った。
3　横笛は、友人の死を口実に自分と会うことを避けようとする滝口入道に対し、ますます恨みをつのらせた。
4　横笛は、仏門に入ったが、その後も滝口入道に対する思いがつのったためか、結局命を落としてしまった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　復習問題

①「あながちに徹して教へむ」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　勝手に　　イ　無理に　　ウ　遠慮がちに
エ　穏便に　　オ　不用意に

②「やがて神の御前にて書きたまふ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　かろうじて　　イ　しだいに　　ウ　しばらくして
エ　すぐに　　オ　ゆっくりと

③「さまかへ」の内容として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　離縁すること
イ　出家すること
ウ　零落すること
エ　身を隠すこと
オ　髪上げをすること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答／現代語訳

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　模範解答

〔例題〕

問一　ア

問二　エ

問三　ア

問四　イ

問五　イ

問六　ウ

オ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講

〈現代語訳〉

昔、若い男が、（容貌や気立てが）悪くはない女のことを（愛しいと）思った。（この男には）おせっかいをする親がいて、（女に対する）思いがつくと困ると思って、この女をよそへ追い出そうとする。そうは言うものの、まだ追い出していない。（男は）親に養われている身なので、まだ（自分の気持ちを主張する）気迫がなかったので、（親が女を追い出すのを）止める力がない。女も身分が低いので、抵抗する力がない。そうこうしているうちに、（男の女への）思いはいよいよ募る。突然、親が、この女を追い出した。男は、血の涙を流すが、（女を）とどめておく方法がない。（従者が女を）連れて出て行った。男が、泣く泣く詠んだ（歌）、

出でていなば…＝（女が自ら）出て行ったのならば、誰が別れ難いと思うだろうか、いや思わない。（しかしそうではないので）以前にもまさって、今日は悲しいことよ。

と詠んで、気を失った。親はあわてた。なんといってもやはり（親は息子のことを）思って言ったのだが、これほど（女性を思う気持ちが強いわけ）ではあるまいと思っていたのに、本当に気を失ってしまったので、（親は）うろたえて神仏に祈った。今日の日暮れ頃に気を失って、翌日の戌の時〔＝午後八時頃〕頃に、ようやく息を吹き返した。

昔の若者は、そのような熱の入った恋の思い悩みをした。今の時代の老人は、どうして（このような恋を）することができようか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講

〈現代語訳〉

花園の左大臣の家に、初めて参上した侍が、名簿の端に書き添える言葉に、「得意なことは歌を詠むこと」と書いた。大臣が、秋の初めに南殿に出て、はたおりの鳴く声を楽しんでいらっしゃったときに、日が暮れたので、「格子を下ろしに、誰か参れ。」とおっしゃったところ、「蔵人の五位が居合わせないで、お前が下ろせ。」とおっしゃったので、（私の他に）人がお控えしておりません。」と申し上げて、この侍が参上したので、（大臣が）「かまわずに、それならば、（侍が）御格子を下ろし申し上げていたところ、（大臣が）「お前は歌詠みであったな。」とおっしゃったので、（侍は）恐縮して御格子を下ろすのを途中でやめてそばにお控えしていたところ、（大臣が）「このはたおり（の鳴き声）を聞いているか。（この虫の音を題材に）一首詠み申せ。」とおっしゃったので、（侍は）「青柳の」と、最初の句を申し上げたところ、（その場に）お仕えしていた女房たちが、季節に合わないと思った様子で、笑い出したので、（大臣は）「最後まで物を聞かずに笑うことがあるか、いや、あってはならない。」とおっしゃって、「早く詠み申せ。」と命じられたので、

青柳の…＝青い柳の緑色の糸をたぐってためておき、夏の間に糸を機械にかけて、秋には機織りで織るという、秋の今はたおりが鳴いているよ。

と詠んだので、大臣は、感動なさって、萩の図柄が織ってある直垂を、（御簾の下から）押し出してお与えになった。

寛平の歌合のときに、「初雁」を（題材にして歌を詠むときに）、友則が、

春霞…＝春霞の中にかすんで飛んでいってしまった雁は、今、秋の霧の上で鳴いているようだ。

と詠んだとき、（友則は）左方であったが、（最初の）五文字を詠み上げた時に、右方の人が、それぞれ声に出して笑った。それから（友則が）次の句に、「かすみていにし」と言ったときにその笑い声もなくなり静かになった。（この侍の歌詠みの話は、この話と）同じことであろうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講

〈現代語訳〉

能登守教経の矢の正面に立ちはだかる者はまったくいなかった。（教経は）手もとにある矢のあるだけを射尽くして、今日を最後とお思いになったのだろうか、赤地の錦の直垂に、唐綾縅の鎧を着て、いかめしく作っている大太刀を抜き、白木の柄の大長刀の鞘をはずし、（太刀と長刀を）左右の手に持ってなぎ倒し回りなさると、面と向かって相手になる者はいない。（源氏の側で）多くの者たちが（能登殿に）討たれてしまった。新中納言〔＝平知盛〕が、使者をつかわして、「能登殿よ、あまり罪を作りなさるな。そんなことをしたからといって（あなたにふさわしい）立派な敵か。」とおっしゃったので、「それでは、大将軍〔＝源義経〕と組み討ちせよということだな。」と悟って、武器の柄を短めに持って、源氏の舟に次々に乗り移り、わめき叫んで攻め戦う。（しかし、能登殿は）判官〔＝源義経〕の顔を見知っていらっしゃらないので、武具の立派な武者を判官かと目をつけて、駆け回る。判官も前もって気づいていて、（能登殿の）正面に立つようにはしていたが、あちこちと行き違って能登殿と組みなさらない。けれども、どうしたのだろうか、（能登殿が）判官の舟に乗り当たって、「それっ。」と（判官を）めがけて飛びかかると、判官はかなうまいとお思いになったのだろうか、長刀を脇に挟み、味方の舟で二丈ほども離れていた舟に、ひらりと飛び乗りなさった。能登殿は、早業は劣っていらっしゃったのだろうか、すぐに続いて飛び移りなさらない。（能登殿は）今はこれまでとお思いになったので、太刀、長刀を海へ投げ入れ、甲も脱いでお捨てになった。鎧の草摺も引きちぎって捨て、（鎧の）胴だけを着てざんばら髪になり、大きく手を広げて立ちなさった。おおかた周囲を圧倒する様子に見えた。恐ろしいなどという言葉ではとても言い尽くせない。能登殿は大声をあげて、「我こそはと思う者たちは、近寄ってこの教経に組んで生け捕りにせよ。鎌倉へ下って、頼朝に会って、ひとこと言おうと思う。寄れ、寄れ。」とおっしゃるけれども、近寄る者は一人もいなかった。

さて、土佐の国の住人で、安芸郷を支配していた安芸大領実康の子に、安芸太郎実光といって、三十人分の力を持っている大力の剛の者がいた。（実光には）自分に少しも劣らない家来が一人（おり）、弟の次郎も人並みよりは優れている剛の者である。安芸太郎が、能登殿を拝見して申し上げたことには、「どんなに勇猛でいらっしゃるとしても、我ら三人が取り組んだなら、た

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とえ背丈が十丈の鬼であっても、どうして組み伏せられないことがあろうか。（いや、組み伏せる。）」と言って、主従三人が小舟に乗って、能登殿の舟に押し並べ、「えい。」と言って乗り移り、甲の錏を傾け、太刀を抜いて、三人並んでいっせいに討ちかかる。能登殿は少しも騒ぎなさらず、真っ先に進んだ安芸太郎の家来を、裾が合うほど近づいて、海へどすんと蹴り入れなさる。続いて寄ってくる安芸太郎を、左手の脇に抱えて挟み、弟の次郎を右手の脇に挟み、ひと締め締めつけて、「さあきさまら、それならばおまえたちは死出の山の供をせよ。」と言って、生年二十六歳で海へすっと入りなさった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講

〔現代語訳〕

昔、ある男が、元服して、奈良の都の、春日の里に、領地があった縁で、鷹狩りに行った。その里に、たいそう若々しくて美しい姉妹が住んでいた。この男は、（その姉妹を）物のすき間からこっそりとのぞき見をした。思いもよらず、（このような寂れた）昔の都に、たいそう不釣り合いで（美しい姉妹が）いたので、（男は）心が乱れてしまった。男が、着ていた狩衣の裾を切って、（それに）歌を書いて贈った。その男は、しのぶずりの狩衣を着ていた。

春日野の…＝春日野の若々しい紫草で染めたこの衣のしのぶずりの模様が乱れているように、（私の恋しのぶ心は）限りなく乱れています。

と、すぐさま（歌を）詠んで贈った。事の成り行きを趣があると思ったのだろうか。（この歌は、）

陸奥の…＝陸奥のしのぶずりの乱れ模様のように、あなた以外の誰のために心が乱れはじめた私ではないのに。

という歌の趣意を取り入れたものである。昔の人は、このように情熱的な風流な振る舞いをした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講

〔現代語訳〕

（花山天皇は）永観二年八月二十八日、ご即位なさった。御年十七歳（の時でいらっしゃいました）。寛和二年丙戌六月二十二日の夜、驚きあきれましたことは、人にも知らせなさらないで、ひそかに花山寺においでになって、ご出家入道なさった（ことです）。（この時）御年十九歳。世を治めなさること二年。出家後は二十二年間ご存命でいらっしゃった。

しみじみと心が痛む思いがすることは、ご退位なされた夜、藤壺の上の御局の小戸からお出ましになられたところ、有明の月がたいそう明るかったので、（天皇が）「あまりにあらわ（では気が引けること）だなあ。どうしたらよかろうか。」とおっしゃったが、「そうかといって、とりやめなさる訳にはまいりますまい。神璽と宝剣が（既に東宮の御方に）お渡りになってしまったからには。」と、粟田殿がせき立てて申し上げなさったのは、まだ天皇がお出ましになられる前に、（粟田殿が）自ら（神璽と宝剣を）取って、東宮の御方にお渡し申し上げなさっていたので、（天皇が宮中へ）お帰りなさるような事はあってはならないとお思いになって、そのように申し上げなさったということだ。

明るい月の光を、気が引けるとお思いになっているうちに、月の表に群雲がかかって、わずかに暗くなっていったので、「私の出家は成就するのだなあ。」と（天皇が）おっしゃって、歩き出しなさると、（亡くなった）弘徽殿の女御のお手紙で、平素破り捨てずに残して御身から離さず御覧になっていたお手紙を思い出しなさって、「しばらく（待て）。」と言って、取りにお戻りになった時の事だよ、粟田殿が、「どうしてこのように（未練がましく）お考えになられるのか。今が過ぎたならば、自然と差し障りも出てまいりましょう」と、うそ泣きをなさったのは。

そうして、（粟田殿が天皇を）土御門大路を通って東の方向へお連れ出し申し上げなさった時に、安倍晴明の家の前をお通りになると、晴明自身の声で、手をしきりにぱちぱちとたたいて、「天皇がご退位なさると思われる天変があったが、既に（ご退位は）決まってしまったと思われるなあ。参内して奏上しよう。車の支度を早くしろ。」と言う（晴明の）声をお聞きになった天皇のお心は、お覚悟の上とは言え、しみじみとお思いになった事だろうよ。「とりあえず、式神一人宮中へ参上せよ。」と（晴明が）申し上げたところ、（人間の）目には見えない何者かが、戸を押し開けて、（花山天皇の）後ろ姿を拝見したのだろうか、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「ただ今、ここをお通りになっているようです。」と答えたとかいうことだ。晴明の家は、土御門大路と町口小路の交わる辺りなので、（ちょうど天皇の）お通り道であったのだ。

（天皇が）花山寺にお着きになり、ご剃髪なさって（出家なされた）後に、粟田殿が、「（私はちょっと）退出して、（父の）大臣にも、（出家する前の）変わらない姿を、もう一度見せ、これこれと事情をお話し申し上げて、必ず参上いたします。」と申し上げなさったので、（天皇は）「私をだましたのだな。」とおっしゃって泣きなさった。しみじみとおいたわしく悲しい事であるよ。（粟田殿は）平素、「（もし天皇が出家なさいましたら、私も）お弟子としてお仕えいたしましょう。」と約束しておいて、だまし申し上げなさっていたというのが恐ろしい事よ。（粟田殿の父である）東三条殿〔＝兼家〕は、「ひょっとして（我が子が）出家なさるのではないか。」と気がかりなために、このような場合にふさわしい思慮分別がある人々で、誰それと言う立派な源氏の武者たちを、お見送りに付けられた。（武者たちは）京の町にいる間は隠れて、鴨川の堤のあたりから姿を現してお供した。寺に着いてからは、「もしや、無理に誰かが（道兼を）出家させ申し上げるのではないか。」と思って、一尺ばかりの刀を抜きかけてお守り申し上げた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講

〈現代語訳〉

〈読解問題〉①

帥殿〔＝藤原伊周〕が、（藤原道隆〔＝伊周の父親〕の邸内の）南院で人々を集めて弓遊びをなさったときに、この殿〔＝藤原道長〕がお越しになったので、「思いもかけない不思議なことだ。」と、中の関白殿〔＝藤原道隆〕は驚きなさって、たいそう（道長の機嫌をとり）おもてなしをし申し上げなさって、（当時、道長は伊周よりも）官位が低くいらっしゃるが、（競弓の順番を伊周より）前に立て申し上げて、先に射させ申し上げなさったところ、帥殿が射抜いた数が（道長の射抜いた本数よりも）あと二本負けなさった。中の関白殿や、また御前にお仕えする人々も、「もう二本、延長なさいませ。」と申し上げて、延長なさったので、（道長は）心中穏やかではなくお思いになって、「それならば、延長なさいませ。」とおっしゃって、（道長が）また矢を射なさろうとして、おっしゃることには、「道長の家から天皇や、皇后がお立ちなさるはずのものならば、この矢当たれ。」とおっしゃると、同じ当たるにしても的の中心に当たるではないか。次に、帥殿が射なさったところ、たいそう気後れなさって、お手元も震えたからであろうか、的のそばにさえ近づかず、見当違いの方向を射なさったので、関白殿は、顔色が青くなった。再び、入道殿〔＝道長〕が矢を射なさろうとして、「（私が）摂政、関白になるはずのものならば、この矢当たれ。」とおっしゃると、前のと同じように、的が破れるくらい、同じところに命中なさった。（関白殿が道長を）おもてなし、歓待し申し上げなさった興もさめて、気まずくなった。（伊周の）父である大臣〔＝道隆〕は、帥殿に、「（これ以上）どうして矢を射るのか。射るな。射るな。」とお止めになって、すっかりしらけてしまった。

〈読解問題〉②

四条大納言〔＝藤原公任〕が、このように何事も優れ、素晴らしくいらっしゃるのを、大入道殿〔＝兼家〕が、「どうして、あんなにすぐれているのだろう。うらやましいことだ。私の子どもたちが、（大納言の）影さえ踏むことができないのが、残

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

念だ。」と申し上げなさったので、中の関白殿〔＝道隆〕・粟田殿〔＝道兼〕などは、本当に（父は）そう思ってらっしゃるのだろうと、恥ずかしそうな様子で、何もおっしゃらないが、この入道殿〔＝道長〕は、とても若くいらっしゃる身で、「影を踏まないで、顔を踏みつけてやる。」とおっしゃった。（今では）本当にその通りになっていらっしゃるようだ。（公任は）内大臣殿〔＝道長の子の教通。公任の娘婿〕をさえ、近くで見申し上げることもできなさらないことよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第八講

〈現代語訳〉

〈読解問題〉①

中納言〔＝藤原隆家〕が参上なさって、（中宮定子様に）扇を差し上げなさるときに、「隆家〔＝自分のこと〕は素晴らしい（扇の）骨を手に入れました。それに、（紙を）張らせて（中宮様に）差し上げようと思うのですが、ありふれた紙は張ることができませんので、（それ相応の紙を）探しています。」と申し上げなさる。（中宮様が）「（その骨は）どのような物ですか。」とお尋ね申し上げなさると、（中納言は）「総じてたいそう素晴らしいです。『今までまったく見たことのない骨の様子だ。』と人々が申します。本当にこれほどの（骨）は見たことがない。」と、声高々におっしゃるので、（私〔＝清少納言〕が）「それでは、扇の（骨）ではなくて、くらげの（骨）であるようですね。」と申し上げると、（中納言は）「これは隆家〔＝自分〕が言ったことにしてしまおう。」とおっしゃって、笑いなさる。

このような（自慢めいた）ことは、聞き苦しいことの中に入れてしまうべきであるが、（周りの女房たちが）「一つ（の話）も書き漏らしてくれるな。」と（私に）言うので、どうしようもない（ので書き記しておきます）。

〈読解問題〉②

清少納言は、実に得意顔をして偉そうにしていた人（です）。あれほど利口ぶって、漢字を書きちらしておりますのも、よく見ると、まだひどく足りないことが多い。このように、人より特別に優れようと意識する人は、必ず見劣りがし、将来は悪くばかりなってゆくものですから、風流ぶることが身についてしまった人は、まったくもの寂しく何ということもない時も、しみじみと感動しているように振る舞い、興あることも見逃さないようにしているうちに、自然とよくない浮わついた態度にもなるのでしょう。そういう浮薄な性質になってしまった人の行末が、どうしてよいことがありましょうか、いや、ない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講

〔現代語訳〕

葵の上におかれては、物の怪がひどく起こってたいそう思いなさる。「（その物の怪が）六条の御息所の生き霊（だとか）、六条の御息所の亡き父大臣の死霊だなどと言う者がいる。」と（六条の御息所が）聞きなさるにつけて、お思い続けになると、「我が身一人のつらい嘆きをするよりほかに、他の人（のこと）を悪くなれなどと思う気持ちもないが、もの思いがあると身体から抜け出てさまようという魂は、そういうこともあるのだろうか。」と思いあたられることもある。

（六条の御息所が）少しうとうとなさる夢では、あの姫君〔＝葵の上〕と思われる人がとても気品があり美しくいらっしゃる所に（自分の生霊が）行って、あれこれと引っぱっていじり、正気の時とは異なり、猛々しく気が強く荒々しく一途な心が出てきて、乱暴に揺さぶるのを御覧になることが度重なってしまった。

（葵の上の出産は）まだそのような時ではないと、誰もが油断なさっていると、突然（ご出産の）兆しがあってお苦しみになるので、ますます御祈祷の数を尽くしておさせになるが、例の執念深い物の怪のひとつがまったく動かない。尊い修験者たちが、珍しいことだと困惑している。そうはいってもやはりひどく（物の怪が）調伏されて、（葵の上は）苦しそうに泣きつらがり、「少し（祈祷を）おゆるめください。大将〔＝光源氏〕に申し上げたいことがある。」とおっしゃる。加持の僧たちが、声を小さくして法華経を読んでいるのが、たいそう尊い。

（葵の上が）あまりひどくお泣きになるので、（光源氏が）「何事もひどくこのように思いつめなさるな。そうはいっても悪くいらっしゃるわけではありますまい。どのようになっても必ず（来世で）逢う機会があるようなので、きっとお逢いできましょう。父大臣や、母宮なども、深い縁がある仲は、生まれ変わっても切れないということなので、逢うことがきっとあるだろうとお考えなさい。」と慰めなさったところ、「いえ、そうではないよ。身体がとても苦しいので、少し（加持祈祷を）お休めくださいと申し上げようと思いまして。このように参上しようとは少しも思わないのに、物思いする人の魂はなるほど（体から）抜け出るものだ。」と、親しそうに言って、

「嘆きわび…＝嘆き悲しむ気持ちから（身体から離れて）空に迷う私の魂を結びとどめてください、下前の先端を結んで。」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とおっしゃる声や、雰囲気が、その人〔＝葵の上〕ではなく変わりなさっている。「たいそう不思議だ。」と（光源氏が）あれこれ考えなさると、まさに、あの（六条の）御息所であった。

左大臣邸が、人が少なくひっそりとした時に、（葵の上は）突然いつものように胸がむせかえって、たいそうひどく苦しみなさる。宮中にお知らせ申し上げる間もなく、息絶えなさった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　模範解答

問一　しわす
問二　イ
問三　十
問四　a　六　　b　九
問五　ウ
問六　エ
問七　オ
問八　(1)　さる　　(2)　オ
問九　ウ
問十　ウ
問十一　エ
問十二　（読み）ひつじさる　　（訳）南西
問十三　ついぢ（ついじ）

〈現代語訳〉

私が、物事の道理を理解するようになったときから、四十年以上の年月を過ごしてきた間に、世の不思議なことを見ることが、だんだんと増えてきた。

去る安元三年四月二十八日だったであろうか。風が激しく吹いて、静かではなかった夜、午後八時頃、都の南東から出火して、北西に火が広がった。最終的には朱雀門、大極殿、大学寮、民部省などまで火が移って、一晩のうちに灰となってしまった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

問一　ウ
問二　Ⅰ オ　Ⅱ ウ　Ⅲ ア
問三　ウ
問四　A エ　B イ
問五　イ
問六　ウ
問七　エ
問八　ア
問九　オ
問十　ウ
問十一　オ

〔現代語訳〕

昔、丹後国の宮津の見性寺といったところに、三年ほど滞在した。秋のはじめから、熱震いのために苦しむことが五十日ほどで、奥の一間はたいそうとても広い座敷で、いつも障子をぴしっと閉めて、風が通るすき間さえない。その次の一間に病床を用意して、隔てのふすまを閉めきっていた。ある夜午前二時頃ぐらいであるが、病状が少し小康状態であったので、便所に行こうと思ってふらつきながら起きた。便所は奥の間の縁側を回って、北西の隅にある。灯火も消えてたいそう暗いので、隔てのふすまを押し開けて、まず右の足を一歩差し入れたところ、何であろうかむくむくと毛の生えているものを踏みつけた。恐ろしいので、すぐに足を引っ込めて様子をうかがっていたが、何の音もしない。不思議で恐ろしいけれど、胸をたたいて決心して、今度は左の足で、「ここだろう」と思ってぽんと蹴った。そうであるが、まったく触れるものはない。ますますわけがわからず、身

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の毛がよだつほどであったので、ぶるぶる震えて住職などの居間のほうに立っていき、法師や下男たちがすっかり眠ってしまっているのを起こして、こうこうと話すと、皆起き出してくる。灯火をたくさん照らして奥の間に行って見ると、ふすまはいつもどおり閉まっていて、逃げることができそうなすき間はなく、もちろん不審な者の姿さえ見えない。皆が言うことには、「あなたは、病気に冒されて、正気でもないでたらめを言っているようだ」と、怒って腹を立てては、皆寝てしまった。

「なまじ言わなくてもよいことを言ってしまったよ」と、面目なく自分も寝床に入った。そのまま寝ようとする頃、胸の上に大きな石を載せたように思われて、ただひたすらうめいた。その声がもれ聞こえたのであろうか、住職の竹渓師が入っていらっしゃって、「なんと、あきれた、これは何事だ」と助け起こした。ようやく正気になって、こうと話したところ、「そのようなことがあるようだ。あの狸小僧の仕業である」と言って、妻戸を押し開けて見ると、夜が白々と明けて、はっきりと見てわかったが、縁側から簀子の下に続いて、梅の花びらが散ったように（狸の足）跡が付いている。そこでさっき「でたらめを言っている」と言って、大騒ぎした者たちは、「そのようであったのか」と言って驚きあきれていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十二講　模範解答

問一　A　問二　B　問三　E　問四　A　問五　E

問六　D　問七　B　問八　C　問九　A　問十　E

〈現代語訳〉

この頃聞いたことには、逢坂山の彼方に、関寺という所（があり、そこ）に、牛仏が現れなさって、多くの人が参拝して見申し上げる。長年この寺に、大きな御堂を建立して、弥勒菩薩を造って安置し申し上げていた。丸太や、なんとも言えない大木を、ただこの牛一頭で運び上げることをした。「殊勝な牛」とばかり、お寺の聖は思い続けていたうちに、寺の近くに住む人が（この牛を）借りて、「明日使おう」と思って置いていたその夜の夢に、「私は迦葉仏である。この寺の仏を造り、堂を建てさせようと思って、長年働いているのである。普通の人間はどうして（私を）使うことができようか、いや、できない」と（いう夢を）見たので、起きて、「こうこうこんな夢を見た」と言って、拝み騒ぐのであった。牛もこざっぱりして黒くて、小さくてかわいらしげであった。（この牛は、）つながれていなくてもどこかに行ってしまうこともなく、普通の牛の性質のようでもなかった。入道殿（＝藤原道長）をはじめ申し上げて、世の中にいらっしゃる人で参らない人はなく、だれもかれもが皆参って、あらゆるものをお供え申し上げた。ただ帝・東宮・宮様方はいらっしゃることはできなかった。この牛仏が、なんとなく病気で気分が悪いようでいらっしゃったので、「早くお亡くなりになるだろう」と思って、このように人が大勢参り込んで、関寺の聖は絵に表した仏の姿を描こうと用意をした。こうしているうちに、京都の右京でたいそう尊く修行している聖の夢に（牛仏が）見えた。「迦葉仏が今やまさに仏の世界に入ろうとしているときである。智者たる者は、まさに結縁を得ん（＝得よう）と心がけよ」と夢に見えたので、ますます人々が参り込むうちに、歌を詠む人もいた。和泉式部は、

　　聞きしより…＝（牛仏のことを）聞いた時から心にはかけながらもまだ逢坂の関も越えていないことだよ。

人々がたくさん（歌をお詠み）申し上げたが、同じことであるので記さない。数日間、この牛仏の姿を描かせて、六月二日に眼を入れようとした時に、その日になって、この御堂をこの牛仏はひと巡り見て歩いて、もとの場所に帰ってきてそのまま死んだ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

これはしみじみとすばらしいことであったよ。牛仏の絵の姿に眼を入れたその時に死に果てなさった。聖はたいそうひどく泣いて、そのままそこに埋葬して、念仏を唱えて、七日ごとに読経・仏を供養した。後にこの描いた牛仏のお姿を、帝も中宮も拝みなさった。このような事があった。真の迦葉仏もこの（牛が亡くなった日と）同じ日にお亡くなりになったということだ。今ではこの関寺の弥勒が供養されておられる。この寺の聖もその供養の仕度をした。（牛仏なので）草を誰もが取って参拝していた中で、お参りしない人などがいたので、それは「罪深い者であろうか」などと定めた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　模範解答

問一　ア
問二　優美で
問三　ウ
問四　ながつき
問五　オ
問六　イ
問七　オ
問八　エ
問九　エ
問十　エ
問十一　(a) イ　(b) ウ　(c) エ

〈現代語訳〉

八の宮が亡くなった後の喪に服す期間なども終わって、（喪服を）脱ぎ捨てなさるにつけても、一瞬でも八の宮亡き後まで生き残っていられるだろうとは思わなかったのに、むなしく過ぎた月日の間をお思いになると、「まったく思いのままにはならない身の上のつらさであるよ」と、泣き沈んでいらっしゃる（姫君たちの）ご様子は、たいそう気の毒だ。数か月間、黒い（お召し物を身につけ）習慣でいらっしゃったお姿が、ねずみ色の衣装に変わって、（姫宮は）たいそう優美で、中の宮はなるほど若い盛りであって、かわいらしい美しさは優れていらっしゃった。（中の宮の）御髪などを洗わせて整わせて（姫宮が中の宮を）見申し上げなさると、世の中の物思いも忘れる心地がして、すばらしいので、人知れず、「（薫が中の宮を）側で見て、期待外れでがっかりするとは思わないであろう」と、（姫宮は）心強く嬉しくて、今はしかし中の宮のお世話を任せられる人もいなくて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

親のような気持ちで大切にお世話をして見申し上げなさる。

薫は、（姫宮が喪服期間を口実に自分との対面を）ご遠慮申し上げなさった喪服も改めなさる九月も待ちかねて、またいらっしゃった。「この前のようにお話し申し上げたい」と、またご案内を請われると、姫宮の気分がすぐれなくて、煩わしく思えるので、あれこれお断り申し上げて対面しなさらない。（薫は）「思いがけず情けないお心ですね。女房たちもどう思うでしょうか」と、手紙で申し上げなさる。「今は（喪も明けると思って喪服を）脱ぎ捨てました心の乱れのために、かえって悲しみが深まりまして、お話し申し上げることができません」と（姫宮から）お返事がある。

（薫は）恨み言を言いあぐねて、弁の尼をお呼びになってあれこれとお話しになる。（この女房たちは）世にまたとない心細さを慰める手段としては、この薫の君だけをお頼み申し上げている人々なので、自分たちの思いに叶いなさって、（姫宮が）世間並みに都にお移りなどなさるならば、たいそうすばらしいことだろうと話し合って、「ぜひとも（薫をお部屋に）お入れ申し上げよう」と、皆で相談していた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　模範解答

問一　ハ
問二　ニ
問三　ハ
問四　ニ
問五　ハ
問六　a　ニ　b　ロ
問七　ニ
問八　近づき申し上げることができない。
問九　ここに、必ずいらっしゃってくださいと、あなたが師（の僧）に申し上げよ。
問十　児から師（の僧）へ
問十一　イ　１　ロ　２　ハ　２
問十二　鴨長明

〈現代語訳〉

奈良に、松室という所に僧がいた。官職などはことさらならなかったが、徳があって用いられた者であった。そこに、幼い稚児で、特に（その僧が）かわいがっている稚児がいた。この稚児が、朝夕、法華経をお読み申し上げたので、師の僧がこれを認めず、「幼い時は仏典の学習をするのがよい。（読経は）あまりふさわしいこととはいえない。」などと忠告されて、（稚児は）一度は従う様子だが、どうかすると、こっそりと、これを読経する。きわめて志の深いことと見て、後には、誰も制止しなくなった。

こうしているうちに、十四、五歳くらいになって、この稚児がどこへともなくいなくなってしまった。師はたいそう驚いて、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いたるところを隅から隅まで尋ね求めたが、まったくいない。「怨霊などにとられたのであるようだ。」と言って、泣く泣く死者のための法事などを営んで終わってしまった。

その後、数か月経って、この僧坊にいる法師が、薪をとろうとして山深く入ったところ、木の上で読経する声が聞こえる。不思議でこれを見ると、失踪した稚児である。驚き意外に思って、「どうしてこんな様子でいらっしゃるのか。（師があれほど）嘆きなさったのに。」と言うと、「そのことである。そのようなことも申し上げようと思って、お会い申し上げようと思うが、都合が悪いことになって、近づき申し上げることができない。（あなたに）嬉しくもお目にかかった。ここに、必ずいらっしゃってくださいと（あなたが師に）申し上げよ。」と言ったので、（その法師は）走り帰って、このことを語る。

師は驚いて、すぐに来た。稚児が語って言うには、「私は、読経の（功によって）仙人になっております。いつも（師を）恋しく思い申し上げていましたが、このようになりまして後は、（師のことを）聞くことができる手段もない。大体、人の住むところは汚らわしく、臭くて、（私には）堪えられないので、（師のことを）思いながら、（師のもとに）参ることができませんでしたので、（これからも）近くで見申し上げることはできないだろう。」と言って、ともに涙を流し続けて、しばらく語り合う。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十五講　模範解答

問一　A　ウ　B　ア

問二　X　エ　Y　ア　Z　イ

問三　イ

問四　あられは、宿を借りるほど、どうして濡れるだろうか、いや、濡れない。

問五　オ

問六　イ

問七　オ

〈現代語訳〉

今となっては昔のことだが、藤原長能、源道済という歌人たちが、たいそう競い合って（歌を）詠んでいた。長能は、『蜻蛉日記』を書いた人の弟で、代々続いた家柄の歌人で、道済は、信明といった歌人の孫で、たいそう競い合っていたが、鷹狩りの歌を二人が詠んだところ、長能が（詠んだ歌は）、

あられ降る…＝霰が降る交野の御野で鷹狩りをしていると、蓑を借りることができず狩衣が濡れてしまった。雨宿りの場所を貸してくれる人もいないので。

道済が、

ぬれぬれも…＝濡れながらもやはり鷹狩りを続けて行こう。はしたかの上羽に降りかかる雪を払い落しながら。

と詠んで、二人とも「自分のほうがすぐれている」と論じ続けて、四条大納言のところへ二人で参上して、判定をしていただいたところ、大納言がおっしゃるには、「どちらもよい歌であるが、あられは、宿を借りるほど、どうして濡れるだろうか、いや、濡れない。この点が劣っている。歌の品格はよい。道済の歌は、道理にあう言い方をしている。将来、勅撰集などにもきっと入るだろう。」とおっしゃったので、道済が、（嬉しくて）舞い奏でて退出した。長能は、物思いに沈む姿で退出した。これまでは

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

何事につけても、長能が上回っていたが、今回は不本意であったということだ。

　春を惜しんで、旧暦三月が小の月であった時に、長能が、

　　心憂き…＝嘆かわしい年であることよ。まだ二十九日だというのに、春が終わってしまうとは。

と詠み上げたところ、あの四条大納言が、「春は二十九日間だけなのか（、いや、三ヶ月もある）」とおっしゃったのを聞いて、重大な過ちをしてしまったと（長能は）思って、何も申し上げず、そっと退出した。そして、その頃から、（長能が）病気になり状態が非常に悪いことを（大納言が）お聞きになって、大納言が、見舞いに使者をお遣わしになった返事に、「『春は二十九日間だけなのか』とございましたので、あきれるほどの失態をしてしまったことでございますなあと、情けなく嘆かわしく思いました時から、このような病気になってしまったのです。」と申し上げて、間もなく亡くなった。

「それほど心を打ち込んでいたことを、配慮なく言って（気の毒なことをしてしまった）。」と、後々まで大納言はたいそうお嘆きになった。しみじみと風流の道に熱心であったことよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　模範解答

問一　ウ
問二　ウ
問三　ウ
問四　ア
問五　（A）オ　（B）ア
問六　ア
問七　（a）オ　（b）イ
問八　ますますかわいらしく（十字）
問九　エ
問十　ア
問十一　イ

〔現代語訳〕

大納言の姫君は、二人いらっしゃったが、本当に昔物語に書きつけてある有り様に劣りそうもなく、何事につけても（すばらしく）成長なさったが、大納言も母上も、続いて亡くなりなさったので、たいそう心細い昔ながらの邸で、物思いにふけって過ごしなさっていたが、しっかりしている御乳母のように世話をする人もいない。ただ、いつもお仕えしている侍従、弁などという若い女房たちだけがお仕えしているので、年が経つにつれて人の訪れも少なくなっていくばかりの昔ながらの邸で、たいそう心細くいらっしゃったところ、右大将の御子の少将が、知る人の縁があって、たいそう熱心に言い寄り続けなさったが、（姫君たちは）このような方面は、まったく思いも寄らないことであって、お返事など気にかけなさることもなかったが、少納言の君といって、たいそうひどく色好みのように見える若い女房が、何の知らせもなく、お二人が就寝なさっている部屋へ、（少将を）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

お導き申し上げた。

もともと（少将は）ご愛情のあったことで、姫君〔＝姉君〕を抱いて、御帳の中へお入りになった。（姫君が）どうしていいかわからなくお思いになっている様子は、（物語では）いつものことなので書かない。（少将は）想像なさっていた以上に、（姫君を）しみじみといとしくお思いになるので、こっそりと通いになさるが、少将の父、右大将が聞きなさって、「身分は、物足りないわけではないが、どうして、ひどく心細い（暮らしぶりの女の）所に」などと、きびしくおっしゃるので、（少将は）思いどおりに（姫君のところへ）いらっしゃらない。

姫君も、しばらくの間は我慢してお過ごしになったが、そうはいってもやはり、そのように少将との関係をつらく思ってばかりはいられない。そうなるはずの前世からの因縁だと思いなさりお慰めになって、しだいに（少将へ）心をお寄せになっている様子が、ますますかわいらしく、しみじみと心動かされる。昼など、つい寝過ごしなさる時、（姫君を）見申し上げなさると、たいそう上品で、かわいらしく、見るからにいじらしい様子をしていらっしゃる。

何事につけてもたいそうつらく、人の訪れがないお邸で、少将のお気持ちもあまりあてにしにくく、「いつまで（通ってくださるのか）」とばかりつい物思いにふけってしまいなさるので、（少将の訪れがなくて）四、五日気が晴れず（思いが）積み重なってしまうと、「思っていたとおりのことだわ」と心細いので、お袖が普通ではない〔＝涙で濡れる〕が、我ながら、「（恋がうまくいかないことゆえの物思いのつらさは）いつならった〔＝習慣になった〕のだろうか」とつい思い知りなさる。

人心…＝秋の兆しが悲しいのは枯れてゆく景色のせいであるように、私に飽きてしまう兆しで悲しいのは、私から離れていくあの人の心の様子なのだなあ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十七講　模範解答

問一　①エ　②ア　③オ
問二　aイ　bイ　cイ
問三　イ
問四　ウ
問五　エ
問六　1エ　2オ
問七　ウ
問八　イ
問九　オ
問十　ウ

〈現代語訳〉

夜も次第に明け方近くなったので、「夜が明けてしまったなら、不都合だろう。暗いうちに」と思いなさって急ぐのも、なんとなく慌ただしく、この頃はそれほどゆっくりとも（男君は）参上なさらないので、たいそう珍しい様子での逢瀬に名残が残る気持ちがなさって、なにかと嘆きながら帰りかねていらっしゃる。女君も、並々でなくつらそうにしていらっしゃるのが、たいそう振り捨てがたく気の毒で、またしばらくお話しなさっているが、鳥も何度も鳴いて、部屋の隅々など、たいそう明るくすき間が見えるので、杉子などが起き出してきて、「ああ、困ります。お帰りください。お姿を人が見ると大変です。早く早く」と諫め申し上げる。（男君が）ようやく御直衣などをひき繕って、出なさるのを、女君もお見送り申し上げようということであろうか、几帳の帷子を少し押しやって、わずかに座ったまま出ていらっしゃる。寝乱れた御髪がはらはらとこぼれかかっている御宿直姿が無造作な様子であるが、菊襲ねの衣装が萎えたのに、御裳だけはそうはいっても引き掛けなさる身のこなしや、大人び

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ているお顔つきが、いっそう映えるように美しいので、男君も立ち止まって、ふり返って（女君を）ご覧になる様子が、（言葉に）尽くしようがないので、絵にも描き留めておきたい。御指貫の裾を、（男君が）少し持ち上げて、霜深い庭の草葉を分けなさるとき、お袖もますます濡れる。妻戸の口を少し開けて、杉子がのぞいていたところ、（男君は）「起きて別れて行く明け方の道は、このように濡れているとは、まだ慣れていなかったよ」とおっしゃって、

「いかさまの…＝どんな前世に結んだ契りが原因で、このような浅茅の露を分けるのだろうか。

下手なような歌だが、このように（女君に）申し上げよ」とおっしゃるので、（杉子は）すぐに（女君のいらっしゃる奥に）参上した。御輳を寄せて、用意させなさるところに、追って（お返事がある）、

吹きまよふ…＝吹きまよう風の心も知らずに、白露は結ぶこともできず消え果ててしまうのだろうか。

帰りなさる道の途中で、日も上がってしまった。このようなみっともない（露で）濡れたのは、朝霧の中でも隠すことができそうもないが、どうにも仕方がないことなので、御乳母の少将と申し上げる人が、このお通いになる路の途中に家があるので、その人のもとにこっそりいらっしゃって、お召し物を着替えたりして、日が暮れかかる頃に自邸にお帰りになった。左衛門佐が、「（ご両親が）側に来るようお呼びでしたが、『太政大臣のお呼びがあって、（そちらに）いらっしゃった』と申し上げておきました」と申し上げたので、（男君は）急いで参上なさる。まず、母君の御前に伺って、ご機嫌をうかがいなさると、父の中納言もおいでになって、あれこれとお話を申し上げなさるうちに、夜も更けた。（両親が男君を）このように強引におそばにお引き留めなさって、一日でも見申し上げなさらないことをさえもの足りなく大騒ぎしてうろたえてお探しになるので、（男君は）自然と勝手な外出もできない。「今日はお手紙さえ差し上げないでいたが、（女君は）どのようにしてお暮らしだろうか」と、（男君は）たいそう気がかりで、一睡もできず夜を明かしなさる。翌日は、「たいそう早く出かけよう」と、（日が）暮れるのを待ちかね続けて（男君は）物思いにふけっていらっしゃったが、六日間の御物忌みということで、（両親が男君に）きびしい謹慎をさせなさるので、また仕方なく寂しく独り寝をして、（邸に）籠っていらっしゃる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十八講　模範解答

問一　いつはり・なきこと
問二　苦しからず
問三　４
問四　「住め」と「澄め」（順不同）
問五　２
問六　３・５

〈現代語訳〉

まず歌を詠もうとする人は、物事に触れて感情を第一として、ものの情趣を理解し、いつも心を澄まして、花が散り、木の葉が落ちるのをも、梅雨や時雨で、（葉の）色が変わる季節にも、目にも心にもとどめて、歌の情趣を日常のふるまいにつけて、心に掛けるべきでございましょう。

また、四季の歌には、虚構を構えるのはよくない。ただ、ありのままのことを、優美にとりなして詠むべきである。恋の歌は、技巧的な表現、虚構が多いけれど、とくに不都合ではない。「（恋しくて流す涙で）枕の下に海はあるが」「胸は（煙を立ち上らせる）富士（のように恋の煙を立て）袖は（せき止めるはずの）清見が関（のはずが涙を止められない）」と詠んでも、ただ、（恋の）思いの切実な風情を言おうとして、どのようにでも喩えて言うようなことは、四季の歌と違っていて当然だ、と（夫は）申されました。

また、四季の歌の虚構も、方法によるにちがいない。僧正遍昭が「（露の）玉を貫く春の柳よ」など詠まれたのをはじめとして、「有明の月と見間違えるほどまでに吉野の里に降っている白雪」、花を「雲に似ている」とも表現することなどは、虚構ではあるが、本当にそのように思われることなので、不都合ではない。そうでなくては、存在しないことを詠んではいけないということも、よくよく理解し判断するべきであろうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

また、「故郷」という題で、「ふるさと」とだけ詠むことは、普通のことであるようだが、（題が「故郷」ではない）一般の歌でも、ふるさとなど詠むことであるので、特に「故郷」というような題では、「奈良の宮」とも、「難波の宮」とも、「志賀の宮」とも、名の通った所（＝昔の古い都）を詠みたいものだとございました。

「月の前の恋」「月に寄せる恋」という題をも、人は皆区別しないで、ただ同じように詠むことは、残念だろうか。月に寄せるといって、ただ「月」という文字を借りたので、寄せたことになるのでしょう。「（月だけが）空にあるあてにならない形見であるが、この思いも最後には心が通い合うのだろうか」などのようであるのを、「寄せている」と申すのがよいのだろうか。「月の前」とは、（月と）直接向き合った状態をいうのがよいのだろうか。

恋しさは…＝恋しい心が虚空に満ちたので、（虚空に浮かぶ）月も私の心の中に住み、（月の光も）澄んでいる。

という歌も、俊成卿が、「月の前の恋」という題で詠まれたとかいうことだ。

また、「うれしかりけり（＝嬉しいなあ）」「かなしかりけり（＝悲しいなあ）」という文字を、未熟な歌人は、いつでも好んで詠んでいるようである。本当に嬉しいこと、本当に悲しいことでなくては、いつも詠んではならないことだと（夫は）申されました。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十九講　模範解答

問一　a　3　b　2
問二　4
問三　1
問四　4
問五　4
問六　2・3

〈現代語訳〉

三月になったので、いつものように、毎月（行われる堀河帝追善の法要に）参上すると、堀河院（＝堀河帝在位中の仮御所）の桜の花は実に美しく咲いている。（かつて）兼方が、後三条院に先立たれ申し上げて、

いにしへに…＝花は古来と色も変わらずに咲いたことだ。花は何の物思いもないのだなあ。（私は帝を失った悲しみを忘れることができない。）

と詠んだとかいうのが、なるほどその通りだと（あらためて兼方の心情に共感して）思われて、花は本当に色も変わらない様子である。

昔（＝堀河院が御所であった時）の清涼殿を御堂になさって、（堀河帝の命日である）七月までは朝夕の時を定めておこなう勤行が絶えず催され、二十人の蔵人の宿舎・左近衛府の役所なども、僧の宿舎になっている。（華やかな）御所であった所が（今は）寂しげなのを、見るにつけても、（かつて）亡くなりなさった一条院の御所の中が、うってかわりひっそりとして寂しげなのを（中宮彰子が）ご覧になって、

かげだにも…＝（亡くなった一条帝本人ばかりではなく）面影さえも留まることのなかったこの内裏を、（美しく立派な）玉の台（うてな）といったい誰が呼んだのだろうか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とお詠みになったとかいうのが、なるほどその通りだと思われる。

（堀河帝の）中宮様の御方では三十講〔＝滅罪のため法華経を講義する法会〕をいとなまれるということで、法華経を毎日一品ずつ講義させなさる。それを聞きに（姉の）三位殿が参上なさるので、（私も）連れ立って参上して、講義などが終わって、（中宮様が）お側近くに三位殿をお招きになったので、伺候なさる。宰相といって（中宮様に古くから）お仕えなさっている女房が、「三位殿はもう少し（中宮様の）お側近くにお進みなさいませ。典侍殿〔＝筆者のこと〕は、今日のところは御遠慮ください」と言うのを（中宮様が）お聞きになって、「その典侍こそ、誠意が見える。見栄もなく懐かしさもなさそうに見える所を、（こうして）忘れずに姿を見せてくれる」と最後までおっしゃることができず、むせび泣いていらっしゃる声が（几帳を隔てて）聞こえるので、私も（悲しみを）堪えることができない。

日が暮れたので、退出した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十講　模範解答

問一　①　8　②　10　③　3　④　4　⑤　5

問二　ア　1　エ　2　キ　4

問三　イ　無理に別れさせたところ
　　　　オ　すぐに人を（応対に）出して

問四　3

問五　6

問六　4

〈現代語訳〉

（維盛は）高野山に長年知っていらっしゃる聖がいる。三条の斎藤左衛門大夫以頼の子で、斎藤滝口時頼といった者である。もとは小松殿（＝平重盛）の家来の武士である。十三歳の年（滝口の武士に任ぜられて）武者所へ参上したところ、建礼門院の雑役に従事した下女である横笛という女がいる。滝口はこの女を非常にいとおしく思う。（滝口の）父がこれを伝え聞いて、「世間に認められているような者の婿にして、宮仕えなども安心にさせてやろうとしていると、世間に認められていない（身分の低い）者を思いはじめて（けしからん）」と、無理に別れさせたところ、滝口が申したことは、「西王母と申し上げた人は、昔はいて今はいない。東方朔といった者も、名前ばかりを聞いて目に見ることはない。老人と若者（どちらが先に死ぬか）決まっていないこの世は、石を打つときに出る火の光（＝短い時間）と異ならない。たとえ人が、長生きするといっても、七十歳八十歳を超えはしない。その中で身体が元気であるのは、わずかに二十年あまりである。夢や幻のようなこの世で、醜い者をほんの少しの間も妻にして何になろうか、いや、何にもならない。いとしいと思う者を妻にしようとすると、父の命令に背くも同然だ。これは仏道に導く契機となるものである。辛いこの世を離れ、仏道に入ってしまった方がよい」と言って、十九歳の年に、出家して、嵯峨の往生院に心を澄まして修行して過ごしていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

横笛はこれを伝え聞いて、「（滝口が）私を見捨てるのはいいとしても、出家までしたとかいうことが恨めしいことよ。たとえ出家するとしても、どうしてこれこれと知らせないのだろうか。人が（出家の）決意が固いとしても、（探し出して）訪ねて恨みを言おう」と思い続けて、ある日の暮れかかる頃に都を出て、嵯峨の方へさまよって行く。頃は旧暦二月十日過ぎのことなので、梅津の里の春風に、（運ばれてくる）遠くの（梅の花の）香も心がひかれ、大井川を照らす月の光も霞に包まれてぼんやりしている。並々ではない悲しさも、誰のせいかと（横笛は）思っただろう。往生院（に滝口がいる）と聞いたけれども、はっきりとどの僧坊とも知らないので、ここに足を止めあちらに立ち止まり、探しあぐねているのは痛ましい。住み荒した僧坊に、念仏誦経の声がした。（横笛は）滝口入道の声だと聞いて思って、「私がここまで尋ねて参上した。出家していらっしゃるとかいう姿を、もう一度拝見したい」と、連れて来ていた女に命じて言わせたところ、滝口は胸騒ぎがし、襖のすき間から覗いて見ると、本当に探しあぐねていた様子が気の毒に思われて、どんな仏道修行者もきっと決意が弱くなるに違いない。（滝口入道は）すぐに人を（応対に）出して、「まったくここにそういう人はいない。家を間違えているのだろう」と言って、とうとう会わないで帰した。横笛は情けなく恨めしいけれども、どうにもならず涙をこらえて帰った。滝口入道が、同宿の僧に会って申し上げたことは、「ここも非常に静かで念仏の邪魔はありませんが、未練があるのに別れた女にこの住居を見られていますので、たとえ一回は決意が固く（彼女を帰らせ）ても、再び慕ってくることがあったならば、きっと心も動くに違いありません。（あなたには）お別れを申し上げて」と言って、嵯峨を出て高野山へ登り、清浄心院で過ごした。横笛も出家したということが耳に入ったので、滝口入道は一首の歌を送った。

　そるまでは…＝剃髪して出家するまでは恨めしく思っていたけれども、あなたも仏の道に入ったことが嬉しい。

横笛の返事には、

　そるとても…＝あなたが剃髪して出家したとしても、どうして私が恨めしく思うだろうか、いや、思わない。引き留めることができるあなたの決意ではないので。

横笛はそうした（辛い）思いの積み重ねであろうか、奈良の法花寺にいたが、それほども経たずに、とうとう死んでしまった。滝口入道は、このようなことを伝え聞き、ますます信心深く心を澄まして修行して過ごしていたので、父も勘当を許した。親しい者たちも皆（滝口入道のことを）信頼して、高野の聖と申し上げた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔解説〕

①「いとほし」は重要単語で、「気の毒だ」「いやだ」「かわいい」の意味。よって、正解はウ。

②「所せし」は重要単語で、「場所が狭い」「気詰まりだ」「堂々としている」「仰々しい」の意味。よって、正解はア。

③「あてなり」は重要単語で、「高貴だ」「上品だ」の意味。したがって、エかオ。「なつかし」も重要単語で、「心がひかれる」「親しみやすい」の意味。よって、正解はオ。

④「あるまじければ」は、ラ変動詞「あり」の連体形＋打消系統の助動詞「まじ」の已然形＋接続助詞「ば」。よって、正解はエ。「けれ」を過去の助動詞「けり」だと考えた人がいれば、助動詞は接続を確認するということを忘れないように。「まじ」は連用形ではないので、助動詞「けり」は接続しない。

⑤「えまゐるまじ」は、副詞「え」＋敬語の本動詞「まゐる」の終止形＋打消系統の助動詞「まじ」。よって、正解はア。ちなみに、「え〜打消」は「〜できない」。

⑥「もなかんめるを」は、係助詞「も」＋形容詞「なし」の連体形「なかる」の撥音便「なかん」＋推定の助動詞「めり」の連体形＋接続助詞「を」。よって、正解はイ。

〔解答〕

①　ウ　②　ア　③　オ　④　エ　⑤　ア　⑥　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〔解説〕

①「さかしら」は重要単語で、「りこうぶること」「おせっかい・出しゃばり」の意味。よって、正解はエ。

②「もぞ」は「～したら困る・大変だ」と訳す危惧の用法。よって、正解はオ。

③「いなば」は、ナ変動詞「いぬ」の未然形＋接続助詞「ば」。したがって、順接仮定条件「もし～ならば」である。「いでていなば」に打消はないので「出て行かない」という解釈にはならない。よって、正解はイ。

④動詞の連用形に付き、同じ動詞に挟まれている「に」は格助詞「に」で強調の働き。よって、a「まさりにまさる」の「に」は「格助詞」。この時点で、アが正解。ちなみに、bは「連用形＋に」、もしくは「にけり」で上が「死・去・往」のいずれでもないので、完了の助動詞「ぬ」の連用形。aがわからなければ解けない問題である。

〔解答〕

①エ　②オ　③イ　④ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講　解答解説

〔解説〕

① 天皇が発言しているのであれば、」の後ろが尊敬語になっているはず。尊敬語はウ「仰す」のみ。よって、正解はウ。ちなみに、エの「奏す」は、「天皇（上皇）に申し上げる」という意味の謙譲語。

② 動詞「ながむ」に、尊敬の補助動詞「たまふ」がついていることから、この動作の主語は、会話の聞き手である「あなた」である。相手が主語になっている解釈はウのみ。よって、正解はウ。

③ 一つの語に二つ以上の意味を含ませる技巧は「掛詞」である。よって、正解はイ。

④ 「導く働き」とあり、「あづさ弓」は五音なので「枕詞」である。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　ウ　　②　ウ　　③　イ　　④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〔解説〕

①「いへばおろかなり」は「言っても言い尽くせない」という意味。したがって、「言っても言い尽くせないほど泣き悲しむ」ということ。よって、正解はイ。

②「〜もおろかなり」も①同様に「言っても言い尽くせない・言うまでもない」という意味。よって、正解はア。

③「いへばさらなり」は「今さら言うまでもない・もちろんのことだ」の意味。よって、正解はア。

④『平家物語』のジャンルは「軍記物語」。よって、正解はエ。

〔解答〕

①イ　②ア　③ア　④エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講　解答解説

〔解説〕

① 「なまめく」は重要単語で、「若々しく美しい」「上品だ」などの意味。よって、正解はイ。

② 「はしたなし」は重要単語で、「中途半端だ」「みっともない」などの意味。よって、正解はエ。

③ 「世の中」は重要単語で、「男女の仲」「夫婦仲」などの意味。「世間」という意味もあるが、ここでは、注釈の「離別した」という情報もヒントにし、文脈上も「夫婦仲がいかにも残念そうで、他に出て行った」と訳してもおかしくないことから、「夫婦仲」の意味である。よって、正解はア。

④ 「六歌仙」とは、大伴黒主・在原業平・文屋康秀・僧正遍昭・小野小町・喜撰法師の六人。よって、選択肢の中ではイが正解。

〔解答〕

①　イ　　②　エ　　③　ア　　④　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講　解答解説

〔解説〕

①「障り」は重要単語で「さはり」と読む。よって、正解はイ。ちなみに、「差し障り」「障害」などの意味である。

②「案内」は重要単語で、「物事の事情」「取次ぎを頼むこと」などの意味。よって、正解はイ。

③「さま（を）かふ」は「出家をする」ということ。よって、正解はイ。その他にも「出家する」という意味になる語がたくさんあるが、テキストにあげたものは覚えること。

④「おとなし」は重要単語。漢字で「大人し」と書く。「大人びている」「思慮分別がある」という意味。選択肢の中からだと「年配」のアが正解。現代の「おとなしい＝無口、穏やかな性格」という意味とは違うので気を付けること。漢字で覚えておくと便利。

〔解答〕

①イ　②イ　③イ　④ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第七講　解答解説

〔解説〕

① 「あやし」は重要単語で、「不思議だ」「身分が低い」などの意味。よって、正解はウ。

② 「げに」は重要単語で、「本当に」「なるほど」などの意味。よって、正解はイ。

③ 禁止の終助詞は「な」か「そ」。設問文で「な～そ」の「な」に気づいたら選択肢イ「そ」が選べる。しかも、選択肢には「な」がないことからも、イが正解。

④ 『大鏡』は、藤原道長の栄華が中心に書かれている歴史物語である。よって、正解はウ。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ イ　④ ウ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講　解答解説

〔解説〕

①「おぼろけなり」は重要単語で、「普通だ」「並ひと通り」などの意味。よって、正解はウ。

②「かたはらいたし」は重要単語で、「見苦しい」「気の毒だ」「恥ずかしい」などの意味。よって、正解はイ。

③「(心)すごし」は重要単語で、「ぞっとする」「もの寂しい」などの意味。よって、正解はウ。

④「あだなり」は重要単語で、「浮気だ」「かりそめだ」「はかない」などの意味。よって、正解はウ。

⑤『枕草子』は、中宮定子に仕えていた清少納言が書いた作品。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　ウ　②　イ　③　ウ　④　ウ　⑤　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　解答解説

〔解説〕

①「あつし」は重要単語で、「病気が重い」「病気がちである」などの意味。よって、正解はオ。

②「おこたる」は重要単語で、「病気がよくなる」「なまける」などの意味。よって、正解はウ。

③「うつつ」は重要単語で、漢字で「現」と書く。よって、正解はイ。ちなみに「現実」「正気」などの意味。

④「はげしくなる」には、「死ぬ」という意味はない。よって、正解はオ。「死」を表す表現はたくさんあるが、テキストに載っているものは覚えておこう。

〔解答〕

①オ　②ウ　③イ　④オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十講　解答解説

〔解説〕

①「卯月」は「うづき」と読み、四月のこと。よって、正解はエ。

②「六月」は「みなづき」。「七月」は「ふ（み）づき」。「九月」は「ながつき」。よって、正解はア。

③「申」は「さる」と読み、干支の九番目。２（n－1）の公式にあてはめると、16。よって、「午後四時」のエが正解。

④「巳」は「み」と読み、干支の六番目。③同様に計算すると、10。よって、「午前十時」のイが正解。

⑤「坤」は「ひつじさる」と読み、「南西」のこと。よって、正解はア。

〔解答〕

①エ　②ア　③エ　④イ　⑤ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　解答解説

〔解説〕

① 「あさまし」は重要単語で、「驚きあきれる」の意味。良い意味でも悪い意味でも使うので気をつけること。「びっくりする」という訳で正解は選べるが、設問文では直前が「たふとく」（＝すぐれている）と良い意味なので、ここでは「プラスの意味で驚く」と考えられる。ア～ウは、マイナスの意味で不適当とわかる。よって、正解はエ。

② 「戌亥」は「いぬい」（いぬゐ）と読み、「北西」を表す。よって、正解はウ。

③ 選択肢アは、直前が「悪し」で様子・状態のため、「悪しけれ」で一語の形容詞（已然形の活用語尾）。他の選択肢は上が連用形であることから、過去の助動詞「けり」の已然形。よって、正解はア。

④ 「なめり」の「な」は断定である。よって、正解はエ。ちなみに、「なめり」は「であるようだ」と訳す。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ア　④ エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十二講　解答解説

〔解説〕

①「（未然形＋）ねど」の「ね」は打消の助動詞「ず」の已然形である。よって、正解はウ。

②「とく」は重要単語で、「はやく」の意味。よって、正解はア。

③「やがて」は重要単語で、「すぐに」「そのまま」の意味。よって、正解はイ。

④「なやましげなり」は「気分が悪そうだ」の意味。「〜ければ、…」と「已然形＋ば」なので、順接確定条件。よって、これらの解釈ができているアが正解。

〔解答〕

①ウ　②ア　③イ　④ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十三講　解答解説

〈解説〉

① 「おくる」は重要単語で、「死に遅れる」「先立たれる」の意味。よって、正解はイ。ちなみに、「さへ」は「まで」と訳す添加の副助詞。

② 「なまめかし」は重要単語で、「優美だ」「優雅だ」の意味。よって、正解はイ。

③ 「すまふ」は重要単語で、「抵抗する」「辞退する」の意味。よって、正解はイ。

④ 「え〜打消」は「〜できない」。「人目をもえはばかりあへ給はで」の解釈は「人の目を気にすることもおできになれないで」となる。よって、正解はア。ちなみに、「なかなか」は重要単語で、「かえって」の意味。

〈解答〉

①　イ　　②　イ　　③　イ　　④　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十四講　解答解説

〈解説〉

① 「友なる」の「なる」が断定の助動詞の連体形。この「なる」の下に「の」の上の名詞「者」を入れて、「筑紫の者で、友達である者が二人、高野山に住んで～」と訳しておかしくないため、この「の」は同格。よって、正解はエ。

② 「いたく」は「とても」の意味だが、打消と一緒に用いると、「あまり～ない」「たいして～ない」の意味になる。よって、正解はイ。

③ 「しのぶ」は重要単語で、「隠れる・人目を避ける」「我慢する」という意味。ここでは、「人目を避けて＝こっそりと」の解釈で、イが正解。

④ 「さらに（＝更に）～打消」は、「全く～ない」「決して～ない」の全否定の意味。「え～打消」は「～できない」という不可能の意味である。よって、両方の解釈がきちんとできているオが正解。

〈解答〉

①　エ　②　イ　③　イ　④　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十五講　解答解説

〔解説〕

① 「例ならず」は、直訳だと「いつもと違う」だが、そこから「体調が悪い・病気だ」という意味もある。こちらの「体調不良」の意味が大事。後ろで「重きよし」とあることからも、「重病」であると考えられることから、正解はア。

② a 上が、サ行変格活用動詞「判ず」の未然形。したがって、傍線部は助動詞「さす」の連用形。真下が「たてまつる」で尊敬語ではないので「使役」。よって、正解はイ。

b 上の「出で」は、ダ行下二段活用動詞「出づ」の未然形か連用形と考えられる。未然形に付く「に」はないため、連用形。連用形＋「に」は完了の助動詞「ぬ」。もしくは、下が「けり」で、上が「死・往・去」ではないから完了の助動詞と考えても可。よって、正解はエ。

③ 上が、ラ行四段活用動詞「入る」の連用形。連用形＋「なむ」は、完了・強意の助動詞「ぬ」＋推量系の助動詞「む」である。よって、正解はエ。

④ 「僻事」は重要単語で、「間違い」「悪事」の意味。よって、正解はイ。

〔解答〕

① ア　② a イ　b エ　③ エ　④ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十六講　解答解説

〔解説〕

①　「ながむ（眺む）」は重要単語で、「もの思いにふける」「じっと遠くを見つめる」という意味。よって、正解はイ。ちなみに「詠（なが）む」の場合は、「詩歌を吟じる」という意味。

②　「はかばかし」は重要単語で、「しっかりしている」という意味。よって、正解はオ。

③　「御殿籠（おんとのごも）る」は、「大（おほ）殿籠る」と同じで「寝（ぬ）」（＝寝る）の尊敬語。よって、正解はイ。

④　e段（＝サ変の未然形・四段の已然形）＋「ら・り・る・れ」は、完了・存続の助動詞「り」。よって、正解はオ。

〔解答〕

①　イ　②　オ　③　イ　④　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十七講　解答解説

〔解説〕

① 「おちなば」の「な」は、完了の助動詞「ぬ」の未然形。「未然形＋ば」は順接仮定条件で「〜ならば」と訳す。「すてん」の「ん」は、助動詞「む」（ここでは「意志」の意味）。打消「ず」ではないので気を付けること。よって、正解はア。

② 「もこそ」は危惧の用法で、「〜したら困る・大変だ」の意味。「かたはらいたし」は重要単語で、「みっともない」「気の毒だ」「（はたの人が自分をどう見ているかと思うと）恥ずかしい・きまりが悪い」の意味。よって、正解はイ。

③ 「びんなし」は重要単語で、「具合が悪い」「不都合だ」「気の毒だ」の意味。よって、正解はイ。

④ 「行きぬらむ」の「らむ」は、u段に付いているので現在推量の助動詞「らむ」。「ぬ」は「らむ」の上にあることから、終止形。終止形が「ぬ」であれば、完了の助動詞「ぬ」。よって、正解はア。

〔解答〕

①　ア　　②　イ　　③　イ　　④　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十八講　解答解説

〔解説〕

① 「やさし」は重要単語で、「優美だ」「けなげだ」「つらい」などの意味。よって、正解はア。

② 「げにげにし」は「もっともらしい・真実である」「まじめである」などの意味。「まことし」も「本当らしい」「まじめだ」などの意味。よって、正解はオ。ちなみに「そぞろなり」は「むやみやたらに」「関係がない」などの意味、「をこがまし」は「ばからしい」「でしゃばりだ」の意味。

③ 「ふる（設問では「ふり」）」が掛詞であれば、選択肢にあるように「降る・震る・振る・古る（旧る）」などの中から意味を考える必要がある。設問の和歌では、上からのつながりが「白雪のふり」なので、一つは「降り」。下へのつながりは「ふりにし人」なので、「（知り合って）古くなった人」と考え「古り」を選ぶ。よって、正解はアとエ。

〔解答〕

①　ア　　②　オ　　③　ア・エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十九講　解答解説

〔解説〕

①「例の」が用言にかかっていく場合は、「いつものように」と訳す。「もや」は「～だろうか」という意味。よって、正解はウ。

②「けむ」は、過去推量の助動詞。よって、正解はエ。

③和歌の中の中心的な名詞に関連の深い語を詠み込む修辞技法は、「縁語」である。よって、正解はエ。

〔解答〕

①ウ　②エ　③エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二十講　解答解説

〔解説〕

① 「あながちなり」は重要単語で、「無理だ」「強引だ」などの意味。よって、正解はイ。

② 「やがて」は重要単語で、「すぐに」「そのまま」という意味。よって、正解はエ。

③ 「さま（を）かふ」は「出家する」ということ。よって、正解はイ。「出家」を表す単語はたくさんある。第六講で学んだ単語をしっかり覚えておくこと。

〔解答〕

① イ　② エ　③ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。